

Syllabus

2023 年度

国際医療福祉専門学校
救 急 救 命 学 科

授業科目	数学	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	小方 真	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。		
行動目標	数学の基礎を学び、原理、原則の理解を深める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	暗号		
	命題		
	発言からの推理問題		
	対応関係		
	試合の勝敗		
	順序関係		
	位置関係と方位		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	公務員試験(一般知能)対策講座		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目		統計学	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		小方 真	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。			
行動目標	統計の基礎を学び、原理、原則の理解を深める。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	道順			
	操作の手順			
	平面図形の構成・分割			
	軌跡の問題			
	多面体・展開図			
	投影図			
	立体図面の構成・立体の切断			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	公務員試験(一般知能)対策講座			
参考書・資料等				
履修上の注意				

授業科目		論理学	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		小方 真	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。			
行動目標	論理の基礎を学び、原理、原則の理解を深める。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	数的推理で使う計算の基礎			
	方程式・不等式			
	比・割合の問題			
	速さの問題およびその応用			
	倍数と約数			
	記数法			
	虫食い算			
	魔法陣			
	数列			
	場合の数			
	確率			
	平面図形(平行線・多角形)			
	平面図形(円)			
	立体図形			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	公務員試験(一般知能)対策講座			
参考書・資料等				
履修上の注意				

授業科目		社会学	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		高橋 進一	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。			
行動目標	日本社会しくみの基礎を学び、原理、原則の理解を深める。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	民主政治の基本原理			
	日本国憲法の基本的性格			
	日本国憲法と政治機構			
	現代の日本政治			
	現代の国際政治			
	経済社会の変容と現在経済のしくみ			
	経済活動と福祉の向上、国民経済と国際経済			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	理解しやすい政治・経済、上・中公務員一般知識まるごとチェック			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		人文学	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		須釜 幸男	オフィスアワー	
一般目標	人文学的素養を高め、医療人としての心や教養の大切さを考える			
行動目標	人間性を養い柔軟かつ客観的判断力を培い主体的な実践力を身につける。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	古代ギリシャ、ヘルシズム哲学			
	近代ヨーロッパ哲学			
	現代ヨーロッパ哲学			
	三大宗教			
	中国儒教思想			
	江戸、明治思想			
	現代思想			
	古代・中世の歴史			
	近世・近代の歴史			
	現代の歴史			
	ヨーロッパの歴史			
	アジア・アフリカの歴史			
	アメリカ・ラテンアメリカの歴史			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書				
参考書・資料等	別刷りプリント			
履修上の注意				

授業科目		国語・英語	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		須釜 幸男	オフィスアワー	
一般目標	文学的素養を高め、医療人としての心の大切さを考える。			
行動目標	人間性を磨き、柔軟で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	日本の文学と歴史について			
	読解の基礎			
	古文や漢文の基礎的読解			
	近現代の文芸思想			
	実践的問題の習練			
	単語力、塾語力			
	構文力、文型の確認			
	長文読解のコツ			
	米英のマナー、接遇用例			
	身体部位の英語			
	英文医療漫画の台詞の分析			
	医療映画の台詞の分析			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書				
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		自然科学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	科学的、生物学的な自然観を身につける。			
行動目標	自然科学における「再現性」と「普遍性」の重要性を理解する。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～7回目	生物を構成する物質、生体物質			
	身体内外の圧力			
	細胞、細胞分裂			
	電気、遺伝情報			
	人体の階層構造、			
	生体防御機能と免疫、オメオスターシス			
	成長と老化			
8回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	楽しくわかる生物・科学・物理			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		解剖生理学 I	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		外井 都貴	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとなる知識を学習する。			
行動目標	人体の構造と名称について説明できる。 人体のつくりと役割を細胞、組織、臓器の概念から説明できる。 神経系の構成と役割、機能、臓器に及ぼす作用等を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	人体を構成する要素			
	体表からみる人体の構造			
	神経系・感覚系			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P56～62、P63～76、P77～96 人体の構造と機能、からだの地図帳			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		解剖生理学Ⅱ	履修年次	1年次
			単位数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		外井 都貴	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとになる知識を学習する。			
行動目標	呼吸系の構造、機能、役割を説明できる。 循環系の構成と役割、脈管を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	呼吸系			
	循環系			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P97～107、P108～118 人体の構造と機能、からだの地図帳			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		解剖生理学Ⅲ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		外井 都貴	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとなる知識を学習する。			
行動目標	消化系の役割を消化、吸収、排泄の観点から説明できること。 泌尿系の役割を排泄と体液のバランスを中心に説明できる。 生殖系の構造と役割を説明できる。 内分泌系、血液・免疫系の役割と機能について説明できる。 筋・骨格系、皮膚系の構造と機能について説明できる。 まとめ			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	消化系			
	泌尿系			
	生殖系			
	内分泌系			
	血液・免疫系			
	皮膚系			
	生命の維持			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P119～162			
	人体の構造と機能、からだの地図帳			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		法医学・病理学Ⅰ	履修年次	1年次
			単位数	3単位
授業形態		講義	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員		塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	疾病および障害に関する知識を系統的に習得する。			
行動目標	疾患、細胞傷害、炎症、感染、循環障害の原因と病態を説明できる。 腫瘍とは何か、分類、身体的特徴について説明できる。 損傷の定義、治癒について説明できる。 死の概念、死体現象、判断基準について説明できる。 まとめ			
キーワード				
スケジュール				
1回目～22回目	疾患			
	細胞傷害			
	炎症			
	感染			
	循環障害			
	腫瘍			
	損傷と治癒			
	死			
	まとめ			
23回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P164～197			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		法医学・病理学Ⅱ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	疾病および障害に関する知識を系統的に習得する。			
行動目標	病因や病変、傷害、損傷、腫瘍などの疾病の基本を理解する。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～7回目	法医学			
	病理学			
	まとめ			
8回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P164～197			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		公衆衛生	履修年次	1年次
			単位数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		須釜 幸男	オフィスアワー	
一般目標	集団レベルでの健康の増進と疾患の予防を学ぶ。目標は、公衆衛生学的な考え方を身につけること。			
行動目標	社会の中で、疾病と健康を保つための理論と実践を習得する。 社会、疾病、障害と生活の関わり of 基礎的な概念を習得する。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～7回目	公衆衛生の仕組み			
	医療を取り巻く環境			
	医療供給体制			
	さまざまな保健衛生			
	まとめ			
8回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P20～39			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

学校整理番号(110)

授業科目	社会保障・社会福祉	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	須釜 幸男	オフィスアワー	
一般目標	社会福祉は、一定の歴史的生成を発展を経て、それ自体の機能と目的をもって存在する一つの社会制度である。しかし、それはまた、さまざまな人々のニーズに対して行われる実践的な営みである。		
行動目標	社会保障の仕組みと費用について説明できる。 医療保障制度について説明できる。 介護保険制度について説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	社会保障とその仕組み		
	社会保険		
	社会福祉と公的扶助		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P40～52		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目		救急医学概論	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者としての基本的概念を理解する。また、救急医療体制を理解する。			
行動目標	基本的概念を理解する。 救急活動の流れを理解する。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	人間と人間生活			
	科学的思考の基礎			
	生命倫理と医の倫理			
	救急医療体制			
	災害医療体制			
	病院前医療体制			
	消防機関における救急活動の流れ			
	救急救命士の役割と責任			
	救急救命士と傷病者の関係			
	救急救命士に関連する法令			
	救急救命士の養成と生涯教育			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P4～16、P218～275			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		救急処置概論Ⅰ	履修年次	1年次
			単位数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		千葉 勉	オフィスアワー	
一般目標	救急処置における基本的概念を理解する。各種個別手技に対する基本的概念を理解する。			
行動目標	各種個別手技に対する基本的概念を理解できる。 各種個別手技に対する基本的概念を説明できる。 対象者の観察を通して、状況、状態を判断できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	観察			
	現場活動の基本			
	全身状態の観察			
	局所の観察			
	緊急度・重症度判断			
	資器材による観察			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P300～343 JPTECガイドブック			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		救急処置概論Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	3単位
授業形態		講義	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員		千葉 勉	オフィスアワー	
一般目標	救急処置における基本的概念を理解する。各種個別手技に対する基本的概念を理解する。			
行動目標	各種個別手技に対する基本的概念を理解できる。 各種個別手技に対する基本的概念を説明できる。 対象者の観察を通して、状況、状態を判断できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～22回目	救急救命士が行う処置			
	救急蘇生法			
	在宅療法継続中の傷病者の処置			
	傷病者搬送			
	まとめ			
23回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P344～358、P357～382、P395～415、P429～451			
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻) 別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		救急処置概論Ⅲ	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		千葉 勉	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士に必要な特定行為を理化し、実践するための概念を理解する。			
行動目標	救急救命処置の目的、適応、禁忌、手技、合併症について説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～7回目	気管挿管(ビデオ硬性喉頭鏡)			
	気管吸引			
	静脈路確保と輸送			
	アドレナリン投与			
	自己注射用アドレナリンの投与			
	ブドウ糖の投与			
	まとめ			
8回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P358～367、P383～394			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		薬物・検査	履修年次	2年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		塚本 淳智・松岡 隆	オフィスアワー	
一般目標	使用方法や対象者を理解する。検査の目的を理解し、治療方針を理解する。			
行動目標	薬物とは何かを説明できる。 薬物の代謝について説明できる。 薬物の投与経路による違いを説明できる。 検査の種類を列挙し説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	薬物総論			
	薬物の有害作用			
	救急救命処置に用いられる薬剤			
	注意を要する常用薬			
	重要な静脈内投与薬			
	検査の種類、緊急検査			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂10版 P200～214			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		安全管理	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	医療に関わるリスクを管理するとともに患者および医療者の安全を確保できるようにする。			
行動目標	安全管理の目的を説明できる。 事故の発生におけるヒューマンエラーについて説明できる。 感染経路の種類を列挙し、それぞれについて説明できる。 ストレス、ストレス対応、ストレス障害、について説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～7回目	安全管理			
	リスクマネジメント			
	傷病者の事故			
	救急活動における事故の報告と対応			
	感染防止策と感染防御			
	洗浄と消毒			
	感染事故と感染後の対応			
	救急活動でのストレス			
	救急活動でのストレスへの対応			
	まとめ			
8回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P276～297			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		救急症候学Ⅰ	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		澤地 紀子	オフィスアワー	
一般目標	心肺機能停止を理解し、心肺蘇生法を学習する。			
行動目標	心肺停止の概念について説明できる。 成人・小児・乳児の心肺蘇生法について具体的に説明できる。 国内の院外心肺停止の疫学について要点を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～7回目	成人の救急蘇生法			
	小児の救急蘇生法			
	乳児の救急蘇生法			
	心肺停止の総論			
	心肺停止に至る病態と原因			
	心電図分類			
	心肺蘇生中の循環			
	心肺再開後の病態			
	まとめ			
8回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P376～378 P477～485 救急蘇生法の指針2015(市民用、解説編)			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		救急症候学Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		及川 香織	オフィスアワー	
一般目標	各種症候の病態生理について理解し、症候、病態ごとに観察、評価、処置および搬送法に関する知識を系統的に習得する。			
行動目標	呼吸不全の定義を説明できる。 心不全の定義を説明できる。 ショックの定義を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	呼吸不全総論			
	低酸素血症の発生機序			
	高二酸化炭素の発生機序			
	換気障害			
	心不全総論			
	病態生理			
	ショック総論			
	症候・心不全の種類			
	ショックの総論			
	循環血液量減少性ショック・心原性ショック・心外閉塞・拘束性ショック・血液分布異常性ショック			
	胸痛			
	動悸			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P454～469、P522～528			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		救急症候学Ⅲ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		澤地 紀子	オフィスアワー	
一般目標	呼吸不全、呼吸困難、喀血を理解するように学習することを目指す。			
行動目標	呼吸困難の定義を述べ性状を列挙できる。 喀血の定義を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	呼吸困難の定義・概念			
	呼吸困難の分類			
	原因疾患			
	随伴症候			
	緊急度・重症度の判断			
	現場活動			
	喀血の定義・概念			
	喀血の分類			
	喀血による影響			
	喀血の原因疾患			
	喀血の判別を要する病態			
	緊急度・重症度、現場活動			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P511～518			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		救急症候学Ⅳ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		澤地 紀子	オフィスアワー	
一般目標	重症脳障害、意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺、めまい、失神などの症状について理解する。			
行動目標	意識障害の概念について意識レベル、意識内容、意識の広さの面から説明できる。 痙攣、運動麻痺、めまいの定義が説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	意識障害			
	頭痛			
	痙攣			
	運動麻痺			
	めまい			
	一過性意識消失と失神			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P488～510、P519～521			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		救急症候学Ⅴ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		及川 香織	オフィスアワー	
一般目標	症状に対する、適切な行動をとれるよう学習する。			
行動目標	腹痛を痛みの発症機序によって3つに分類し、それぞれの機序について説明できる。 吐血と下血の定義をそれぞれ説明できる。 腰痛、背部通の原因となる主な内臓疾患をあげ、それぞれの判断の手がかりについて要点を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	腹痛			
	吐血・下血			
	腰部・背部痛			
	体温上昇			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P529～544			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		救急症候学Ⅵ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		千葉 勉	オフィスアワー	
一般目標	心肺停止前の輸液、ブドウ糖投与について理解する。			
行動目標	心肺停止前の輸液、ブドウ糖投与について理解し、対応できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～7回目	総論			
	心電図分類			
	心拍再回復の病態			
	ブドウ糖投与による病態			
	ブドウ糖投与による変化			
	まとめ			
8回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		疾病救急Ⅰ	履修年次	1年次
			単位数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。			
行動目標	神経系の救急疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要を説明できる。 呼吸器疾患の主要な症候をあげ、それぞれの概要を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	神経系疾患の総論			
	脳血管障害			
	中枢神経系の感染症			
	末梢神経疾患			
	その他の中枢神経疾患			
	呼吸器疾患の総論			
	呼吸不全			
	上気道の疾患			
	下気道と肺胞の疾患			
	感染症			
	胸膜疾患			
	その他の呼吸系疾患			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P546～566			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		疾病救急Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		及川 香織	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる。疾病に関する知識の理解を深める。			
行動目標	循環系疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要説明できる。 急性腹症の概要を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	循環器系疾患の総論			
	動脈硬化			
	虚血性心疾患			
	心筋疾患			
	心膜疾患			
	不整脈			
	心電図の観察			
	その他の心疾患			
	血管疾患・高血圧			
	消化系疾患総論			
	歯・口腔疾患			
	食道疾患、胃・十二指腸疾患、腸疾患、急性腹膜炎、肝臓・胆道・膵臓の疾患			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P567～596			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		疾病救急Ⅲ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。			
行動目標	泌尿・生殖系で重要な症候をあげ、それぞれ説明できる。 代謝・内分泌・栄養系疾患の主な症候を列挙できる。 血液・免疫系疾患の主な症候をあげ、それぞれについて概要を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	泌尿、生殖系疾患の総論			
	腎臓の疾患			
	尿路の疾患			
	女性生殖器の疾患			
	男性生殖器の疾患			
	代謝、内分泌、栄養系疾患の総論			
	糖尿病とその合併症			
	その他の代謝異常			
	内分泌疾患			
	栄養疾患			
	血液・免疫系疾患の総論			
	血液系疾患・免疫系疾患・アナフィラキシー			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P597～621			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		疾病救急Ⅳ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		佐藤 真吾	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。			
行動目標	筋・骨格系疾患の救急医療における意義について説明できる。 現場活動で重要な皮疹をあげ、それぞれについて概要を説明できる。 眼の救急疾患で重要な症候をあげ、それぞれについて説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～7回目	筋・骨格系疾患の総論			
	脊椎疾患			
	関節疾患			
	筋疾患			
	皮膚系疾患の総論			
	皮膚、軟部組織の感染症			
	アレルギー性疾患			
	その他の皮膚疾患			
	眼・耳・鼻の疾患の総論			
	眼の疾患			
	耳の疾患			
	鼻の疾患			
	まとめ			
8回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P622～634			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		疾病救急Ⅴ	履修年次	2年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		中川 朝美・塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。			
行動目標	正常な発育の目安を説明できる。 加齢による身体機能の変化について説明できる。 排卵から着床までの経過を簡単に説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	小児に特有な疾患の総論			
	観察を判断			
	主な疾患			
	高齢者に特有な疾患の総論			
	主な疾患			
	妊娠・分娩と救急疾患			
	正常妊娠			
	異常妊娠と妊娠中の異常			
	正常分娩・異常分娩・観察と処置			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P644～675			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		疾病救急Ⅵ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。			
行動目標	新興感染症、再興感染症、輸入感染症、耐性菌について、それぞれ簡単に説明できる。 精神障害の原因、症状の両面から分類し、それぞれについて簡単に説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～7回目	感染症の総論			
	敗血症			
	結核			
	インフルエンザ			
	食中毒			
	輸入感染症			
	発疹性感染症			
	性感染症			
	皮膚・軟部組織の感染症、その他の感染症			
	精神障害の総論			
	主な精神障害			
	向精神薬の主な副作用			
	まとめ			
8回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P635～643 P676～686			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		外傷Ⅰ	履修年次	1年次
			単位数	4単位
授業形態		講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士が現場に到着して判断できるように学習する。			
行動目標	外傷の定義、救急搬送における外傷の位置づけ、防ぎ得た外傷死、ロード・アット・ホーム・トラウマバイパスについて説明できる。 状況評価、初期評価の目的、評価項目を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～29回目	外傷の患者数、外傷による死亡			
	受傷機転とエネルギー			
	外傷の分類・主な受傷形態			
	侵襲への反応、外傷に伴うショック、外傷によるショックに対する輸液			
	外傷の現場活動、状況評価・傷病者の評価・			
	頭部外傷			
	顔面・頸部外傷			
	脊椎・脊髄外傷			
	胸部外傷			
	腹部外傷			
	骨盤外傷			
	四肢外傷、小児・高齢者・妊婦の外傷			
	まとめ			
30回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P688～759			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		外傷Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		及川 香織	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士が現場に到着して判断できるように学習する。			
行動目標	熱傷の原因と疫学的な特徴について説明できる。 化学損傷の概念を述べることができる。 哺乳類による主な咬症をあげ、それぞれの病態と合併症について説明できる。 気道異物の種類と特徴を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	熱傷			
	化学損傷			
	電撃症・雷撃症			
	縊頸・絞頸			
	刺咬症			
	異物			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P760～785 P808～811			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

学校整理番号(110)

授業科目		環境傷害と中毒	履修年次	2年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		田中 久夫・花田 邦和	オフィスアワー	
一般目標	環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見および予後等について理解し、観察、評価、処置を系統的に習得する。			
行動目標	問合せの多い中毒物質の種類を説明を説明できる。 気道異物の種類と特徴を説明できる。 溺水の起因因子を説明できる。 熱中症の発生しやすい季節を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～14回目	中毒総論			
	中毒各論			
	溺水			
	熱中症			
	偶発性低体温			
	放射線障害			
	その他の環境傷害			
	まとめ			
15回目	認定試験			
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P796～807 P812～839			
参考書・資料等	別刷りのプリント			
履修上の注意				

授業科目		応急処置Ⅰ	履修年次	1年次
			単位数	2単位
授業形態		実習	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員		花田 邦和・千葉 勉・大園 雄一・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	一般市民でも可能な応急手当の目的と意義を学び、その技術の習得を図る。			
行動目標	止血法、三角巾法、搬送法を習得する。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～44回目	三角巾法(折り方、結び方、吊り方)			
	止血法(直接圧迫止血法、関節圧迫止血法、止血点止血法)			
	搬送法(従手搬送、簡易担架による搬送、布担架による搬送)			
	体位管理			
	怪我に対する応急手当			
	副子固定(上肢、下肢の保護および固定方法)			
	やけどに対する手当			
	まとめ			
45回目	認定試験			
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版			
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)			
履修上の注意				

授業科目		応急処置Ⅱ	履修年次	1年次
			単位数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員		花田 邦和・千葉 勉・大園 雄一・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	救急で使用する資器材について、操作方法を学び観察要領を理解、習得する。			
行動目標	資器材の取扱い方法を習得する。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～44回目	聴診器			
	ペンライト			
	血圧計			
	パルスオキシメーター			
	搬送器材			
	呼吸器			
	半自動式除細動器			
	十二誘導心電図			
	ショックパンツ			
	マジックギブス			
	ネックカラー			
45回目	認定試験			
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版			
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)			
履修上の注意				

学校整理番号(110)

授業科目		救急救命処置Ⅰ	履修年次	1年次
			単位数	3単位
授業形態		実習	必要時間数	135時間(68コマ)
担当教員		花田 邦和・千葉 勉・大園 雄一・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	傷病者に対し安全かつ迅速に資器材を取り付け、バイタル観察およびモニタリングし、悪化の防止、苦痛の軽減をしつつ救命できる活動体制を構築を図る。			
行動目標	標準課程Ⅰ(隊連携活動要領)を身につける。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～67回目	効果的かつ確実な心肺蘇生法の習得			
	バイタルサインの観察と測定			
	異物除去(背部叩打、ハイムリック、喉頭展開)			
	気道確保と酸素投与			
	止血コントロール			
	三角巾による被覆、固定処置			
	状況に応じた体位管理と搬送方法の理解と習得			
	除細動			
	接遇およびインフォームドコンセント			
68回目	認定試験			
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版			
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)			
履修上の注意				

授業科目		救急救命処置Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		実習	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員		花田 邦和・千葉 勉・大園 雄一・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	特定行為の中でも基本となるものであり、まずは手技を確固たるものとし、適応や禁忌を理解、習得する。			
行動目標	器具を用いた気道確保(挿管除く) 静脈路確保の手技を身につける			
キーワード				
スケジュール				
1回目～44回目	清潔操作			
	感染防護			
	特定行為指示要請、インフォードコンセント			
	チューブによる気道確保			
	静脈路確保			
	上記を習得しながらのシナリオ付与想定訓練			
	まとめ			
45回目	認定試験			
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版			
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)			
履修上の注意				

授業科目		救急救命処置Ⅲ	履修年次	2年次
			単 位 数	3単位
授業形態		実習	必要時間数	135時間(68コマ)
担当教員		花田 邦和・千葉 勉・大園 雄一・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	特定行為においてもより慎重な操作を的確に実践できる能力を身につける。			
行動目標	気管挿管の手技を身につける。 薬剤投与の手技を身につける。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～67回目	気管挿管に必要な医学知識			
	心肺停止に至る病態			
	気管挿管の手順			
	ディフィカルトエアウェイ			
	気管挿管後の人工呼吸措置			
	メディカルコントロール体制			
	薬剤投与に必要な医学知識			
	薬剤の保管、管理、取扱いの実態			
	薬剤投与の準備と実施			
	薬剤投与プロトコル			
	薬剤、注射器等の廃棄と安全管理			
68回目	認定試験			
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版			
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)			
履修上の注意				

授業科目		総合演習Ⅰ	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		実習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員		花田 邦和・千葉 勉・大園 雄一・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	習得した技術、知識を活用しより円滑な連携を図り、総合的な判断・処置ができるよう養成する。			
行動目標	講義、実習で学んできた知識、術、連携の醸成を図る。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～22回目	シナリオ想定訓練			
	・出勤、感染防止、状況評価			
	・初期評価、観察、接遇、応急処置			
	・気道確保			
	・静脈路確保			
	・薬剤投与			
	・効率的かつ安全確実な搬送法の習得			
	・社内活動			
	マラソン救護			
23回目	認定試験			
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版			
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)			
履修上の注意				

授業科目		総合演習Ⅱ	履修年次	2年次
			単 位 数	3単位
授業形態		実習	必要時間数	135時間(68コマ)
担当教員		花田 邦和・千葉 勉・大園 雄一・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	習得した技術、知識を活用しより円滑な連携を図り、総合的な判断・処置ができるよう養成する。			
行動目標	講義、実習で学んできた知識、技術、連携の醸成を図る。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～67回目	シナリオ想定訓練			
	・出勤、感染防止、状況評価			
	・初期評価、観察、接遇、応急処置			
	・気道確保			
	・静脈路確保			
	・薬剤投与			
	・効率的かつ安全確実な搬送法の習得			
	・社内活動			
	マラソン救護			
68回目	認定試験			
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版			
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)			
履修上の注意				

授業科目		救急用自動車同乗実習	履修年次	2年次
			単 位 数	4単位
授業形態		実習	必要時間数	180時間(90コマ)
担当教員		花田 邦和・千葉 勉・大園 雄一・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践力を身につけ、医療従事者としての自覚と専任感を養う。			
行動目標	消防業務の一日の流れを体感することで、自分の進むべき道を明確なものとし、今後の学習に活かすことを目的とする。			
キーワード				
スケジュール				
	オリエンテーション			
	学内授業			
	・訓練用救急車を利用しての想定訓練			
	学外授業			
	・各市町村の消防署へ実際に出向き救急車への同乗をさせてもらう。一人当たり4当直1日勤。			
評価方法	活動記録レポートを提出			
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第10版			
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)			
履修上の注意				

学校整理番号(110)

授業科目		臨床実習	履修年次	2年次
			単 位 数	5単位
授業形態		実習	必要時間数	225時間(113コマ)
担当教員		各病院における指導者	オフィスアワー	
一般目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践力を身につけ、医療従事者としての自覚と専任感を養う。			
行動目標	第三次救急医療機関において習得した知識を的確かつ安全に応用できる十進力を身につける。			
キーワード				
スケジュール				
		学内において病院前研修の確認授業		
		バイタルサインの観察		
		身体所見の観察		
		モニター装着		
		酸素投与		
		胸骨圧迫		
		点滴ラインの準備		
		ナーシングケア		
		一人当たり7当直2日勤(180時間)		
評価方法	活動記録レポートを提出			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版			
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)			
履修上の注意				

学校整理番号(110)

授業科目		国家試験対策	履修年次	2年次
			単位数	8単位
授業形態		講義	必要時間数	120時間(60コマ)
担当教員		花田 邦和	オフィスアワー	
一般目標				
行動目標	専門基礎分野、専門分野を理解する。			
キーワード				
スケジュール				
	模擬試験			
	模擬試験解説			
	補講			
	ワークシート作成			
評価方法				
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂9版			
参考書・資料等				
履修上の注意				

授業科目	基礎演習 I	履修年次	1年次
		単 位 数	3単位
授業形態	講義・実習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	花田 邦和	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士を目指す者、消防職員を目指す者へ心得等を学ばせる。		
行動目標			
キーワード			
スケジュール			
	体力測定		
	体育		
	ICT教育		
	講演		
	報告会		
評価方法			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂9版		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	基礎演習Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	花田 邦和	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士を目指す者、消防職員を目指す者へ心得等を学ばせる。		
行動目標			
キーワード			
スケジュール			
	体力測定		
	体育		
	ICT教育		
	講演		
	報告会		
評価方法			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂9版		
参考書・資料等			
履修上の注意			

Syllabus

2023 年度

国際医療福祉専門学校
リハビリテーション学科
理学療法士コース

授業科目	生命倫理 I	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金8:30～17:20
一般目標	骨を通して一般的倫理観を理解していきます		
行動目標	一般的倫理観を身に付ける 医療人としての倫理を身に付ける		
キーワード	倫理		
スケジュール			
1回目	骨模型ならべ		
2回目	骨模型ならべ		
3回目	骨模型ならべ		
4回目	骨模型ならべ		
5回目	生命倫理とは		
6回目	生命倫理とは		
7回目	生命倫理とは		
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、レポートにて判断します。		
教科書	特にありません		
参考書・資料等	特にありません		
履修上の注意	提出物などしっかりと期限内に提出をしましょう		

授業科目	生命倫理Ⅱ	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・グループワーク	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	保健医療福祉の分野において、生じている倫理的問題について学ぶ。 事例を通し、自分の考えを述べることを大切にするとともに、他者の意見も尊重し、ともに考えることができる。		
行動目標	・医療の発展に伴い、生じている倫理的な課題について説明できる。 ・将来の実践現場において起こりうる倫理的課題について、自分の考えをまとめ、他者に伝えることができる。 ・個人的な意見だけではなく、他者の意見も尊重し、柔軟に考えられるようになる。		
キーワード	運動企画、運動制御、運動学習		
スケジュール			
1回目	生命倫理とは		
2回目	インフォームド・コンセントとは	「説明と同意」「知る権利、知らない権利」	
3回目	移植医療について考える	脳死と臓器移植	
4回目	超高齢化社会について	身体拘束、虐待防止、意思決定支援	
5回目	出産と生殖補助医療について考える	AIHとAID、クローン、出生前検査	
6回目	死について考える	安楽死と尊厳死、延命治療、緩和ケア、リビングウィル	
7回目	ターミナルケア	患者様・ご家族様の気持ちを考える ACPについて	
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	授業内で行う小テスト1割、提出課題9割にて判断します。		
教科書	授業で使用する資料は随時配布します。		
参考書・資料等	授業で使用する資料は随時配布します。 必要な教科書や資料は随時お知らせします。		
履修上の注意	出来る限り主体的に、積極的に参加するようにしてください。		

授業科目	心理学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	月～金8:30～17:20
一般目標	心理学は、人間を理解することと深く結びついている。心の働きのメカニズム、発達過程、对人的影響について基礎的な知識を習得する。		
行動目標	心理学の主要な研究領域の特徴を説明できる 人間の心の代表的な認知メカニズムについて説明できる 人間の心の発達過程について説明できる 人間の心の社会との相互関係について説明できる		
キーワード	こころ、適応、しくみ		
スケジュール			
1回目	心理学とは なぜ心理学を学ぶのか？心理学の種類		
2回目	学習心理学①：動機づけと情動 やる気の心理学		
3回目	学習心理学②：記憶と学習 忘却曲線、短期記憶と長期記憶、フィードバック、フィードフォワード		
4回目	性格心理学：自分のことを知ろう		
5回目	知覚心理学：外界を認知する仕組み		
6回目	情動と思考：自分の考え、感情はどこから来るのか		
7回目	社会心理学：行動の促進と抑制		
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	適宜資料を配布します		
参考書・資料等	心理学・入門、サトウタツヤ・渡邊芳之、有斐閣アルマ		
履修上の注意	授業を聞くだけでなく、自分の意見を話すようにしていきましょう		

授業科目		教育学		履修年次	1年次
				単 位 数	1単位
授業形態		講義ならびに演習		必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		藤川孝彦		オフィスアワー	月～金 8:30～17:30
一般目標	作業療法士・理学療法士を取り巻く社会では、教育に携わる機会を挙げると暇がないのが実情である。よって本講では教育学の基礎知識を紹介しながら、教育学的思考の初歩を経験する場を提供する。内容は、作業療法士・理学療法士に必要なスキルを、講義・演習を通じて学びとクラスの親睦の深まりも追求したい。最終的には深い人間理解に根ざした教育観を養うことを目標とする。				
行動目標	「教えること」から「学ぶこと」への気づきが、ひいては患者教育へとつながることを理解する。そして、作業療法士・理学療法士の役割と教育の意義を理解できること。				
キーワード	教育 しつけ 方法論 古典 行動分析				
スケジュール					
1回目	ガイダンス 教育学とは何か？ 目的と意義 ヒトにとっての学び				
2回目	情報伝達とコミュニケーション(1) その方法				
3回目	情報伝達とコミュニケーション(2) 情報受発信力 討論・対話力 (1)				
4回目	情報受発信力 討論・対話力 (2)				
5回目	古典から考える(1)				
6回目	古典から考える(2)				
7回目	古典から考える(3)				
8回目	Summary オペラントの行動分析から考える 作業療法・理学療法への展望				
評価方法	原則として定期試験で評価する。ただし、場合によってはグループワーク等の受講取組態度を加味することがある。				
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。				
参考書・資料等	参考図書： 佐野洋子著 『100万回生きたねこ』(講談社)				
履修上の注意	講義では毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら将来の自身の作業療法・理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。				

授業科目	社会の理解	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・一部演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦(社会学士)	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	「社会」は、色々な意味を含んでいるが、自身の経験や常識(だけ)に基づき、「社会」についてを曖昧に理解しがちである。その「社会」を構成するのは、作業療法・理学療法の対象となる人間であり、帰属集団といえる。本講では、集団構成員の人間の一面を理解し、家族、地域社会、国家という社会集団について学習する。次いで、医療・理学療法界を取り巻く諸課題を関連させて考えることができるようにすることを目標とする。		
行動目標	●「社会」について多角的に理解するとともに、人間と社会の関連について認識を深める。 ●医療従事者としての社会との関わりについての豊かなイメージを培う。		
キーワード	社会とは 家族 ジェンダー 自己と他者 アノミー		
スケジュール			
1回目	ガイダンス～ イントロダクション——社会学とはどんな学問か？		
2回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 1) 自己——「見る自分」と「見られる自分」		
3回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 2) 家族とジェンダー		
4回目	相互作用——社会的ネットワーク 地域社会の変化と問題点(都市部と農村部)		
5回目	地域社会の変化と問題点(現代の都市型社会における地域問題)		
6回目	貧困と社会的排除(デュルケムによる)		
7回目	他者との関わり—教育の観点から		
8回目	まとめ		
評価方法	・定期試験 ・授業態度・演習取組状況を総合的に勘案し評価する。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	参考図書： E.デュルケム(著), 宮島 喬(翻訳) 『自殺論』(中公文庫) 他		
履修上の注意	講義・演習の進捗により予定変更ありえます。 医療が社会の中の行為、事業であることを意識したうえで、社会がつねに変化の中にあること、また、改良すべき問題点を生み出していることを意識してください。講義では毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら扱うテーマについて調べ、関心をもって講義に生かしてください。		

授業科目		法学		履修年次	1年次
				単 位 数	1単位
授業形態		講義・一部演習		必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		藤川孝彦		オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	医療、福祉をはじめ、作業療法士・理学療法士を取り巻く社会は、理学療法士・作業療法士法をはじめ医師法等に従って規律・実行され、問題が処理されている。こうした法現象を、分析、理解し、社会における法制度の役割を理解できるよう講義をすすめていく。内容は、作業療法士・理学療法士に密接な個人情報守秘義務など法律的問題を取り上げ、これらを、憲法の基本原理を参照しながら、論理的に理解できるようになることを目標としたい。				
行動目標	人権が保障され民主的で平和な社会を構築していくために、憲法や法律がどのように社会を規律しているか、そして、それが日常生活にどのように生かされて、個人情報保護法等を概観し、医療、福祉など国民生活における法制度の役割と意義を理解できる。				
キーワード	国家 法の精神 道徳 倫理 個人情報 日本国憲法				
スケジュール					
1回目	ガイダンス ～法を学ぶことについて 法の精神(ロック)				
2回目	法とは何か？ 国家 道徳・正義・倫理・規範				
3回目	ルール・マナー				
4回目	罪 罰				
5回目	医療者の法的責任（理学療法士の身近な法と罰）				
6回目	個人情報1				
7回目	個人情報2				
8回目	日本国憲法と法の意義 ～憲法にみる人権～				
評価方法	原則として定期試験で評価する。演習（課題含む）等の受講取組態度を勘案することがある。				
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。				
参考書・資料等	参考図書： 『日本国憲法』（小学館）				
履修上の注意	講義・演習の進捗により予定変更ありえます。 講義は毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら将来の自身の作業療法、理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。				

授業科目		人間関係論	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		土屋 景子	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	対人援助職としての理学療法士について,自己概念を知ることによって他者との関わりを模索し,コミュニケーション力を高め,人間について考えていく。			
行動目標	自己肯定感を持ち,心身ともに健康管理ができる。 人間性を高め,人として自分を成長させる。 主体性をもって行動ができる自立した人間となる。 対人援助職として必要不可欠なコミュニケーション能力を高める。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	対人関係と役割			
2回目	人間関係の形成			
3回目	人間関係の自己と他者			
4回目	コミュニケーションとは…			
5回目	コミュニケーション技法① 言語			
6回目	コミュニケーション技法② 非言語			
7回目	コミュニケーション技法③ 共感・傾聴・繰り返し			
8回目	人間の多面的理解			
9回目				
10回目				
11回目				
12回目				
13回目				
14回目				
15回目				
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。			
教科書	特に無し。			
参考書・資料等	適宜、資料配布します。			
履修上の注意	授業内で自らの内面についてワークに取り組む時間を設けています。ありのままの自分の心を反映できるような姿勢で取り組むことが大切です。「望ましい答え」を探すのではなく,本来の自分の思考をout putできるよう心掛けてください。			

授業科目		物理学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		姉川 秀治	オフィスアワー	
一般目標	身近な力学現象(モノと運動)を、自分の言葉で捉え直して、自分自身の力学的自然観を創造する。			
行動目標	運動の第1法則を自分の言葉で捉え直し、モノの存在について理解を深める。 運動の第1・第2法則を自分の言葉で捉え直し、運動概念の理解を深める。 運動の第2法則を捉え直し、因果論的説明が納得の形式であることを知る。 運動の第3法則を捉え直し、力がモノとモノとの相互作用であることを理解する。 力を図象化することで理解を深める。 練習問題は、すすんで取り組んで理解する。			
キーワード	自分の言葉、捉え直し、モノ、運動、力			
スケジュール				
1回目	相対速度の考察から運動概念を揺さぶる 自然観の歴史を振り返る			
2回目	運動の第1法則 モノの存在と運動 多様な表現、モノの存在論			
3回目	速度、加速度の概念整理 $v \sim t$ グラフを使って運動学の初歩を整理			
4回目	運動の第2法則 外力と速度変化の因果関係 モノの世界の因果律			
5回目	力概念の整理と静力学の初歩 力のモーメント 浮力			
6回目	運動の第3法則 力は相互作用 モノの世界の言葉 モノの世界の関係論			
7回目	力を図示して運動の法則を振り返る 光について てこについて			
8回目	Energy(運動方程式積分型、Energy概念一般) 練習問題を中心に総復習			
9回目				
10回目				
11回目				
12回目				
13回目				
14回目				
15回目				
評価方法	筆記試験(100%) 力学的自然観についての自主提出レポート(最大15点の加点あり) ただし、最大点数は100点とする。			
教科書	担当教員による描き下ろし資料「力学の世界へ」			
参考書・資料等				
履修上の注意	特別な予備知識は不要だが、「言葉」にきちんと向き合うことが必要である。 テキストは、毎回持参する必要がある。			

授業科目	情報科学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金:8:30～17:20
一般目標	昨今、情報化社会となった今、中高生からパソコンを使用することが当たり前となっている。また、臨床の現場においてもパソコンでの管理が標準となっている。この講義では、一般的なPCを使用し、ワード、エクセル、パワーポイントを使い、特にエクセルの統計について概略をつかめることを目標とする。		
行動目標	パソコンを使用してマイクロソフト Officeを使用することができる。 文章を打つためのタイピングをスムーズに行うことができる。 統計処理という概念を理解することができる。		
キーワード	パソコン, マイクロソフト Office, Excel		
スケジュール			
1回目	パソコンの使用について		
2回目	文章のタイピング及びイラストの挿入等、紙面の体裁について		
3回目	統計処理について(意義、概念)		
4回目	統計処理について(方法ほか)1		
5回目	統計処理について(方法ほか)2		
6回目	統計処理について(方法ほか)3		
7回目	国家試験に出る統計処理		
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	提出物のWord、Excel、PowerPointの作成データで評価する。		
教科書	特に指定する教科書はない代わりに各自がパソコン、マイクロソフト Office(Word、Excel、PowerPoint)に関しての知識を身に付けておく必要がある。 Officeに関しては、それに準じたものであれば代用可能だが、使用方法については各自が勉強すること。		
参考書・資料等	都度、配布します。		
履修上の注意	授業開始までに各自でノートパソコンを用意する。パソコンを2回以上忘れた場合、減点する。 ノートパソコンはマイクロソフトOfficeが稼働するものであれば大丈夫です。 オフラインでもマイクロソフトOfficeが使えるように各自のパソコンを設定しておいて下さい。 操作方法が分からなくても諦めずに聞いて提出物を完成させて下さい。		

授業科目	コミュニケーション学	履修年次	3年次
		単位数	単位
授業形態	講義・グループワーク	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	神崎 美佳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	コミュニケーションは複合的な意味合いを持つが、今回は、医療従事者としてのコミュニケーションについて考える。		
行動目標	・友達とのコミュニケーションと医療従事者としてのコミュニケーションの違いを考える。 ・これからの臨床実習にむけて対象者とのコミュニケーションを考え、練習する。 ・相手によってコミュニケーションの方法を選択できる。		
	・言葉の選び方 ・伝え方 ・姿勢		
1回目	オリエンテーション、自己紹介、コミュニケーションとは		
2回目	理学療法を行う上で		
3回目	人に伝える／言語的コミュニケーション①		
4回目	言語的コミュニケーション② 実技		
5回目	非言語的コミュニケーション①		
6回目	非言語的コミュニケーション② 実技		
7回目	挨拶・電話マナー		
8回目	文字で伝える		
評価方法	授業態度・レポートで判断する		
教科書	なし		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	リハビリテーションにかかわる者として、自身のコミュニケーションの特徴とは何か、どのようなことを意識してコミュニケーションをすればよいのかを一緒に考えて行きましょう。		

授業科目	保健体育	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大森	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法士に必要な身体的観点や運動感覚を身体で体感する。 様々な活動を通じ、心身の成長を促すとともに他者とのコミュニケーション能力を養う。		
行動目標	・身体活動を通じ、心身の成長を促す。 ・基本動作における身体の使い方を知る。 ・障がい者体験や基本的な福祉用具の使用体験を通して障がいを感じることができる。 ・他者と協力して行動する意義を知る。		
キーワード	コミュニケーション、心身機能、健康、レクリエーション		
スケジュール			
1回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
2回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
3回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
4回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
5回目	オリエンテーションについて / 意識して身体を動かすということ。		
6回目	ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインを考えて(体験して)みよう。		
7回目	障害者体験をしてみよう。		
8回目	介助用具(福祉用具)を使ってみよう。		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度にて判断します。授業中の態度が不良(居眠り、無反応など)で注意を行った後も改善されない場合、減点する。		
教科書	講義中に資料を配布します。		
参考書・資料等			
履修上の注意	・明るく楽しく元気よく、意欲的に取り組むこと。 ・怪我には注意すること。		

授業科目		文章表現法	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		神崎 美佳	オフィスアワー	月・水・金曜日9:00～17:20
一般目標	・理学、作業療法士としての基本的な文章表現能力を高める。 ・講義を基本とするが、実践的な演習も交え進めていく。			
行動目標	・医療人としての自身を自覚し、他者にわかりやすい表現法を理解する ・理学、作業療法を学ぶ学生として必要な文章作成技術を身につける ・伝える相手によって、適切な言葉を使える			
		文章表現、形式、専門用語		
スケジュール				
1回目	イントロダクション／文章を書く時の注意点			
2回目	敬語について			
3回目	メールのマナーと文章作成			
4回目	手紙の書き方・封筒の書き方			
5回目	礼状の書き方			
6回目	感想文の書き方			
7回目	文章作成(レポート)			
8回目	診療記録～その内容と用語～			
9回目				
10回目				
11回目				
12回目				
13回目				
14回目				
15回目				
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。			
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。			
参考書・資料等	庄司達也ほか:日本語表現法、翰林書房			
履修上の注意	言語による表現は技術であり、学ぶものである為、課題に積極的に取り組んでください。			

授業科目		英語	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		土屋 景子	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	リハビリテーション場面で使われる英語に習得する。			
行動目標	身体各部の名称がわかる。 医療現場で用いられる機器の名称がわかる。 セラピストが使う略語がわかる。 英語で書かれた記録が読める。			
キーワード	英語 セラピスト 専門用語			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション			
2回目	身体の部位			
3回目	断面と方向			
4回目	関節運動の名称			
5回目	骨格と筋			
6回目	運動方向と姿勢			
7回目	接頭辞			
8回目	語幹			
9回目	接尾辞			
10回目	病気			
11回目	症状			
12回目	リハビリ部門			
13回目	略語			
14回目	論文、カルテなど			
15回目	まとめ			
評価方法	小テスト、筆記試験の結果を評価する			
教科書	なし			
参考書・資料等	特になし			
履修上の注意	医療現場で使われる言葉、専門用語を英単語とともに学ぶことで、他科目の学習に活かしていけるようにしてください。			

授業科目		解剖学Ⅰ	履修年次	1年次
			単位数	2単位
授業形態		講義並びに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動器系を三次元的に捉え、その構造と位置を知る。 基本構造や形態から基本的な運動機能を考える。			
行動目標	人体の部位、名称などを覚える。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築する。 自身の身体を使い感じる事が出来る。			
キーワード	人体, 形態学, 三次元			
スケジュール				
1回目/2回目	解剖学総論、骨学:骨組織と骨格の構造			
3回目/4回目	骨学:骨の連結と靱帯			
5回目/6回目	骨学:形態と名称(頭頸部と体幹)			
7回目/8回目	骨学:形態と名称(上肢)			
9回目/10回目	骨学:形態と名称(下肢)①			
11回目/12回目	骨学:形態と名称(下肢)②			
13回目/14回目	関節・靱帯①			
15回目/16回目	関節・靱帯②			
17回目/18回目	筋学:頭頸部			
19回目/20回目	筋学:体幹部			
21回目/22回目	筋学:上肢①			
23回目/24回目	筋学:上肢②			
25回目/26回目	筋学:下肢①			
27回目/28回目	筋学:下肢②			
29回目/30回目	筋学:下肢③			
評価方法	定期試験(70-90%) 課題や取り組み方など(状況により20%前後) 授業演習の参加率など(10%前後)			
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院			
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 機能解剖学的 触診技術 メディカル ビュー(上肢)、(下肢・体幹)			
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといくことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考えることである。また、構造や形態にも意味があるものである。 暗記という勉強法ではなく、なぜという疑問を考え学習することが重要である。			

授業科目		解剖学Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間の機能について知る。			
行動目標	体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 骨格の位置を確認し筋のはたらきをしる。 人体の働きより臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築しなおす。			
キーワード	脊髄損傷, 発生機序, ADL指導			
スケジュール				
1回目	循環・血管系			
2回目	泌尿器系			
3回目	皮膚系			
4回目	感覚器系			
5回目	呼吸器系			
6回目	消化器系			
7回目	内分泌系			
8回目	性生殖器			
9回目	骨の指標を知る1(頭頸・体幹部)			
10回目	骨の指標を知る2(上肢)			
11回目	骨の指標を知る3(下肢)			
12回目	骨の指標を知る4(前腕部)			
13回目	筋の指標を知る3(上腕)			
14回目	筋の指標を知る5(下肢)			
15回目	まとめ			
評価方法	出席率、授業態度、試験、小テストなどを総合的にみて評価する。			
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学			
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 解剖学カラーアトラス 第5版 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 基礎運動学 第6版 医歯薬出版			
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといくことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考えることである。また、構造や形態にも意味があるものである。 暗記という勉強法ではなく、なぜという疑問を考え学習することが重要である。			

授業科目	機能解剖学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	原則 月～金 8:30～17:20
一般目標	これまで学んできた解剖学・運動学の知識を統合し、臨床的な考察が行えるようになる		
行動目標	・筋の起始停止、支配神経を覚える ・各回のキーワードについて説明、考察が行えるようになる ・国家試験問題の理解		
キーワード	各回スケジュール参照		
スケジュール			
1回目	骨模型ならべ		
2回目	骨模型ならべ		
3回目	骨模型ならべ		
4回目	起始停止、支配神経		
5回目	起始停止、支配神経		
6回目	膝関節の機能解剖と姿勢分析①：脛骨大腿関節 膝蓋大腿関節 前十字靱帯 後十字靱帯 副運		
7回目	膝関節の機能解剖と姿勢分析②：Q角 FTA		
8回目	股関節の機能解剖と姿勢分析：骨盤前傾 骨盤後傾 ASIS PSIS		
9回目	骨盤～下肢の姿勢分析、姿勢戦略、ストレッチ		
10回目	骨盤～下肢の姿勢分析、姿勢戦略、ストレッチ		
11回目	脊柱の構造と機能：前弯 後弯 側弯 胸郭のアライメント		
12回目	肩甲帯と上肢の構造と機能：肩甲骨のアライメント 上腕骨頭の位置 肩甲上腕リズム 運搬角		
13回目	動作分析		
14回目	動作分析		
15回目	動作分析		
評価方法	授業態度、レポート		
教科書	今まで使用してきた教科書全般		
参考書・資料等	エッセンシャルキネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床 第3版		
履修上の注意	後半はリモートによる内容となります		

授業科目		生理学 I	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義ならびに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人体の機能について日常と照らし合わせて考える。			
行動目標	人体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 人体の働きを知り臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書や資料のイラスト、写真から必要なことを説明する。 人体内で起きている見えない現象を理解する。			
キーワード	人体, 機能, 日常生活			
スケジュール				
1回目/2回目	細胞の機能			
3回目/4回目	栄養の消化と吸収			
5回目/6回目	呼吸の働き			
7回目/8回目	血液の働き①			
9回目/10回目	血液の働き②			
11回目/12回目	血液の循環と調節①			
13回目/14回目	血液の循環と調節②			
15回目/16回目	泌尿器の機能と調節①			
17回目/18回目	泌尿器の機能と調節②			
19回目/20回目	体液の調節①			
21回目/22回目	体液の調節②			
23回目/24回目	自律神経による調節機能①			
25回目/26回目	自律神経による調節機能②			
27回目/28回目	内分泌による調節機能①			
29回目/30回目	内分泌による調節機能②			
評価方法	期末試験(70-90%)および レポートなどの課題(10-20%) その他(状況による)5-10%程度			
教科書	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院			
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院			
履修上の注意	医学の基礎知識として解剖学、運動学の振り返りは常に重要となる。 人体の構造(形態学・解剖学)と密接に関連するため、必要と思われる基礎医学の知識は常に復習しておくこと。 疾患を紐解くので、重要な科目なので暗記ではなく、説明することを学習目標とすることが重要である。			

授業科目		生理学Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義、演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	実際の人体を五感で構築する。			
行動目標	授業で学んだ人体の基本的な働き(機能)を体験する。 実験を通して人体の働きの知識を身につける。 自己の体験をもとに人体の機能を理解する。 体内で起きている見えない現象を理解する。			
キーワード	神経系, 循環器系, 消化器系			
スケジュール				
1回目	末梢神経系1			
2回目	末梢神経系2			
3回目	末梢神経系3			
4回目	中枢神経系1			
5回目	中枢神経系2			
6回目	中枢神経系3			
7回目	感覚器(体性感覚について)			
8回目	感覚器(特殊感覚について)1			
9回目	感覚器(特殊感覚について)2			
10回目	血液の演習1			
11回目	血液の演習2			
12回目	摂食・嚥下			
13回目	摂食・嚥下機能1			
14回目	摂食・嚥下機能2			
15回目	まとめ			
評価方法	レポート、授業態度及び出席率を総合的に評価する。			
教科書	プリントを配布			
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版			
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学・生理学の知識を演習により体感するためより明確に理解できる。しかしながら、演習の意図や目的を判らないまま行うことはリスクを伴い、また、知識の構築にも繋がらないので前期で学習した内容を復習しておくことが大切である。 状況により項目が前後することがあります。			

授業科目	病理学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	理学療法士としての基礎知識を習得し、正しい理学療法を行えるようになるために、病気の成り立ちと臨床的特徴を理解する。		
行動目標	1. 人体の正常な構造及び機能を理解する 2. 疾病の原因と臨床症状の因果関係を理解する 3. 疾病の際にその臓器や器官に生じる肉眼的及び組織学的変化を理解する 4. 疾病に対する予防や治療に関する知識を習得する		
キーワード			
スケジュール			
1回目	病理学とは		
2回目	体液の異常		
3回目	血行障害①		
4回目	血行障害②		
5回目	炎症と修復		
6回目	免疫及び免疫疾患		
7回目	感染①		
8回目	感染②		
9回目	変性・壊死・萎縮・老化①		
10回目	変性・壊死・萎縮・老化②		
11回目	腫瘍と過形成①		
12回目	腫瘍と過形成②		
13回目	先天異常		
14回目	代謝異常①		
15回目	代謝異常②		
評価方法	授業態度(出席回数含む) 定期試験		
教科書	系統看護学講座 病理学 医学書院		
参考書・資料等	授業資料は都度配布します。		
履修上の注意			

授業科目		人間発達学	履修年次	1年次
			単位数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		森田茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間は母胎内から発達している。即ち、人間の一生は胎児から始まり、誕生を迎え、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期と障害発達することを理解することを本講義の目標とする。発達過程には生理的(身体・運動)にも、心理的にも発達する。これらの基本的な発達段階とその特性を中心に講義を通して学んでいく。			
行動目標	生涯発達の観点から、胎児期・新生児期・乳幼児期・幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期以降から老年期にかけて標準的な発達を理解し、それぞれの特徴を説明できる。また、各ライフステージを通した人間理解の為、それぞれの発達過程を学ぶ。 ①発達概念・理論について理解する。⑤上肢機能(つまみ・把持)の発達過程を理解する。 ②人間発達における各種検査について理解する。⑥感覚機能(感覚・知覚・認知)の発達過程を理解する。 ③原始反射・反応のメカニズム及び過程を理解する。⑦学童～老年期の発達過程を理解する。 ④生後0ヵ月～生後18ヵ月までの運動発達過程を理解する。⑧高齢者の発達・特性について理解する。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	～オリエンテーション～ 発達概念について			
2回目	人間発達とは…			
3回目	発達検査とは… 遠城寺式・日本版デンバー式スクリーニング検査			
4回目	姿勢反射/反応			
5回目	運動発達過程① 0～3ヵ月			
6回目	運動発達過程② 4～6ヵ月			
7回目	運動発達過程③ 7～9ヶ月			
8回目	運動発達過程④ 10～12ヵ月			
9回目	運動発達過程⑤ 13から18ヵ月			
10回目	運動発達過程⑥ 18ヵ月以降～6歳までの発達			
11回目	上肢機能の発達(つまみ・把持)、ADL(動作)の発達			
12回目	感覚・知覚・認知・社会性の発達			
13回目	学童期・青年期・成人期・老年期の発達①			
14回目	学童期・青年期・成人期・老年期の発達②			
15回目	高齢者の特徴 及び 総括			
評価方法	定期試験にて単位認定を行う。			
教科書	イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 医歯薬出版			
参考書・資料等	<資料>講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書>随時、紹介する。			
履修上の注意	理学・作業療法士が関わる発達領域における入口となる講義となる。 解剖学・生理学・運動学などで学習することに関連付け、人間の発達過程について理解を深めるように努めたい。 学修する範囲が広く、予習・復習を心掛けていただきたい。			

授業科目	臨床心理学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	心の動きに関する基礎知識や心理学的な人間理解お手掛かりとなる理論を学び、人が適応・成長するとは何かを考える。そして、心理検査、心理療法の基礎を学び、対人援助サービスを行うための心構えを身につける。		
行動目標	・人間の心理的な発達の特徴を理解、説明できる。 ・心理アセスメントの基本を理解する。 ・人間の心理を理解し、 ・人間理解を通して、支援を必要とする人の気持ちに寄り添った援助ができるようになる。		
キーワード	基本理論 アセスメント 心理療法		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 何故臨床心理学を学ぶ必要があるのか？ 臨床心理学とリハビリテーション		
2回目	知覚心理学 ・ 学習心理学		
3回目	発達と知能①乳児期・児童期		
4回目	発達と知能②思春期・青年期		
5回目	発達と知能③成人期・中年期・老年期		
6回目	防衛機制1		
7回目	防衛機制2		
8回目	心理アセスメントと心理検査		
9回目	臨床心理学の介入技法 ①認知行動療法		
10回目	臨床心理学の介入技法 ②催眠療法 精神分析療法 内観療法 絵画療法 箱庭療法 交流分析		
11回目	臨床心理学の介入技法 ③来談者中心療法 支持的精神療法 集団精神療法 森田療法		
12回目	小テスト		
13回目	フィードバック ・ フィードフォワード		
14回目	国家試験問題演習		
15回目	国家試験問題演習		
評価方法	小テスト 筆記試験 授業態度(レポート)		
教科書	リハベーシック 心理学・臨床心理学 医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	適宜資料を配布します。		
履修上の注意	心理的発達の理解はもちろん、自分自身と向き合う、自分自身のこれからを考えるきっかけになるように背極的に意見を持つようにしてください。		

授業科目	公衆衛生学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金(8:30～9:20)
一般目標	理学・作業療法士をとりまく社会の動向や特性、健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉制度について学ぶ。		
行動目標	・公衆衛生及び医療について説明できる。 ・保健と医療と福祉の動向と対策について説明できる。		
キーワード	感染症法、学校保健法、医療法、生活習慣病、母子保健、精神保健		
スケジュール			
1回目	①公衆衛生学概論 公衆衛生の意義と目的、ガイダンス		
2回目	②疫学 公衆衛生学・活動の手段としての疫学の理解		
3回目	③衛生統計 衛生指標の意味と現状、将来予測		
4回目	④環境保健 人類生態系を考えた環境と健康との関連		
5回目	⑤環境保健 居住環境、衣服環境など身近な環境保健		
6回目	⑥環境汚染 公害、地球環境汚染の現状と予防		
7回目	⑦感染症予防 感染症の現状と予防策		
8回目	⑧産業保健 労働と健康の関わり、産業現場での健康増進		
9回目	⑨学校保健 学校における疾病予防、健康づくり活動、組織		
10回目	⑩地域保健・行政 地域における保健活動とそのための行政組織		
11回目	⑪高齢者保健・福祉 高齢者の健康管理と福祉制度		
12回目	⑫母子保健・精神保健 ライフサイクルを考えた母子の健康管理、精神保健の意義		
13回目	⑬国際保健 世界における健康問題、国際協力		
14回目	⑭健康づくり わが国における健康づくりの現状と課題		
15回目	まとめ ワクチン接種履歴の見方		
評価方法	筆記試験、授業態度、小テストにて判断します。		
教科書	指定なし(講義資料は授業ごとに配布)		
参考書・資料等	・シンプル衛生公衆衛生学、鈴木庄亮 他 編、南光堂 ・国民衛生の動向 厚生衛生協会 厚生指標臨時増刊		
履修上の注意	本授業は、非常に多領域にわたる内容を含むので、授業時に渡す資料や授業ノートのほか、教科書等を用いて確実に復習することが望ましい。また、毎回の授業で出席をとり、出席状況は成績に反映する。		

授業科目		薬理学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		五郎丸 美智子	オフィスアワー	
一般目標	薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する			
行動目標	薬の使用目的を説明できる 薬の主作用、副作用、毒性の関係を説明できる 代表的な疾患の治療薬を列記できる 代表的な疾患の治療薬について作用機序を説明できる			
キーワード				
スケジュール				
1回目	総論 薬の基本的について例をあげて学ぶ			
2回目	総論 薬の動態について学ぶ			
3回目	総論 薬効に影響する因子などについて例をあげて学ぶ			
4回目	感染症に対する代表的薬物を学ぶ			
5回目	がんの仕組みを知り、関係の薬を学ぶ			
6回目	小テストと復習			
7回目	抗炎症薬 炎症の作用機序を知り関係の薬を学ぶ			
8回目	末梢神経 副交感神経に関与する薬を学ぶ			
9回目	末梢神経 交感神経に関与する薬を学ぶ			
10回目	代謝・内分泌 内分泌・代謝に関与する薬を学ぶ			
11回目	中枢神経 全身麻酔や睡眠薬の代表的薬物を学ぶ			
12回目	中枢神経 抗うつ薬や麻薬性鎮痛薬の代表的薬物を学ぶ			
13回目	心臓・血管系の薬 高血圧などの代表的薬を学ぶ			
14回目	呼吸器系の薬 喘息などの代表的薬を学ぶ			
15回目	まとめ			
評価方法	前半授業範囲の小テスト(30%) 後半授業範囲の筆記テスト(50～60%) 出席と態度(10～20%) ※再試験は、前半・後半あわせての範囲となる。			
教科書	系統看護学 専門基礎 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 ③、吉岡充弘、医学書院			
参考書・資料等	基礎医学シリーズ 目で見える薬理学入門 第3版 vol.1-12、山崎 純一 原案監修、医学映像教育センター 今日の治療薬 2016、浦部 晶夫 他編、南江堂			
履修上の注意	薬物療法と理学療法との関わり合いに留意して授業に臨むこと。			

授業科目		内科老年学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	国家試験、臨床で出会う内科疾患に対して理解を深め、説明できるようにする。			
行動目標	・消化管疾患について理解し、説明できる。 ・循環器疾患について理解し、説明できる。 ・内分泌、代謝疾患について理解し、説明できる。 ・腎、泌尿器疾患について理解し、説明できる。 ・免疫、アレルギー、血液疾患について理解し、説明できる。 ・高齢者の心身機能について理解し、説明できる。			
キーワード	消化管 循環器 内分泌 代謝 腎 泌尿器 免疫 アレルギー 血液 老年学			
スケジュール				
1回目	ガイダンス 内科学で扱う疾患について ・ 授業の進め方 ・ 復習方法について			
2回目	消化管疾患①			
3回目	消化管疾患②			
4回目	循環器疾患①			
5回目	循環器疾患②			
6回目	内分泌・代謝疾患①			
7回目	内分泌・代謝疾患②			
8回目	腎・泌尿器疾患①			
9回目	腎・泌尿器疾患②			
10回目	免疫・アレルギー疾患①			
11回目	免疫・アレルギー疾患②			
12回目	血液疾患			
13回目	老年学①			
14回目	老年学②			
15回目	まとめ・小テスト・国家試験問題演習			
評価方法	筆記試験 小テスト 提出物 授業態度			
教科書	ビジュアルノート 第5版 メディックメディア			
参考書・資料等	適宜資料を配布します。			
履修上の注意	生理学で履修した内容を復習しつつ、内科学、老年学について学びます。 必要に応じて、生理学の教科書、プリントを用意しておいてください。			

授業科目		栄養学	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		金内 則子	オフィスアワー	授業の前後
一般目標	栄養学の基礎的な知識およびライフステージや傷病者の栄養について、チーム医療を担うための基本的な知識を備える。			
行動目標	・栄養素の働きおよび消化吸収、代謝について理解する。 ・栄養スクリーニング、アセスメント、栄養ケアプランと評価について理解する。			
キーワード		栄養学の基礎、栄養アセスメント、栄養ケアプラン、栄養療法		
スケジュール				
1回目	リハビリテーションと栄養			
2回目	栄養学の基礎(糖質)			
3回目	栄養学の基礎(たんぱく質)			
4回目	栄養学の基礎(脂質)			
5回目	栄養学の基礎(ビタミン、ミネラル)			
6回目	栄養素の消化と吸収			
7回目	エネルギー代謝			
8回目	ライフステージと栄養			
9回目	低栄養と過栄養			
10回目	摂食嚥下機能と栄養			
11回目	栄養ケアプラン(必要栄養量)			
12回目	栄養ケアプラン(栄養投与ルートの選択)			
13回目	糖尿病の栄養療法			
14回目	脳血管疾患の栄養管理			
15回目	総括			
評価方法	筆記試験			
教科書	リハベータシック「生化学・栄養学」医歯薬出版			
参考書・資料等	＜資料＞ 授業に必要な資料は随時配布する。 ＜参考書＞ 随時、紹介する。			
履修上の注意	生理学、生化学、内科学等で学習することと関連づけ、理解を深めること。			

授業科目	整形外科学 I	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	原則、教員室で対応
一般目標	整形外科学は運動器障害に関連し、理学療法とは密接な関係にある。運動器障害の理学療法を理解するために必要な整形外科学の知識と考え方を理解する。そのために 学生は1)運動器各部位の機能解剖を理解する。2)運動器各部位それぞれの特徴的な疾病、障害、傷害に対する整形外科的アプローチを理解する。以上の項目を到達できるようにすること。		
行動目標	●整形外科疾患についての説明ができる。 1)運動器の構造と機能 2)整形外科疾患の主要病因と病態 3)整形外科疾患の主要徴候と病態生理 4)整形外科的検査 5)整形外科の治療		
キーワード	運動器 病因と病態 主要徴候と病態生理 検査 治療		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 整形外科とは		
2回目	骨の構造, 生理, 化学		
3回目	診療の基本 整形外科的現症の取り方		
4回目	診療の基本 検査総論 画像検査 検体検査 生体検査		
5回目	保存療法の基本		
6回目	保存療法各論		
7回目	整形外科領域における手術の特徴		
8回目	整形外科外傷学 外傷総論		
9回目	整形外科外傷学 軟部組織損傷		
10回目	整形外科外傷学 骨折・脱臼(総論)		
11回目	整形外科外傷学 小児の骨折(総論)		
12回目	脊椎・脊髄損傷 合併症等		
13回目	末梢神経損傷 分類		
14回目	切断・義肢 幻肢		
15回目	スポーツ傷害		
評価方法	定期試験、講義受講・参加態度を基準に総合判定する。		
教科書	中村利孝 松野丈夫 他著・「標準整形外科学 第14版」医学書院、2020 年.		
参考書・資料等	『講義録 運動器学』メジカルビュー社『図解 関節・運動器の機能解剖』『整形外科理学療法の理論と技術』『カパンディ 関節の生理学』『図説 筋の機能解剖』『基礎運動学』『運動器疾患とリハビリテーション』※その他、評価法や物理療法などの文献を広く熟読しておくこと。		
履修上の注意	評価・臨床実習はじめ整形外科疾患を有する対象者を担当する機会が多い。整形外科を理解するには、解剖学・運動学の知識がないときわめて困難である。よって、講義前に学生は必ず教科書、参考図書に目を通して下さい。		

授業科目	整形外科学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	整形外科学Ⅰでの内容を踏まえ運動器障害を惹起する疾患の治癒過程とその治療法の知識・考え方を理解する。そのために 学生は1)各骨折における受傷機序から治癒に至る過程を理解する。2)各骨折におけるそれぞれの特徴的な整形外科的アプローチを理解する。3)軟部組織損傷の病態と治癒過程を理解する。以上の項目を到達できるようにすること。		
行動目標	●整形外科疾患についての説明ができる。 1)各骨折の病態と治療方法 2)軟部組織損傷の病態と治療方法 3)上記における理学療法の在り方		
キーワード	骨折 軟部組織損傷 病態生理 治療		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 外傷学(復習)		
2回目～8回目	骨折(各論) 肩甲骨 鎖骨 上腕骨 前腕骨 手根骨 手指骨 脊柱 骨盤骨 大腿骨 脛骨 腓骨 足部 足趾		
9回目	慢性関節疾患(退行性, 代謝性)		
10回目	スポーツ外傷とその対応		
11回目	皮膚損傷 筋損傷		
12回目	腱損傷 靱帯損傷		
13回目	末梢神経損傷		
14回目	熱傷		
15回目	まとめ		
評価方法	・定期試験 95%・講義態度 5%を基準に総合判定する。		
教科書	鳥巢岳彦 国分正一 他著・「標準整形外科学 第14版」医学書院、2020年。		
参考書・資料等	『講義録 運動器学』メジカルビュー社『図解 関節・運動器の機能解剖』『整形外科理学療法の理論と技術』『カパンディ 関節の生理学』『図説 筋の機能解剖』『基礎運動学』『運動器疾患とリハビリテーション』※その他、評価法や物理療法などの文献を広く熟読しておくこと。		
履修上の注意	●評価・臨床実習はじめ整形外科疾患を有する対象者を担当する機会が多い。整形外科を理解には、解剖学・運動学の知識がないときわめて困難である。よって、講義前に学生は必ず教科書、参考図書に目を通して下さい。 ●講義中の居眠りは厳禁。		

授業科目		神経内科学		履修年次	2年次
				単 位 数	2単位
授業形態		講義		必要時間数	
担当教員		高杉 潤		オフィスアワー	メールなどで随時対応
一般目標	脳・神経系の構造・機能を知り、理学療法の対象となる神経系疾患を中心に、臨床徴候とそのメカニズムを理解する。脳損傷由来の神経学的所見、神経心理学的所見、動作・行為の異常所見を理解する。				
行動目標	・脳の構造と機能を理解し、脳の各部位の名称と機能を理解できる。 ・脳の疾患とその障害、各種検査方法、治療法を理解できる。 ・脳の損傷によって生じる機能障害を病巣と関連づけて説明することができる。 ・脳画像(CT・MRI)が読影でき、病巣や疾患を判別し、症状や機能障害を予測することができる。 ・認知症や脱髄変性疾患の病態と症状、障害を理解できる。				
キーワード		脳、神経系障害、神経内科			
スケジュール					
1・2回目	4月14日	(3・4限)	脳の構造(1)(2)		
3・4回目	4月21日	(3・4限)	脳の機能(1)(2)		
5・6回目	4月28日	(3・4限)	脳機能障害 神経学的症候(1)(2)		
7・8回目	5月12日	(3・4限)	脳機能障害 神経心理学的症候(1)(2)		
9・10回目	5月19日	(3・4限)	脳血管障害の基礎と臨床		
11・12回目	5月26日	(3・4限)	認知症の基礎と臨床		
13・14回目	6月2日	(3・4限)	パーキンソン病、パーキンソニズム		
15回目	6月9日	(3限)	ギラン・バレー症候群、多発性硬化症		
評価方法	筆記試験(100点)と授業態度(出席状況等)との合算によって決定する。				
教科書	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社)				
参考書・資料等	<資料> 授業に必要な資料は随時配布する。 <参考書> 随時、紹介する。				
履修上の注意	神経系に関する解剖学、生理学の知識が備わっていること。				

授業科目	脳外科学	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	
担当教員	高杉 潤	オフィスアワー	メールなどで随時対応
一般目標	脳・神経系の構造・機能を知り、理学療法の対象となる神経系疾患を中心に、臨床徴候とそのメカニズムを理解する。脳神経外科の対象となる疾患の病態、症候の特徴、各種検査を理解する。		
行動目標	・脳血管障害の各病態と症候、外科的治療が理解できる。 ・脳神経系の各疾患に対する外科治療の概要を理解できる。 ・脳画像(CT・MRI)が読影でき、病巣や疾患を判別し、症状や機能障害を予測することができる。		
キーワード	脳、神経系障害、脳外科		
スケジュール			
1回目	6月9日	(4限)	脳画像読影の基礎 CT編(1)
2・3回目	6月16日	(3・4限)	脳画像読影の基礎 CT編(2) 脳画像読影の基礎MRI編(1)
4・5回目	6月23日	(3・4限)	脳画像読影の基礎 CT編 MRI編(2) 脳画像読影の臨床応用
6・7回目	6月30日	(3・4限)	脳梗塞の外科的治療(1)(2)
8・9回目	7月7日	(3・4限)	脳出血・クモ膜下出血の外科的治療
10・11回目	7月14日	(3・4限)	頭部外傷の病態と外科的治療
12・13回目	7月21日	(3・4限)	慢性硬膜下血腫・水腫の病態と外科治療(1)(2)
14・15回目	7月28日	(3・4限)	水頭症、てんかんの病態と外科治療
評価方法	筆記試験(100点)と授業態度(出席状況等)との合算によって決定する。		
教科書	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社)		
参考書・資料等	<資料> 授業に必要な資料は随時配布する。 <参考書> 随時、紹介する。		
履修上の注意	神経系に関する解剖学、生理学の知識が備わっていること。		

授業科目		臨床検査・画像学	履修年次	3年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	画像データや検査値などを病態理解に利用し、リハビリテーション治療方針の検討に応用できるようにする。			
行動目標	各検査の特徴を理解する 各画像から病態が推測できる 推測した病態からリハビリテーション治療方針を検討できる			
キーワード	英語 セラピスト 専門用語			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション			
2回目	血液検査			
3回目	運動器画像			
4回目	運動器画像			
5回目	脳画像			
6回目	脳画像			
7回目	動作画像			
8回目	動作画像			
9回目	症例検討			
10回目	症例検討			
11回目	症例検討			
12回目	症例検討			
13回目	症例検討			
14回目	症例検討			
15回目	まとめ			
評価方法	成果物と授業への参加態度などを総合的に評価する			
教科書	リハに役立つ検査値の読み方・とらえ方, 田屋雅信, 羊土社 PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方第3版国試画像問題攻略, 中島雅美, 医歯薬出版			
参考書・資料等	症例動画でわかる理学療法臨床推論統合と解釈実践テキスト, 豊田輝, 羊土社			
履修上の注意	昨今、リハビリテーション分野でも各種の検査画像を見る場面が増加しています。また国家試験でも検査画像を用いた問題が多数出題されるようになっていきます。検査値や画像に対する理解を深め、将来の臨床に活かす素地を養ってください。			

授業科目	精神医学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月・水・金9:00～17:20
一般目標	作業療法士としての基礎知識を習得し、正しい作業療法を行えるようになるために、主な精神疾患の症状・診断・治療について理解する。		
行動目標	1. 精神科のリハビリテーションにおける臨床精神医学の役割を説明できる。 2. 日本における精神医療の現状を説明できる。 3. 精神疾患の病態について説明できる。 4. 精神疾患の治療について説明できる。		
キーワード	診断、病態、治療		
スケジュール			
1回目	精神医学とは 精神障害の成因と分類		
2回目	精神機能の障害と精神症状		
3回目	精神障害の診断と評価		
4回目	統合失調症およびその関連障害		
5回目	気分(感情)障害		
6回目	神経症性障害・生理的障害および身体的要因に関連した障害		
7回目	成人のパーソナリティ・行動・性の障害		
8回目	精神作用物質による精神及び行動の障害		
9回目	器質性精神障害 症状製精神障害		
10回目	精神発達遅滞 心理的発達の障害		
11回目	生理的障害および身体的要因に関連した障害		
12回目	てんかん		
13回目	リエゾン精神医学 心身医学		
14回目	ライフサイクルにおける精神医学		
15回目	精神障害の治療とリハビリテーション		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	上野武治編:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 精神医学第4版 医学書院 2015		
参考書・資料等	授業資料は都度、配布します。		
履修上の注意	理学・作業療法士は、精神科の患者さんに接する分野でも活躍しています。 臨床症状的視点、社会適応的視点からみた各精神障害を理解できるよう学んでください。		

授業科目	運動学Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金沢善智	オフィスアワー	月～水、金曜日 9時～17時
一般目標	1. 理学療法と作業療法の基礎となる、体の運動はどのようにして活動しているのかを理解する。 2. 各関節の物理的な動きと筋活動などの動作分析の基礎を理解する。		
行動目標	1. 動きの仕組みを学ぶ。 2. 動きのもととなる運動法則を学ぶ。 3. 各関節の動きに関係する関節の角度や筋の働きについて学ぶ。		
キーワード	運動学、運動、モーメント、物理法則、運動法則、身体とてこ、関節構成		
スケジュール			
1回目	運動学とは		
2回目	運動学の歴史		
3回目	運動学を学ぶための基礎知識 ①身体運動の面と軸、時間、速度、加速度		
4回目	運動学を学ぶための基礎知識 ②円運動、モーメント		
5回目	生体力学の基礎 ①＜身体運動と力学、時間と空間＞		
6回目	生体力学の基礎 ②＜運動学的分析＞		
7回目	生体力学の基礎 ③＜筋力と重力＞		
8回目	生体力学の基礎 ④＜運動法則＞		
9回目	生体力学の基礎 ⑤＜仕事とエネルギー、骨と関節の運動＞		
10回目	生体力学の基礎 ⑥＜身体とてこ＞		
11回目	関節の構成 ①肩関節、肘関節		
12回目	関節の構成 ②手関節、手指関節		
13回目	関節の構成 ③股関節、膝関節		
14回目	関節の構成 ④足関節、足指関節		
15回目	関節の構成 ⑤脊柱の関節、顎関節		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. 運動学テキスト、南江堂		
参考書・資料等	1. 基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社 2. PT・OTのための運動学テキスト、小柳磨毅 他編、金原出版株式会社 3. PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート、中村雅美、医歯薬出版株式会社		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、基本、毎回到小テストを行います。 2. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目		運動学Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 身体の運動学的特徴をとらえ、身体運動の仕組みを理解する。 2. 正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につける。			
行動目標	1. 上肢・下肢の運動学的特徴を説明できる。 2. 体幹の運動学的特徴を説明できる。 3. 顔面の運動学的特徴を説明できる。 4. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係を説明できる。 5. 運動学的特徴を踏まえて、動作分析に応用できる。			
キーワード	四肢 体幹 顔面 顎 運動 構造 機能			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション・上肢帯			
2回目	上肢帯と肩関節の基本			
3回目	肩関節の運動			
4回目	肘関節の基本と運動			
5回目	手関節の基本と運動			
6回目	手指の関節の基本と運動			
7回目	下肢帯と股関節の基本			
8回目	股関節の運動			
9回目	膝関節の基本			
10回目	膝関節の運動			
11回目	胸郭の基本と運動			
12回目	体幹筋の基本と運動			
13回目	顔面筋の基本と運動 / 顎関節および摂食の基本と運動			
14回目	関節運動と筋活動の分析の基本			
15回目	運動学習理論 / まとめ			
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。			
教科書	1. 基礎運動学 第6版補訂, 中村隆一 齋藤宏 長崎浩, 医歯薬出版			
参考書・資料等	1. カラー版カパンジー機能解剖学 原著第6版 I上肢 II下肢 III脊椎・体幹・頭部, A.I.Kapandji , 医歯薬出版 2. 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版, Donald A.Neumann, 医歯薬出版 3. 消って忘れない運動学要点整理ノート, 福井 勉ほか, 羊土社			
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。			

授業科目	運動学Ⅲ	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 運動に関わる栄養およびエネルギーの生産やその仕組みについて理解する。 2. 運動に関わる神経の働きについて理解する。 3. スポーツに関連する運動に関する基本と運動障害の予防について理解する。		
行動目標	1. 運動に関わる栄養およびエネルギーの生産やその仕組みについて説明できる。 2. 運動に関わる神経の働きについて説明できる。 3. 運動とスポーツに関する基本を説明できる。 4. 運動に関わる諸検査値をチェックし、異常値を認識できる。		
キーワード	運動エネルギー 代謝 神経支配 ホルモン 酵素		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション／消化・吸収・代謝・排泄		
2回目	運動エネルギー源としてのタンパク質とその代謝について		
3回目	運動エネルギー源としての脂質とその代謝について		
4回目	運動エネルギー源としての糖質とその代謝について		
5回目	運動に関連するホルモンと酵素の働き		
6回目	基礎代謝とエネルギー代謝および呼吸商について		
7回目	運動に関わる神経系の基礎		
8回目	上肢の筋とその支配神経①		
9回目	上肢の筋とその支配神経②		
10回目	下肢の筋とその支配神経①		
11回目	下肢の筋とその支配神経②		
12回目	体幹の筋とその支配神経		
13回目	スポーツと運動 筋と関節		
14回目	スポーツと運動 臓器とホルモン		
15回目	スポーツと運動 運動とスポーツ外傷の予防		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. 基礎運動学 第6版補訂, 中村隆一他, 医歯薬出版 2. 生化学・栄養学, 内山靖他, 医歯薬出版		
参考書・資料等	1. ナーシング・グラフィカ 病態生理学 疾病の成り立ち①, メディカ出版 2. 病態栄養専門 管理栄養士のための病態栄養ガイドブック 6版, 日本栄養病態学会, 南江堂		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目	予防医学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 様々な疾患とその予防策および方法について理解する。 2. 病気のメカニズムやその治療方法について理解する。		
行動目標	1. リハビリテーションに関連する疾患の基本と予防について学ぶ。 2. 食の安全性について学ぶ。 3. 生活習慣と疾患について学ぶ。		
キーワード	老年医学 生活習慣病 アレルギー疾患 感染症		
スケジュール			
1回目	予防医学の歴史と健康の概念について		
2回目	メタボリックシンドロームおよび糖尿病の基本と予防		
3回目	高血圧症と脂質異常症の基本と予防		
4回目	心血管疾患の基本と予防		
5回目	脳卒中の基本と予防		
6回目	認知症の基本と予防		
7回目	がんの基本と予防		
8回目	ロコモティブシンドロームおよびフレイル、サルコペニアの基本と予防		
9回目	食事(リスクアナリシス含む)、栄養(欠乏または過剰摂取)、歯周病などの基本と予防		
10回目	睡眠と健康について／うつ病の基本と対策		
11回目	喫煙およびアルコールと健康について		
12回目	生活習慣病の基本と予防(対策含む)		
13回目	感染症の基本と感染予防対策		
14回目	アレルギー疾患の基本と予防		
15回目	相補代謝医療と疾患予防		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. 予防医学テキスト, 日本予防医学会, 丸善雄松堂		
参考書・資料等	1. 標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版, 医学書院 2. 標準理学療法学・作業療法学 老年学 第4版, 医学書院 3. カラーで学べる病理学 第4版, ニューヴェルヒコカワ 4. 集中講義 病理学, メディカルビュー		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目	小児科学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	三沢 峰茂	オフィスアワー	
一般目標	小児期に生じる疾患及び障害の特徴をまとめ理解を深める。		
行動目標	小児疾患の徴候や評価内容を説明できる。 実技演習を通して運動学的に運動発達を見直し説明できる。 神経学的評価を説明し実施できる。 摂食嚥下機能を理解し、摂食嚥下障害リハビリテーションを理解する。 障害児に対する療育(ハビリテーション)の理解を深める 障害児を持つご両親ご家族支援について理解を深める		
キーワード			
スケジュール			
1回目	小児科学概論		
2回目	成長・発育、バイタルサイン		
3回目	胎児期の発生と成長		
4回目	脳の発達		
5回目	評価・診断		
6回目	反射検査: 腱反射、病的反射、原始反射、姿勢反射		
7回目	発達: 発達段階、		
8回目	腹臥位の運動発達		
9回目	背臥位の運動発達		
10回目	目と手の発達、社会性・コミュニケーションの発達		
11回目	小児期の疾患と障害		
12回目	小児整形外科疾患		
13回目	摂食・嚥下機能とその障害		
14回目	摂食嚥下リハビリテーション		
15回目	障害児の療育と家族支援		
評価方法	筆記試験		
教科書	特になし		
参考書・資料等	授業の中で適時紹介する		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。		

授業科目	救急救命学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	石塚 光宣	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	救急医療や災害医療、病院前医療の体制についての知識を習得する。 救急救命処置に必要な観察や緊急度・重症度判断、資機材による観察についての知識を修得する。		
行動目標	1. 緊急・災害・病院前医療体制について理解し、説明ができる。 2. 一般的な症状や重篤な症状の観察方法・緊急度・重症度判定について理解し、説明ができる。 3. 資機材による観察方法を理解し、説明ができる。 4. 救急救命処置の基本を理解し、説明ができる。 5. 救急蘇生法の基本を理解し、説明ができる。		
スケジュール			
1回目	緊急医療体制		
2回目	災害医療体制		
3回目	病院前医療体制		
4回目	観察		
5回目	現場活動の基本		
6回目	全身状態の観察		
7回目	局所の観察		
8回目	緊急度・重症度判断		
9回目	資機材による観察(1)		
10回目	資機材による観察(2)		
11回目	救急救命処置法(1)		
12回目	救急救命処置法(2)		
13回目	救急蘇生法(1)		
14回目	救急蘇生法(2)		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	教材を適宜配布する。		
参考書・資料等	救急救命士標準テキスト・上巻下巻(へるす出版) 日本救急医学会ICLSコースガイドブック(羊土社)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目		リハビリテーション概論Ⅰ	履修年次	1年次
			単位数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		土屋	オフィスアワー	月・水・金9:00～17:20
一般目標	リハビリテーション・作業療法・理学療法が生まれた背景や語源の意味, リハビリテーション・作業療法・理学療法とは何かを理解できる。			
行動目標	リハビリテーション・作業療法・理学療法の歴史を説明できる。 ノーマライゼーション・IL運動をする説明できる。 疾病・生活機能の概念と分類を説明できる。 作業療法・理学療法の対象となる人々を説明できる。 多岐にわたる領域の作業療法・理学療法を説明できる。			
キーワード	障がい者、全人間的復権、多職種連携			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション			
2回目	リハビリテーションの概念			
3回目	リハビリテーションの歴史			
4回目	リハビリテーションの理念の形成			
5回目	生活機能の概念と分類			
6回目	チーム医療と多職種連携			
7回目	リハビリテーションの進め方			
8回目	リハビリテーションに関する評価			
9回目	歩行について			
10回目	装具について			
11回目	義肢について			
12回目	車いすについて			
13回目	生物多様性について			
14回目	男女平等社会と人権について			
15回目	ターミナルケアについて			
評価方法	課題提出、レポートにて判断します。			
教科書	椿原章夫:リハビリテーション総論改訂第3版 診断と治療社 2017			
参考書・資料等	随時、資料を配布します。 中村隆一:入門リハビリテーション概論第7版 医歯薬出版 2009			
履修上の注意	リハビリテーション・作業療法とは何か、どのような環境でどのようなことをするお仕事なのかを学びます。 学生さんが将来になりたい理学・作業療法士をイメージしながら聞いて下さい。			

授業科目	リハビリテーション概論Ⅱ	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月・水・金9:00～17:20
一般目標	リハビリテーションに関わる障害の評価と治療を学ぶ		
行動目標	医療情報の評価について説明できる。 心身機能・身体機能・参加・背景因子の評価について説明できる。 リスク管理について説明できる。 関連法規について説明できる。 疾患別のリハビリテーションについて説明できる。		
キーワード	リハビリテーション 疾患 多職種連携		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	学生に求められるもの		
3回目	理学・作業療法士に関する法律		
4回目	関連法規		
5回目	医療事故とリスクマネジメント		
6回目	障害別リハビリテーションの実際(関節可動域訓練)		
7回目	障害別リハビリテーションの実際(失認と失行・高次脳機能障害)		
8回目	障害別リハビリテーションの実際(摂食嚥下障害)		
9回目	障害別リハビリテーションの実際(老化と介護予防)		
10回目	疾患別リハビリテーションの実際(脳血管障害)		
11回目	疾患別リハビリテーションの実際(パーキンソン症候群)		
12回目	疾患別リハビリテーションの実際(多発性硬化症)		
13回目	精神科リハビリテーション総論		
14回目	精神科疾患別リハビリテーションの実際		
15回目	精神科疾患別リハビリテーションの実際		
評価方法	レポート(50%)、筆記試験(50%)にて判断します。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	随時、資料を配布します。		
履修上の注意	具体的疾患や障害をとおして、リハビリテーションとは何かを学びます。。 臨床現場の理学・作業療法士をイメージしながら聞いて下さい。		

授業科目	社会福祉学	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦(社会福祉士)	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	医療・福祉関係を主としたフィールドで活躍する作業療法士・理学療法士としてこれら社会福祉に関する諸制度の知識は必要である。そのため、本講義では社会福祉の概要を歴史から現在の各制度の特徴や問題点について理解することを目標とする。		
行動目標	Ⅰ. 福祉活動の歴史的背景を理解する。 Ⅱ. 作業療法・理学療法周辺の社会福祉について理解する。 Ⅲ. 社会福祉の役割について理解する。 Ⅳ. 関係機関との連携について理解する。		
キーワード	福祉 関連法 障がいと作業療法・理学療法		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 人間と福祉 福祉とは？		
2回目			
3回目	福祉活動の歴史(日本)		
4回目			
5回目	福祉活動の歴史(西洋)		
6回目			
7回目	福祉領域と関連法		
8回目			
9回目	福祉対象の分野		
10回目			
11回目	社会福祉支援の方法		
12回目			
13回目	社会福祉援助活動における専門性と倫理		
14回目			
15回目	まとめ		
評価方法	原則、毎講義でリアクションペーパーの作成・提出を課します。課題成果物の内容・体裁、講義受講態度および演習の取組などを総合して評価する。 再試験等を行わないので注意してください。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	随時紹介する。		
履修上の注意	PCを必要に応じて持参していただきます。随時、指示します。 医療制度や介護保険の知識は、作業療法・理学療法に携わるうえで密に直結するため、しっかりとした理解が必要である。日頃から医療や福祉に関する興味を持つことで時事問題を知ることも必要であるので時事問題には興味をもって履修すること。		

授業科目	障害者支援論	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川 孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	障害者を取り巻く環境と社会参加参画における支援制度等を理解する。		
行動目標	障害者基本法について理解する 障害者総合支援法について理解する。 精神保険福祉法について理解する 各障害を有する方の支援のあり方について理解する		
キーワード	障害 社会参加 支援制度		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション, 障害の概念		
2回目	障害者基本法とその制度		
3回目	身体障害者福祉法による支援制度 概要		
4回目	身体障害者福祉法による支援制度 障害者手帳の役割		
5回目	身体障害者福祉法による支援制度 障害者手帳の申請から交付まで		
6回目	障害者総合支援法(身体障害・精神障害・知的障害)による支援 概要		
7回目	障害者総合支援法(身体障害・精神障害・知的障害)による支援 居宅サービス		
8回目	障害者総合支援法(身体障害・精神障害・知的障害)による支援 施設サービス		
9回目	障害者総合支援法による支援 認定区分の流れ(1)		
10回目	障害者総合支援法による支援 認定区分の流れ(2)		
11回目	精神保健福祉法による支援制度 概要		
12回目	精神保健福祉法による支援制度 病態の理解		
13回目	精神保健福祉法による支援制度 社会資源の活用		
14回目	精神保健福祉法による支援制度 治療から社会参加へ		
15回目	まとめ		
評価方法	定期試験ならびに演習(課題含む)等の受講取組態度を勘案し評価する。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。		
参考書・資料等	随時、参考図書や資料を紹介していく。		
履修上の注意	講義では毎回意見を伺います。事前学習はそれほど必要ではありませんが、実際の障害像をイメージできるよう 動画の視聴内容を参照 し且つ将来の自身の理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義・演習に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。		

授業科目		基礎理学療法学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		佐藤真吾	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	理学療法士にとって重要なものが何かの理解を深め、正しい倫理観を持ち、的確に行動するための指針を養う。			
行動目標	理学療法士とは何かを記述する(認知領域) 理学療法の流れを説明する(認知領域) 理学療法士にとって重要なものを一般化する(認知領域) 倫理観を討議する(情意領域)			
キーワード	理学療法、法律、地域リハ、理学療法評価、トップダウンとボトムアップ、クリニカルリーズニング			
スケジュール				
1回目	理学療法の概要			
2回目	医療倫理と理学療法倫理			
3回目	対象者中心の視点			
4回目	理学療法士としての使命、役割と責務			
5回目	理学療法の歴史			
6回目	理学療法の関連法規			
7回目	理学療法の役割			
8回目	理学療法の過程			
9回目	「理学療法モデル」			
10回目	理学療法の職域			
11回目	各病期(急性期, 回復期, 生活期, 介護・終末期)における理学療法の意義や目的			
12回目	各病期(急性期, 回復期, 生活期, 介護・終末期)における理学療法の意義や目的			
13回目	理学療法士の職能			
14回目	理学療法士の教育課程			
15回目	理学療法学としての研究			
評価方法	筆記試験(100点) ※ただし、授業態度により減点あり			
教科書	資料配布			
参考書・資料等	基礎理学療法学 大橋ゆかり 編、医歯薬出版株式会社 理学療法学概論 第7版、奈良勲 他編、医歯薬出版株式会社			
履修上の注意				

授業科目		理学療法研究法Ⅰ	履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	必要な論文を検索できる。 論文の内容を理解することができる。 論文を第三者に分かりやすく伝えることができる。			
行動目標	研究論文に使用される専門用語や統計処理の意味がわかる。 必要な文献の検索しその方法を知る。 論文の構成と主旨を理解し、要約して説明することができる。			
キーワード	研究論文, 文献検索, プレゼンテーション			
スケジュール				
1回目	研究法総論			
2回目	論文の紹介とその解説			
3回目	論文の紹介とその解説			
4回目	抄読会用レジュメの作成方法			
5回目	抄読会用レジュメの作成方法			
6回目	抄読会用プレゼンテーションの作成方法			
7回目	抄読会用プレゼンテーションの作成方法			
8回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成			
9回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成			
10回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成			
11回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成			
12回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成			
13回目	研究法Ⅱにおける実験の組み立て方			
14回目	抄読会(発表)			
15回目	抄読会(発表)			
評価方法	プレゼンテーション(70%)およびレジュメ作成(30%)			
教科書	資料を配布			
参考書・資料等	最新 理学療法学講座 理学療法研究法 編著:対馬栄輝 医歯薬出版株式会社 はじめての研究法コ・メディカルの研究法入門 第2版 神陵文庫			
履修上の注意	要点を整理して、聴衆に解りやすい表現(図や写真)を意識すること。 抄読の準備及び発表は個人ごとに行う。 下書きを忘れず全体の把握をすること。 各項目を理解し、解りやすく表現すること。 文章の意味を的確に伝えられるように説明の仕方を工夫すること。			

授業科目		理学療法研究法Ⅱ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義、演習、PBL	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	1. 実験手技の構築を学ぶ 2. 実際の論文作成を理解する。			
行動目標	研究テーマの立案が出来る。 実験方法の構築が出来る。 結果や文献から統合と解釈することができる。			
キーワード	神経系, 循環器系, 消化器系			
スケジュール				
1回目	文献検索及び作成準備1			
2回目	文献検索及び作成準備2			
3回目	文献検索及び作成準備3			
4回目	文献検索及び作成準備4			
5回目	実験結果の分析1			
6回目	実験結果の分析2			
7回目	実験結果の分析3			
8回目	実験結果の分析4			
9回目	論文の作成1			
10回目	論文の作成2			
11回目	論文の作成3			
12回目	論文の作成4			
13回目	論文の作成5			
14回目	論文の発表1			
15回目	論文の発表2			
評価方法	研究論文、授業態度及び出席率を総合的に評価する。			
教科書	なし			
参考書・資料等	コ・メディカルの研究法入門 はじめての研究法 第2版 神陵文庫			
履修上の注意	文献検索から医療現場での疑問に対する根拠付けを意識すること。 論文の書き方から、①デイリーのまとめ方や②レポートの作成を視野に入れて学習すること。 英文検索など日本語以外の検索も考え学習すること。			

授業科目		統合理学療法学	履修年次	3年次
			単 位 数	3単位
授業形態		講義	必要時間数	90時間(45コマ)
一般目標	卒業に向け、総合的な学習を行う。			
行動目標	模擬試験を通して、総合的知識の中で、不足している部分を見つけ復習につなげる。			
キーワード	総合学習、復習			
スケジュール				
1回目～3回目	模擬試験			
4回目～6回目	模擬試験			
7回目～9回目	解説			
10回目～12回目	解説			
13回目～15回目	模擬試験			
16回目～18回目	模擬試験			
19回目～21回目	解説			
22回目～24回目	解説			
25回目～27回目	模擬試験			
28回目～30回目	模擬試験			
31回目～33回目	解説			
34回目～36回目	解説			
37回目～39回目	模擬試験			
40回目～42回目	解説			
43回目～45回目	解説			
評価方法	復習を見つめる中での取り組み方			
教科書	特になし			
参考書・資料等				
履修上の注意				

授業科目		業務運営管理学Ⅰ	履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法士として勤務するために必要な、管理・運営の基本、リスクマネジメント、コミュニケーションスキル等を			
行動目標	理学療法部門の管理運営に必要な基礎的理論を理解する 医療機関の分類、職種、部門について説明できる チーム医療を遂行するために必要な基礎的知識を説明できる			
キーワード				
スケジュール				
1回目	オリエンテーション			
2回目	病院の分類と組織			
3回目	専門職とチームケア			
4回目	社会保障のしくみ			
5回目	医療保険制度			
6回目	介護保険制度			
7回目	診療・介護報酬と収益構造			
8回目	保健・医療・介護・福祉の連携			
9回目	業務管理			
10回目	情報管理			
11回目	リスク管理①			
12回目	リスク管理②			
13回目	感染症管理			
14回目	権利擁護と職業倫理			
15回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100点) 授業態度の程度や注意の回数によって、5点ずつ減点とする			
教科書	理学療法テキスト 理学療法管理学 総編集 石川朗 中山書店			
参考書・資料等	配布資料			
履修上の注意	学問上の知識を得る事を目的とするのではなく、自分自身が働く、家族、友人が医療機関にかかったら、など実際に自分自身に置き換えて、常に自分事として考えるようにしてください。			

授業科目		業務運営管理学Ⅱ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 9:00～17:00
一般目標	理学療法業務の実際について学ぶ			
行動目標	理学療法士業務の実際について学ぶ 医療安全対策について学ぶ 感染症対策について学ぶ 様々な疾患や病期におけるリスク管理について学ぶ 基礎的な学力の確認をする			
キーワード	理学療法業務 リスク管理 感染対策			
スケジュール				
1回目	理学療法業務の実際(一日の流れ、週間、月間スケジュール、新人教育、卒後学習等)			
2回目	理学療法業務の実際(職域、診療報酬、カルテの書き方等)			
3回目	医療安全対策・KYTトレーニング			
4回目	医療安全対策・KYTトレーニング			
5回目	感染対策 (感染症に対する基本的な知識や具体的な対策)			
6回目	感染対策			
7回目	介護保険領域の理学療法業務(入所・通所・訪問 等			
8回目	介護保険領域の理学療法業務(介護報酬、地域包括ケアシステム、介護予防活動			
9回目	急性期リハビリテーションにおける業務			
10回目	急性期リハビリテーションにおけるリスク管理・ケーススタディ			
11回目	回復期リハビリテーションにおける業務			
12回目	回復期リハビリテーションにおけるリスク管理・ケーススタディ			
13回目	外来や在宅・施設でのリハビリテーションにおける業務			
14回目	外来や在宅・施設でのリハビリテーションにおけるリスク管理・ケーススタディ			
15回目	まとめ			
評価方法	授業への出席状況、参加態度などを考慮し、筆記試験、レポートなど総合的に判断する。			
教科書	プリント資料等を用意する予定です。			
参考書・資料等	プリント資料等を用意する予定です。			
履修上の注意	時間の許す限り、基礎的な学力の確認も随時実施していきます。			

授業科目	理学療法評価法Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	神崎 美佳・佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法評価について、理学療法及びリハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義の理解を深め、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を習得する。		
行動目標	障害モデルと理学療法評価の関連について説明できる。 臨床的思考決定過程のなかで理学療法評価の目的や意義を説明できる。 各検査において適切なオリエンテーションができる。 各検査において検査・測定器具を正しく取り扱うことができ、測定肢位を適切に選択することができる。 各検査において検査・測定結果を適切に解釈することができる(適切に検査・測定を行うことができる)。 各検査において検査・測定方法、検査・測定結果を説明できる。		
キーワード	評価, 検査, 測定		
スケジュール			
1回目/2回目	理学療法評価総論 / 理学療法評価総論		
3回目/4回目	血圧 / 血圧		
5回目/6回目	形態測定 / 形態測定		
7回目/8回目	形態測定 / 形態測定		
9回目/10回目	バランス検査 / バランス検査		
11回目/12回目	反射検査 / 反射検査		
13回目/14回目	反射検査 / 反射検査		
15回目/16回目	筋緊張検査 / 筋緊張検査		
17回目/18回目	協調性検査 / 協調性検査		
19回目/20回目	痛みの評価 / 痛みの評価		
21回目/22回目	知覚検査 / 知覚検査		
23回目/24回目	知覚検査 / 知覚検査		
25回目/26回目	知覚検査 / 知覚検査		
27回目/28回目	整形外科的検査 / 整形外科的検査		
29回目/30回目	まとめ / まとめ		
評価方法	筆記試験(50点) 筆記試験は授業の最終回終了後の期末試験期間中に行う。 実技試験(50点)		
教科書	ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版, 著者 田崎義昭・斎藤佳雄, 南山堂		
参考書・資料等	理学療法評価学 改訂第6版, 著者 松澤正, 金原出版		
履修上の注意	実技の講義の際は、KCを着用し、実習に臨む容姿で受講すること。 (最初2コマ分の講義は通常の服装でよい。1回目に4回目以降の服装などを詳細に指示を行う。)		

授業科目		理学療法評価法Ⅱ	履修年次	2年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義・実技	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		神崎 美佳	オフィスアワー	月-金(土日)9:00-17:00
一般目標	理学療法評価について、理学療法及びリハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義の理解を深め、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を習得する。			
行動目標	障害モデルと理学療法評価の関連について説明できる。 臨床的思考決定過程のなかで理学療法評価の目的や意義を説明できる。 各検査において適切なオリエンテーションができる。 各検査において検査・測定器具を正しく取り扱うことができ、測定肢位を適切に選択することができる。 各検査において検査・測定結果を適切に解釈することができる(適切に検査・測定を行うことができる)。 各検査において検査・測定方法、検査・測定結果を説明できる。			
キーワード	運動学的視点、神経システム、動作分析、理学療法評価			
スケジュール				
1.2回目	復習(理学療法評価学Ⅰの範囲) / 筋力検査(MMT以外)			
3.4回目	筋トヌス検査			
5.6回目	日常生活活動(動作)検査			
7.8回目	動作分析			
9.10回目	整形外科超音波検査			
11.12回目	運動発達検査			
13.14回目	姿勢反射検査			
15.16回目	片麻痺機能検査			
17.18回目	脳神経検査			
19.20回目	高次脳機能検査			
21.22回目	電気生理学的検査			
23.24回目	呼吸機能検査			
25.26回目	循環機能検査			
27.28回目	臨床応用①			
29.30回目	臨床応用②			
評価方法	実技試験(50点) 筆記試験(50点)			
教科書	理学療法評価学 改訂第6版, 著者 松澤正, 金原出版 ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版, 著者 田崎義昭・斎藤佳雄, 南山堂			
参考書・資料等	教員が作成した資料 理学療法評価学 改訂第6版, 著者 松澤正, 金原出版 ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版, 著者 田崎義昭・斎藤佳雄, 南山堂			
履修上の注意	1年生の時の理学療法評価学Ⅰの復習も入ります。各自で改めて見直しをしておいてください。 実技の講義の際は、KCを着用し、実習に臨む容姿で受講すること。			

授業科目		臨床運動学Ⅰ	履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態		講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 姿勢と正常な動作を理解する。 2. 正常な諸動作の分析方法を理解する。 3. 正常歩行とその分析方法を理解する。			
行動目標	1. 姿勢と正常な動作をを学ぶ。 2. 正常な諸動作の分析方法を学ぶ。 3. 正常歩行とその分析方法を学ぶ。			
キーワード	姿勢 動作 動作分析 歩行分析			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション／重心、身体重心位置、支持基底面、COGの求め方、関節および歩行モーメント			
2回目	立位保持、静止立位と重心動揺、静止立位におけるモーメント			
3回目	寝返り動作の分析			
4回目	起き上がり動作の分析			
5回目	立ち上がり動作の分析			
6回目	正常歩行の分析基礎 ①歩行周期			
7回目	正常歩行の分析基礎 ②歩行周期と各関節角度			
8回目	正常歩行の分析基礎 ③歩行周期と下肢筋の収縮			
9回目	正常歩行の分析基礎 ④時間距離因子			
10回目	正常歩行の分析基礎 ③足部ロッカー			
11回目	筋の存在理由とパフォーマンス			
12回目	筋収縮の仕組みと関節角度による筋力の違い			
13回目	筋収縮と熱発生			
14回目	トレーニングと筋肥大のメカニズム①			
15回目	トレーニングと筋肥大のメカニズム②			
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。			
教科書	1. 基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社			
参考書・資料等	1. 姿勢・動作・歩行分析、臨床歩行分析研究会、羊土社 2. 標準理学療法学 臨床動作分析、医学書院 3. 消して忘れない 運動学要点整理ノート、羊土社 4. レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学、中山書店 5. 高齢者理学療法学テキスト、南江堂			
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。			

授業科目		臨床運動学Ⅱ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 各疾患によって生じる特徴的な身体障害を理解する。 2. 各疾患によって生じる特徴的な身体障害による諸動作の分析方法を理解する。 3. 各疾患によって生じる特徴的な身体障害による異常歩行の分析方法を理解する。			
行動目標	1. 各疾患によって生じる特徴的な身体障害を説明できる。 2. 各疾患によって生じる特徴的な身体障害による諸動作の分析ができる。 3. 各疾患によって生じる特徴的な身体障害による異常歩行の分析ができる。			
キーワード	姿勢 動作 動作分析 歩行分析 疾患 高齢者			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション／正常な動作の振り返り			
2回目	異常歩行のまとめ			
3回目	脳卒中の基本と姿勢、動作			
4回目	脳卒中の歩行の観察			
5回目	パーキンソン病の基本と姿勢、動作			
6回目	パーキンソン病の歩行の観察			
7回目	大腿骨頸部骨折の基本と姿勢、動作			
8回目	大腿骨頸部骨折の歩行の観察			
9回目	小脳失調症の基本と姿勢、動作、歩行の観察			
10回目	変形性股関節症の基本と姿勢、動作、歩行の観察			
11回目	変形性膝関節症の基本と姿勢、動作、歩行の観察			
12回目	関節リウマチの基本と姿勢、動作、歩行の観察			
13回目	高齢者の基礎知識			
14回目	老年症候群の基本 ／ 高齢者の歩行の基本			
15回目	動作分析のスポーツへの応用			
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。			
教科書	1. リハビリテーションのための姿勢と動作, 金村尚彦他, CBR 2. 基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社			
参考書・資料等	1. 姿勢・動作・歩行分析、臨床歩行分析研究会、羊土社 2. 標準理学療法学 臨床動作分析, 医学書院 3. 消って忘れない 運動学要点整理ノート, 羊土社 4. レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学, 中山書店 5. 高齢者理学療法学テキスト, 南江堂			
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。			

授業科目	日常生活活動論Ⅰ	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	神崎 美佳	オフィスアワー	原則 月～金 8:30～17:20
一般目標	日常生活とは何かを理解し、リハビリテーションを施行する上での必要性を説明できる。		
行動目標	・日常生活活動の概念が説明できる ・日常生活活動の範囲(セルフケア,生活関連動作,生活の質)が説明できる ・セルフケアを構成する主な動作を理解し説明できる ・日常生活に必要な身体動作を理解し説明できる ・日常生活動作の評価方法を理解し,評価が行える ・日常生活動作と障害や生活の質との関係を理解することができる ・移動補助具や支援機器について基本的な使用方法を理解し説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション 日常生活動作とは何か。		
2回目	QOL、BADL、IADL、APDL		
3回目	ADLと障害 BIとFIM		
4回目	QOL評価		
5回目	小テスト、演習		
6回目	ADLを支援する機器① 車椅子		
7回目	ADLを支援する機器② 杖、補講補助具		
8回目	ADLを支援する機器③ 福祉用具		
9回目	小テスト、実技演習		
10回目	ADLの運動学的分析		
11回目	起居動作・移乗動作の基本		
12回目	起居動作・移乗動作の基本(実技)		
13回目	生活環境と家屋調査		
14回目	ICFとICIDH		
15回目	まとめ		
評価方法	授業態度、小テスト、筆記試験		
教科書	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版		
参考書・資料等	PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版 (羊土社) Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学 (メジカルレビュー社)		
履修上の注意	実技を行う際には事前に連絡するので、実習着で臨むこと。		

授業科目	日常生活活動論Ⅱ	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	各疾患に対しての日常生活活動の評価、日常生活動作練習の提案が出来るようになる。		
行動目標	・各疾患の病態の整理 ・日常生活活動練習の意義、手段について述べる事ができる ・基本的な介助方法を理解し実施できる		
キーワード	片麻痺、関節リウマチ、変形性膝関節症、呼吸器疾患、循環器疾患、神経筋疾患、高次脳機能障害		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	片麻痺のADL		
3回目	実技演習		
4回目	関節リウマチのADL		
5回目	変形性膝関節症(人工骨頭置換術)のADL		
6回目	実技演習		
7回目	実技演習(移乗動作)		
8回目	小テスト		
9回目	呼吸器疾患のADL		
10回目	循環器疾患のADL		
11回目	実技演習		
12回目	神経筋疾患のADL		
13回目	実技演習		
14回目	ICF・ICIDH		
15回目	症例検討		
評価方法	授業態度、小テスト、本試験		
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学 MEDICAL VIEW		
参考書・資料等			
履修上の注意	実技がある際にはケーシー着用で臨んで下さい。		

授業科目		理学療法演習Ⅰ	履修年次	1年次
			単位数	1単位
授業形態		講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		神崎 美佳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	関節可動域の特徴、決定要素を理解し、安全で疾患に合わせた適切な関節可動域検査を習得する。			
行動目標	基本軸と移動軸、および参考可動域角度を説明できる。 健常人の関節可動域を測定できる。 適切な記録、および学術的資料として活用できる。 関節の機能状態を客観的に把握し、その制限因子を考察できる。 日常生活と関節可動域の関連について説明できる。			
キーワード	関節可動域, 基本軸, 移動軸, 参考可動域, 代償動作			
スケジュール				
1回目	関節運動の基本			
2回目	関節可動域測定の定義と目的			
3回目	肩甲帯(屈曲・伸展、挙上・下制)			
4回目	肩関節(屈曲・伸展、外転・内転)			
5回目	肩関節(外旋・内旋)			
6回目	肩関節(水平屈曲・水平伸展)、肘関節(屈曲・伸展)			
7回目	前腕(回内・回外)、手関節(掌屈・背屈、橈屈・尺屈)			
8回目	股関節(屈曲・伸展、外転・内転)			
9回目	股関節(外旋・内旋)、膝関節(屈曲・伸展)			
10回目	足関節(底屈・背屈)、足部(外転・内転)			
11回目	足部(内がえし・外がえし)、頸部(屈曲・伸展)			
12回目	頸部(側屈、回旋)、胸腰部(屈曲・伸展)			
13回目	胸腰部(側屈、回旋)、母指(橈側外転・尺側内転、掌側外転・掌側内転)			
14回目	手指(屈曲・伸展、外転・内転)、足趾(屈曲・伸展)			
15回目	日常動作と関節可動域			
評価方法	筆記試験(50点) 実技試験(50点) 筆記試験は授業の最終回終了後の期末試験期間中に行う。			
教科書	理学療法評価学 改訂第6版, 著者 松澤正, 金原出版			
参考書・資料等				
履修上の注意	実技の講義の際は、KCを着用し、実習に臨む容姿で受講すること。			

授業科目		理学療法演習Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	徒手筋力検査法は運動や行動の基礎的要素としての筋の力と機能を評価する手技を示したものである。徒手筋力テストは理学療法士にとって重要な基本手技であり、修得しなければならない技術である。			
行動目標	本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。 ①検査法の理念・原則を十分に理解し説明することができる。 ②想定される患者、対象者に対しテキストに示された手技を速やかに遂行することができる。 ③国家試験に沿った知識の理解を深める。 【行動目標】 徒手筋力検査の目的・判断基準・基本の手順を理解する。代償動作・固定と抵抗など基本的な注意事項を理解できる。			
キーワード	原則を踏まえた手技の履行 臨床での応用 徒手筋力テスト			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション MMT総論			
2回目	股関節屈曲、股関節屈曲・外転・および膝関節屈曲位での外旋、股関節伸展			
3回目	股関節外転、股関節内転、股関節外旋、股関節内旋			
4回目	膝関節屈曲、膝関節伸展			
5回目	足関節底屈、足関節背屈ならびに内がえし、足の内がえし、足の底屈を伴う外がえし			
6回目	肩甲骨外転と上方回旋、肩甲骨挙上、肩甲骨内転			
7回目	肩甲骨下制と内転、肩甲骨内転と下方回旋			
8回目	肩関節屈曲(前方挙上)、肩関節伸展(後方挙上)、肩関節外転(側方挙上)			
9回目	肩関節水平外転、肩関節水平内転、肩関節外旋			
10回目	肩関節内旋、肘関節屈曲、肘関節伸展			
11回目	前腕回内、前腕回外、手関節屈曲、手関節伸展			
12回目	体幹伸展、骨盤挙上、体幹屈曲			
13回目	体幹回旋、コアテスト			
14回目	手指・脳神経支配筋のテスト			
15回目	まとめ			
評価方法	授業への参加態度(身だしなみを含む)、定期試験、小テスト			
教科書	新・徒手筋力検査法【原著第10版】 協同医書出版社			
参考書・資料等				
履修上の注意	準備学習:検査の対象となる筋の理解。特に主要な筋の起始・停止・神経支配は復習しておく。 授業では毎回白衣を着用。実技を行うにふさわしい状態で臨んでください。詳細はオリエンテーションでお話します。			

授業科目		理学療法演習Ⅲ		履修年次	2年次
				単 位 数	1単位
授業形態		講義		必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		今泉 仁美		オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	症例レポートの書き方、レジュメの書き方を学び、症例に対して評価から考察までを体系的に理解する。				
行動目標	・症例レポートに必要な情報収集ができる ・学術的な表現ができる ・必要な検査項目を行うことができる ・検査結果に対して、考察ができる				
キーワード	基本情報 理学療法評価 考察 統合と解釈 参考文献 引用文献				
スケジュール					
1回目	ガイダンス 授業の目的、内容、進め方について、学術的な基本表現				
2回目	レポートの書き方① はじめに、基本情報、社会的情報、他部門情報				
3回目	レポートの書き方② 医学的情報、理学療法評価				
4回目	レポート作成① 情報収集、理学療法評価－評価用紙の作成				第1回提出
5回目	レポート作成② 理学療法評価（実技）被験者Aに対するの評価				
6回目	レポート作成③ 理学療法評価（実技）被験者Bに対するの評価				
7回目	レポート作成④ 理学療法評価－結果の記載				第2回提出
8回目	レポートの書き方③ 姿勢分析、動作分析				
9回目	レポートの書き方④ 歩行分析				
10回目	レポート作成④ 姿勢分析、動作分析				
11回目	レポート作成⑤ 歩行分析				第3回提出
12回目	レポートの書き方⑤ 統合と解釈、引用参考文献				
13回目	レポート作成⑥ 統合と解釈				
14回目	レポート作成⑦ 統合と解釈、引用参考文献				
15回目	レポート・レジュメ 作成				第4回提出
評価方法	レポート、レジュメ、定期試験 授業態度(個人作業時の私語、実技時の態度、ペアに対する協力する姿勢 等)				
教科書	理学療法評価法 基礎運動学				
参考書・資料等	動作分析、歩行分析に関する本があれば各自参照してください。 ホチキスを各自購入しておいてください。				
履修上の注意	授業時間内にレポートの作成が終わらない場合、授業時間外に各自で進める必要があります。 できるだけ自宅等で進めなくても済むように、授業時間内は集中して取り組んでください。				

授業科目	理学療法技術論(難病)	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	8:40-17:20
一般目標	理学療法に関係深い神経・筋疾患でみられる主要な障害の特性と、その病態や発症機構、疾患概念を理解し学習する。また、神経系の障害に対する医学的リハビリテーション上の対応・治療の概略及び評価や、検査に必要な神経科学的な基礎知識についても学習する。		
行動目標	1.膠原病(RA、SLE、等)・神経変性疾患(PD、SCD、MS、等)の疾患概念を述べられる。 また、各病態を障害に関連付けて述べられる。 2.各変性疾患の難病としての意味を理解し、評価での神経科学的背景を述べられる。 3.慢性期患者の療養上の問題点と必要なサポートについて述べられる。		
キーワード	難病 病態と障害 サポート		
スケジュール(予定)			
1回目	Guidance Autoimmune disease		
2回目	Collagen disease ・RA(1)(2)		
3回目	Collagen disease ・RA(3)(4)		
4回目	Muscle disease ・PM ・DM		
5回目	Autoimmune disease Muscle disease ・SLE ・DM		
6回目	ALS(1)(2)		
7回目	ALS(3)(4)		
8回目	ALS(5)(6)		
9回目	Distribution		
10回目	MG		
11回目	MS(1)		
12回目	MS(2)		
13回目	GBS(1)(2)		
14回目	CMT		
15回目	Summary		
評価方法	・定期試験 授業参加態度 を基準に総合判定する。		
教科書	・丸山仁司、編 『系統理学療法学 神経障害系理学療法学』医歯薬出版		
参考書・資料等	・細田多穂、他 編 『理学療法ハンドブック第3巻 疾患別・理学療法プログラム』協同医書出版社 ・資料配布 ※その他、神経内科学系の文献を広く熟読しておくこと。		
履修上の注意	・授業の理解には、解剖・生理や内科学・神経内科の知識が必須です。自主的な予・復習を滞りなく！！		

授業科目	理学療法技術論(脊椎疾患)	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	両角 昌実	オフィスアワー	
一般目標	脊椎疾患の病態及び理学療法に関する理解を深め、環境整備を含む具体的な理学療法プログラムの立案能力を習得する。		
行動目標	脊椎の解剖・運動学的特長を説明できる。 脊椎疾患の特性と障害について説明できる。 脊椎疾患についての基本的な評価・治療を行うことができる 脊椎疾患患者に対して、適切なADL指導ができる。 脊椎疾患患者の住環境整備ができる。 障害の受容の段階にあわせた態度・対応ができる。		
キーワード	脊髄損傷(脊椎疾患含む)・障害構造・リハビリテーション		
スケジュール			
1回目	総論 / 運動療法技術復習		
2回目	脊椎の運動学 / 脊椎疾患の特性と障害①		
3回目	脊椎疾患の特性と障害② / 脊椎疾患の特性と障害③		
4回目	脊髄損傷総論① / 脊髄損傷総論②		
5回目	合併症 / 評価		
6回目	運動療法 / ADL指導		
7回目	環境整備 / 基本動作(寝返り/起き上がり)		
8回目	中間テスト / 基本動作(プッシュアップ/座位)		
9回目	基本動作(トランスファー) / 基本動作(車椅子操作)		
10回目	基本動作(歩行) / 装具・自具具		
11回目	車椅子・改造自動車 / 社会参加		
12回目	ケーススタディ・PBL① / ケーススタディ・PBL②		
13回目	ケーススタディ・PBL③ / PBL発表		
14回目	脊椎疾患に対する運動療法 / 総合実技①		
15回目	総合実技② / 総合実技③		
評価方法	筆記試験(60%)・実技試験(30%)・中間テスト(10%)		
教科書	脊髄損傷マニュアル 第2版、神奈川リハビリテーション病院、医学書院		
参考書・資料等	動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション 標準整形外科学		
履修上の注意	国家試験に出題される問題数も多い為、重要な事項は解剖・運動学を復習しながら講義の中で習得する。		

授業科目	理学療法技術論(運動器)	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義ならびに実技	必要時間数	30コマ
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 9:00～17:00
一般目標	運動器疾患に対する理学療法に必要な評価方法・臨床推論プロセス・運動療法の基礎・リスク管理方法を学び、臨床における適切な対応力を習得する。		
行動目標	運動器の解剖学・生理学・運動学の基礎を理解できる。 運動器疾患に対する検査・評価方法の基礎を理解できる。 運動器疾患に対する評価、統合と解釈を的確に行うことができる。 運動器疾患に対する運動療法の理論背景を理解し、基礎となる技術を実践することができる。		
キーワード	運動器疾患 評価 運動療法		
スケジュール			
1回目/2回目	組織再生・修復		
3回目/4回目	骨折と脱臼		
5回目/6回目	骨折と脱臼		
7回目/8回目	骨折と脱臼 / 膝靱帯損傷と半月板損傷		
9回目/10回目	膝靱帯損傷と半月板損傷		
11回目/12回目	変形性股・膝関節症		
13回目/14回目	人工股・膝関節置換術		
15回目/16回目	関節リウマチ		
17回目/18回目	末梢神経損傷		
19回目/20回目	頸部疾患		
21回目/22回目	腰部疾患		
23回目/24回目	脊椎手術		
25回目/26回目	肩関節周囲炎		
27回目/28回目	肩の外傷		
29回目/30回目	足関節捻挫、アキレス腱損傷、ハムストリングの肉離れ		
評価方法	筆記試験の結果と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書	理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ 第2版, 著 石川朗・河村廣幸, 中山書店 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅱ 第2版, 著 石川朗・河村廣幸, 中山書店		
参考書・資料等	運動療法のための機能解剖学的触診技術・上肢 第2版 林典雄 メジカルビュー社 運動療法のための機能解剖学的触診技術・下肢・体幹 第2版 林典雄 メジカルビュー社 整形外科運動療法ナビゲーション・上肢・体幹 第2版 整形外科リハビリテーション学会 メジカルビュー社 整形外科運動療法ナビゲーション・下肢 第2版 整形外科リハビリテーション学会 メジカルビュー社		
履修上の注意	解剖学・生理学・運動学・整形外科の知識に関してはある程度復習をしておいてください。		

授業科目		理学療法技術論(脳血管)		履修年次	2年次
				単 位 数	2単位
授業形態		講義		必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		高杉潤		オフィスアワー	金(9:00～17:00)
一般 目 標	脳の構造・機能を知り、脳血管障害に由来する臨床徴候とそのメカニズムを理解する。 片麻痺をはじめ、脳血管障害により生じる種々の障害に対する理学療法の実際と科学的根拠について理解する。 講義に加え、基本的な治療技術を習得する。				
行 動 目 標	・脳の構造・機能を理解し、脳血管障害の病態・障害像を把握できる。 ・脳血管障害などの神経疾患に対する適切な評価および治療手段を選択・実施できる。 ・運動療法が及ぼす中枢神経系(脳機能)への影響を理解し、説明できる。				
キーワード		脳血管障害・錐体路障害、高次脳機能障害・運動療法			
スケジュール					
1・2回目	9月2日	(3・4限)	脳卒中の理学療法評価の実践1		
3・4 回目	9月9日	(3・4限)	脳卒中の理学療法評価の実践2		
5・6 回目	9月16日	(3・4限)	脳卒中の理学療法の過程		
7・8 回目	9月30日	(3・4限)	片麻痺の動作分析		
9・10回目	10月7日	(3・4限)	片麻痺のアプローチ1		
11・12 回目	#####	(3・4限)	片麻痺のアプローチ2		
13・14 回目	#####	(3・4限)	片麻痺のアプローチ3		
15・16 回目	#####	(3・4限)	片麻痺のアプローチ4		
17・18 回目	11月4日	(3・4限)	片麻痺のアプローチ5		
19・20 回目	#####	(3・4限)	総合学習(実技評価)		
21・22回目	#####	(3・4限)	高次脳機能障害へのアプローチ1		
23・24回目	#####	(3・4限)	高次脳機能障害へのアプローチ2		
25・26回目	12月2日	(3・4限)	ニューロリハビリテーション		
27・28 回目	12月9日	(3・4限)	運動失調の病態とアプローチ		
29・30回目	#####	(3・4限)	総合学習(総括)		
評 価 方 法	定期試験(90%)、授業態度(10%)で総合的に評価する。				
教 科 書	標準理学療法学 神経理学療法学 第3版(医学書院)				
参 考 書 ・ 資 料 等	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社) 15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト神経障害理学療法学Ⅰ(中山書店) ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)				
履 修 上 の 注 意	神経内科学、脳外科学、評価Ⅱなどの学習内容が基礎となるため、十分に復習を行うこと。				

授業科目	理学療法技術論(内部障害Ⅰ)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	座学・実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8：30～17：20
一般目標 動目標	生理学の知識を元に、代謝、循環についての理解を深める。 内部障害に対する理学療法の意義を理解し、技術を習得する。		
	・ 内部障害の機序について、生理学の知識を元に説明ができる ・ 内部障害に対しての理学療法を実践できる		
キーワード	運動生理，循環・代謝疾患，運動療法，心臓リハビリテーション		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション 内部障害の定義ー内部障害とは何か		
2回目	呼吸器疾患の基礎（呼吸器の解剖生理の復習）		
3回目	呼吸器疾患各論（呼吸機能検査）		
4回目	呼吸器疾患各論（閉塞性肺疾患）		
5回目	呼吸器疾患各論（拘束性換気障害）		
6回目	呼吸器疾患に対する理学療法（聴診、排痰法、胸郭可動域訓練、呼吸介助）		
7回目	人工呼吸器管理、気道内吸引の基本		
8回目	小テスト（呼吸器疾患）、国家試験演習		
9回目	代謝障害の基礎（代謝の生理学の復習、酸塩基平衡）		
10回目	代謝障害各論（脂質異常症とエネルギー）		
11回目	代謝障害各論（糖尿病）		
12回目	代謝障害各論（慢性腎臓病、人工透析）		
13回目	代謝障害に対する理学療法（運動療法）		
14回目	小テスト（代謝障害）、国家試験演習		
15回目	総復習、国家試験演習		
評価方法	授業態度・小テスト・試験		
教科書	最新 理学療法学講座 内部障害理学療法学 （医歯薬出版株式会社）		
考書・資料	講師配布資料		
履修上の注意	・ 授業態度によっては課題等の提出を求める可能性があるため留意すること。 ・ 毎回の授業ごとにミニテストを実施、単元ごとに小テストを実施予定。		

授業科目	理学療法技術論(内部障害Ⅱ)	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	呼吸器疾患、循環器疾患、代謝障害、がんに対する基礎知識の整理。 及び、それらに対する理学療法の理解、技術の習得。		
行動目標	・各疾患に対する基礎知識を確認する ・国家試験で問われる内容に関して理解する ・基本的な手技の習得に務める		
キーワード	呼吸器疾患、代謝疾患、循環器疾患、がん		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	循環器疾患①		
3回目	循環器疾患②		
4回目	循環器疾患③		
5回目	がん・周術期に対する理学療法①		
6回目	がん・周術期に対する理学療法②		
7回目	小テスト		
8回目	呼吸器疾患の復習		
9回目	代謝障害の復習		
10回目	内部障害に対する運動療法①		
11回目	内部障害に対する運動療法②		
12回目	国家試験演習		
13回目	国家試験演習		
14回目	国家試験演習		
15回目	国家試験演習		
評価方法	授業態度、小テスト、本試験		
教科書	最新 理学療法学講座 内部障害理学療法学 医歯薬出版		
参考書・資料等	担当教員が用意した授業資料も使用する。		
履修上の注意	基本的には座学で行いますが、一部実技の授業があります。実技の際には動きやすい服装で臨んで下さい。 (実技授業の際には予告をします)		

授業科目		理学療法技術論(小児)	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		三沢 峰茂	オフィスアワー	
一般目標	小児疾患の代表的な疾患(脳性麻痺、二分脊椎、神経筋疾患など)の症候をまとめ、その障害に対する理学療法の理解を深める。			
行動目標	各疾患毎に、姿勢・運動障害の特徴を説明できる。 姿勢運動障害を評価する検査測定を実施できる。 理学療法プログラム立案の手順を説明できる。 理学療法プログラムの指導を実施できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	こどもの運動器障害とそれに対する基本的な運動療法			
2回目	こどもの運動器障害とそれに対する基本的な運動療法			
3回目	NICUにおける理学療法			
4回目	脳性麻痺概論			
5回目	痙直型四肢麻痺の特徴と運動療法			
6回目	痙直型四肢麻痺の特徴と運動療法			
7回目	痙直型両麻痺の特徴と運動療法、歩行訓練			
8回目	痙直型両麻痺の特徴と運動療法、歩行訓練			
9回目	アトーゼ型脳性麻痺児の特徴と運動療法			
10回目	アトーゼ型脳性麻痺児の特徴と運動療法			
11回目	弛緩型脳性麻痺の特徴と運動療法			
12回目	神経筋疾患の特徴と運動療法			
13回目	二分脊椎の特徴と運動療法			
14回目	二分脊椎の特徴と運動療法			
15回目	発達運動学的治療(ボイタ)、神経発達学的治療(NDT)について			
評価方法	筆記試験			
教科書	特になし			
参考書・資料等	授業の中で適時紹介する			
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。			

授業科目		運動療法学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 9:00～17:00
一般目標	基本的な運動療法に関する理解を深め、それぞれの患者に合わせた理学療法プログラムの立案能力を習得			
行動目標	関節の構造や動きを説明できる。 関節可動域に影響を与える因子について説明できる。 基本的な関節可動域運動を行うことができる 筋の特性を説明することができる。 筋力トレーニングの選択及び説明ができる。			
キーワード	関節可動域治療・筋力トレーニング・リスク管理			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション			
2回目	運動療法の基礎			
3回目	関節可動域運動			
4回目	関節可動域運動			
5回目	関節可動域運動			
6回目	筋力増強運動			
7回目	筋力増強運動			
8回目	筋力増強運動			
9回目	持久力運動			
10回目	持久力運動			
11回目	持久力運動			
12回目	協調性運動/その他			
13回目	協調性運動/その他			
14回目	協調性運動/その他			
15回目	まとめ			
評価方法	筆記試験の結果と授業への参加態度などを総合的に評価する			
教科書	運動療法学総論 第4版, 著 奈良勲, 医学書院			
参考書・資料等	運動療法学 改訂第2版, 著 柳澤健, 金原出版			
履修上の注意	臨床で多用される関節可動域練習及び筋力トレーニングについての知識・技術を 習得する。また、時間があれば、モビライゼーション等の特殊療法も学習する。			

授業科目	物理療法学Ⅰ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	理学療法の一つとなる物理療法について理解し、実施できることを目指す。 (実際に実施することは別の単位となる)		
行動目標	① 物理療法の種類を説明できる ② 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の適応について説明できる ③ 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の禁忌について説明できる ④ 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の実施方法について説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション、物理療法の種類		
2回目	温熱療法とは、適応、禁忌、実施方法		
3回目	温熱療法とは、適応、禁忌、実施方法		
4回目	温熱療法とは、適応、禁忌、実施方法		
5回目	電気刺激療法とは、適応、禁忌、実施方法		
6回目	電気刺激療法とは、適応、禁忌、実施方法		
7回目	電気刺激療法とは、適応、禁忌、実施方法		
8回目	寒冷療法とは、適応、禁忌、実施方法		
9回目	寒冷療法とは、適応、禁忌、実施方法		
10回目	光線療法とは、適応、禁忌、実施方法		
11回目	光線療法とは、適応、禁忌、実施方法		
12回目	超音波療法とは、適応、禁忌、実施方法		
13回目	超音波療法とは、適応、禁忌、実施方法		
14回目	牽引療法とは、適応、禁忌、実施方法		
15回目	牽引療法とは、適応、禁忌、実施方法		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	物理療法学 改訂第3版、松澤 正・江口勝彦 監修、金原出版株式会社		
参考書・資料等	イラストでわかる物理療法、杉元雅晴・菅原 仁 編、医歯薬出版株式会社 エビデンスから身につける物理療法、庄本康治 編、羊土社 物理療法学、烏野 大・川村博文 編、医歯薬出版株式会社 物理療法学テキスト 改訂第3版、細田多穂 監修、南江堂		
履修上の注意	後期には、前記で学習する物理療法を実際に体験します。この授業を通し理解を深め、実際に実践することができるよう知識を高める必要があります。		

授業科目		物理療法学Ⅱ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		佐藤真吾	オフィスアワー	月～金:8:30～17:20
一般目標	機器を安全に操作できるようになる。機器の特性を知る。			
行動目標	・機器の操作に関して、リスク管理をする。 ・適応疾患を類別する。 ・禁忌事項を判断する。 ・治療を行える。			
キーワード	適応・禁忌・リスク管理・物理的作用			
スケジュール				
1回目	物理療法器具の使用			
2回目	物理療法器具の使用			
3回目	物理療法器具の使用			
4回目	物理療法器具の使用			
5回目	物理療法器具の使用			
6回目	物理療法器具の使用			
7回目	物理療法器具の使用			
8回目	物理療法器具の使用			
9回目	物理療法器具の使用			
10回目	物理療法器具の使用			
11回目	物理療法器具の使用			
12回目	物理療法器具の使用			
13回目	物理療法器具の使用			
14回目	物理療法器具の使用			
15回目	物理療法器具の使用			
評価方法	グループ発表 実験への取り組み姿勢 出欠席			
教科書	物理療法学テキスト(南江堂)			
参考書・資料等				
履修上の注意	臨床で多用される知識・技術のため、各自が機器を扱えるように習得する必要がある。機器の特性や注意事項を再認識をしておく。また、物理療法における必要知識として、解剖学・生理学の知識が重要となるので復習をしておくこと。			

授業科目		義肢学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		豊田 輝	オフィスアワー	
一般目標	義肢の基本となる理論などを理解するとともに各切断に応じた義肢の名称・機能・適応について理解し，理学療法士・作業療法士として必要な評価および治療に必要な事項を習得する。			
行動目標	各切断高位に応じた義肢の特徴を説明できる。 切断者に対する評価の目的を説明できる。 切断者に対する評価を実施できる。 義足のアライメント調整ができる。 切断者に対するプログラムが立案できる。			
キーワード	切断者・義肢・アライメント			
スケジュール				
1回目	義肢学総論(歴史, 切断原因, 切断高位と切断術など)			
2回目	切断者の評価(全体的評価)			
3回目	断端管理法(目的, 利点と欠点など)			
4回目	大腿義足ソケット			
5回目	大腿義足ソケット			
6回目	膝義足			
7回目	膝継手・足継手			
8回目	大腿義足・膝義足アライメント			
9回目	下腿義足ソケット			
10回目	下腿義足ソケット			
11回目	サイム義足・足部義足			
12回目	下腿義足・サイム義足アライメント			
13回目	股義足ソケット・股義足アライメント			
14回目	切断者に対するプログラム			
15回目	上肢切断のリハビリテーション			
評価方法	筆記試験(100点)			
教科書	義肢・装具学 ―異常とその対応がわかる動画付き、出版社名:羊土社、監修高田治実、編集豊田輝、石垣栄			
参考書・資料等				
履修上の注意	適宜、実技練習を行うことがあるため、実習ができる服装で受講すること。その他、「切断者の評価」コマでは、テープメジャー等を持参すること			

授業科目	装具学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	神崎 美佳	オフィスアワー	月～金 :30～17:20
一般目標	装具の使用目的や方法・注意点を理解し、使える。症例によって適切な装具を選択できる。		
行動目標	装具・各種部品の名称や特徴の理解 疾患別装具療法の理解 靴型装具や車椅子・杖の理解 装具の給付制度の理解		
キーワード	関節の動きと装具の役割・構成部品の役割・日常動作と装具の役割		
スケジュール			
1回目	装具学総論		
2回目	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト		
3回目	足継手の制御機構		
4回目	脳卒中片麻痺の装具		
5回目	脳卒中患者の装具療法の実際		
6回目	短下肢装具装着における歩行分析		
7回目	整形外科装具		
8回目	脊柱側弯症の装具、小児疾患の装具		
9回目	上肢装具～末梢神経障害・関節リウマチ等～①		
10回目	上肢装具～末梢神経障害・関節リウマチ等～②		
11回目	頸椎・胸腰椎疾患の装具		
12回目	対麻痺の装具		
13回目	車いす・杖・歩行器等		
14回目	靴型装具・義肢装具の給付制度		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題等を含む)、筆記試験を総合して判断します。		
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 単行本 羊土社		
参考書・資料等	適宜、配布します。		
履修上の注意	実際の装具を装着体験してもらうことがあります。数やサイズに限りがあるため、全員に装着してもらうことは難しいですが、動きやすい服装(私服で可)をお願いします。		

授業科目	理学療法特論	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	
一般目標	理学療法士にとっての幅広い知識を養うことを目標とする。		
行動目標	理学療法士にとっての、学術的知識、行動的知識を整理し、就職後の活動に生かす。		
キーワード	手技、テクニック		
スケジュール			
1回目	PNF		
2回目	PNF		
3回目	PNF		
4回目	ボバース		
5回目	ボバース		
6回目	ボバース		
7回目	テーピング		
8回目	テーピング		
9回目	テーピング		
10回目	DYJOC		
11回目	DYJOC		
12回目	DYJOC		
13回目	筋膜リリース		
14回目	筋膜リリース		
15回目	筋膜リリース		
評価方法	授業中の態度ならびに出席状況		
教科書	特になし		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	地域リハビリテーションⅠ	履修年次	3年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 地域リハビリテーションについて理解する。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割りについて理解する。		
行動目標	1. 地域リハビリテーションの理念などについて学ぶ。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割りについて学ぶ。 3. 介護保険における理学療法士としてのアプローチについて学ぶ。		
キーワード	医療保険、介護保険、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション		
スケジュール			
1回目	地域リハビリテーションの考え方と関連する制度の変遷		
2回目	医療保険制度および介護保険制度の中での地域リハビリテーション		
3回目	地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション		
4回目	地域支援事業での理学療法士の役割りと事業企画の方法		
5回目	地域リハビリテーションにおける関連職種の理解と安全管理		
6回目	介護保険下における理学療法		
7回目	介護予防とリハビリテーション介入		
8回目	住環境整備と理学療法士		
9回目	住環境整備演習		
10回目	障害者スポーツ①		
11回目	障害者スポーツ②		
12回目	地域リハビリテーションの実際 ①認知症および精神領域		
13回目	地域リハビリテーションの実際 ②発達障害、慢性呼吸不全		
14回目	地域リハビリテーションの実際 ③口腔・嚥下機能低下、ターミナル		
15回目	地域リハビリテーションの実際 ④進行性難病、重度心身障害		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト(南江堂)		
参考書・資料等	1. 理学療法学テキスト 地域理学療法学(メディカルビュー) 2. 最新理学療法学講座 地域理学療法学(医歯薬出版) 3. 利用者から学ぶ福祉住環境整備(三輪書店)		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、基本、毎回到小テストを行います。 2. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目		地域リハビリテーション論Ⅱ	履修年次	3年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義・演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		佐藤真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	地域に根差したりハビリテーションを実践する上で必要となる理論的枠組みと知識をこれまでの歴史を踏まえ学習する。			
行動目標	・地域での理学療法士の役割を理解できる。 ・地域で生活するために必要な制度について理解できる。 ・地域包括ケアシステムの概要と役割が理解できる。 ・訪問リハビリの内容と役割を理解できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	地域リハビリテーションの概念・理念			
2回目	地域生活と地域理学療法 地域で求められるOT			
3回目	地域の社会資源について			
4回目	社会保障制度について			
5回目	各事業所の実践① 地域包括ケアシステム			
6回目	各事業所の実践 地域包括ケアシステム 事例検討			
7回目	各事業所の実践③ 通所リハビリテーション			
8回目	各事業所の実践 通所リハビリテーション 事例検討			
9回目	各事業所の実践③ 訪問リハビリステーション			
10回目	各事業所の実践 訪問リハビリステーション 事例検討			
11回目	各事業所の実践④ 介護老人保健施設、特別養護老人ホーム			
12回目	各事業所の実践④ 介護老人保健施設、特別養護老人ホーム 事例検討			
13回目	物理的環境におけるアプローチ① 住宅改修・福祉機器導入			
14回目	物理的環境におけるアプローチ② 住宅改修・福祉機器導入			
15回目	まとめ			
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。			
教科書	なし			
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。			
履修上の注意				

授業科目	生活環境学	履修年次	
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 生活環境学における理学療法士・作業療法士の役割りについて理解する。 2. 生活環境整備に必要なチームアプローチについて理解する。		
行動目標	1. 生活環境学における理学療法士・作業療法士の役割りについて学ぶ。 2. 障害や動作能力の違いに合わせた住環境整備について学ぶ。 3. 生活環境整備に必要なチームアプローチについて学ぶ。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	障害のとらえ方としてのICIDHとICF		
2回目	日本の生活環境の特徴と課題		
3回目	生活環境整備に関わる法律について		
4回目	生活環境整備の進め方とチームアプローチ		
5回目	生活環境整備の実際 ①玄関・アプローチ・廊下・階段		
6回目	生活環境整備の実際 ②トイレ・浴室		
7回目	生活環境整備の実際 ③台所・居間・寝室		
8回目	疾患別生活環境整備 ①CVA		
9回目	疾患別生活環境整備 ②パーキンソン病		
10回目	疾患別生活環境整備 ③脊髄損傷		
11回目	疾患別生活環境整備 ④関節リウマチ、変形性関節症		
12回目	基本的な建築図面の読み方		
13回目	まちづくりに関する障害者施策および配慮		
14回目	生活環境整備演習 ①CVA、杖歩行		
15回目	生活環境整備演習 ②CVA、車いす		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. 生活環境学テキスト、南江堂		
参考書・資料等	1. 福祉環境コーディネーター検定試験2級テキスト、東京商工会議所 2. 利用者から学ぶ福祉住環境整備、三輪書店		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、基本、毎回到小テストを行います。 2. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目	臨床実習Ⅰ（見学）	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床における理学療法士の役割を見学実習を通して包括的に体験する。 医療従事者としての基本的態度を学ぶ。		
行動目標	1. 施設の業務および役割を理解する。 2. 理学療法士が関わる種々の疾患または障害のある対象者について理解する。 3. 対象者や実習指導者とのコミュニケーションが適切にとれる。 4. 医療従事者としての身だしなみや言葉遣い、行動などが適切にできる。		
スケジュール			
実習期間:1週間 * 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。 ＜内容＞ 1. 臨床見学実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で1週間の臨床見学実習を行う。 3. 臨床見学実習後オリエンテーション 4. 臨床見学実習発表会(レジュメ発表) ＜実習の実際＞ 1. 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で治療見学を行う。 2. 臨床見学実習報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。			
	臨床実習指導者による評価と校内での臨床見学実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし。		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	疾患特性など病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	臨床実習Ⅱ（地域）	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床見学実習で得た知識や技術、情意行動を活かす。 理学療法の臨床現場において対象者を身近に感じ取り信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力を高める。また、評価や治療の一部を体験することで、理学療法に関する知識や技術の必要性を認識することを目的とする。		
行動目標	1. 対象者に対して問診技術を中心としたコミュニケーションが適切にとれる。 2. 理学療法士が関わる様々な疾患または障害に対して実施する評価や治療の一部を理解することができる。 3. 理学療法に関する知識や技術の必要性を認識することができる。		
スケジュール			
実習期間:1週間 * 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。 ＜内容＞ 1. 臨床体験実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で1週間の臨床見学実習を行う。 3. 臨床体験実習後オリエンテーション 4. 臨床体験実習発表会(レジュメ発表) ＜実習の実際＞ 1. 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で治療見学を行う。 2. 臨床体験実習報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。			
	臨床実習指導者による評価と校内での臨床見学実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし。		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	疾患特性など病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	臨床評価実習	履修年次	2年次
		単 位 数	6単位
授業形態	実習	必要時間数	270時間
一般目標	臨床体験実習で得た知識や技術、情意行動を活かす。 各施設で対象者に対して理学療法評価を実施する。 対象者を評価することで理学療法士が関わる様々な疾患や障害を理解し、問題点把握や治療目標の立案を行う。		
行動目標	1.指導者の助言・指導の下に立案した評価内容を実施できる。 2.対象者の問題点を抽出し、治療目標の立案ができる。 3.対象者の病態像や障害像、生活像を把握することができる。 4.評価の結果をレポートとしてまとめて報告することができる。		
キーワード	総合学習、復習		
スケジュール			
実習期間:6週間 * 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学習などを含め45時間以内とする。 <内容> 1.臨床評価実習前オリエンテーション 2.本校指定の臨床実習施設で4週間の臨床評価実習を行う。 3.臨床評価実習後オリエンテーション 4.臨床評価実習発表会(スライド発表) <実習の実際> 1.本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で評価の結果から問題抽出を行い、治療目標を立案する。 2.臨床評価実習報告書を毎日指導者に提出する。 3.レポート課題等は必要に応じて課される。			
評価方法	臨床実習指導者による評価と校内での臨床評価実習の報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	評価技術に対する十分な実技練習と病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	臨床総合実習	履修年次	3年次
		単 位 数	12単位
授業形態	実習	必要時間数	315時間
一般目標	臨床評価実習で得た知識や技術、情意行動を活かす。 各施設で対象者に対して理学療法評価および治療技術を実施する。 対象者の問題点把握や治療プログラムの立案を通して理学療法士としての一連の流れを体験する。		
行動目標	1.対象者の問題点を抽出し、治療目標の立案ができる。 2.指導者の助言・指導の下に立案した治療プログラムを実施できる。 3.医療人としての役割や責務を理解することができるようになる。 4.経験した内容をレポートとしてまとめて報告することができる。		
スケジュール			
実習期間：12週間 *臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。			
<内容> 1.総合臨床実習前オリエンテーション 2.本校指定の臨床実習施設で8週間の総合臨床実習を行う。 3.総合臨床実習後オリエンテーション 4.総合臨床実習発表会 <実習の実際> 1.本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指揮・監督の下で評価の結果から問題点週出を行い、治療目標化治療計画を立案する。 2.総合臨床実習報告書を毎日指導者に提出する。 3.レポート課題等は必要に応じて課される。			
評価方法	臨床実習指導者による評価と校内での臨床評価実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート内容を総合的に評価する。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	評価技術・治療技術に対する十分練習と疾患特性など病態像につて理会を深めておくこと。		

授業科目	臨床評価実習セミナー	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	3年次の臨床実習に向け、検査と測定を中心とした臨床技能を修得する。 OSCEテキストの採点基準に基づき、模擬患者役の1年生に対して課題を70%以上みたすことができるよう、検査と測定の手順の確認やその技術の正確性・速度の確立を目指す。		
行動目標	1. 検査と測定を行うために必要な準備ができる。 2. 患者に配慮した行動がとれる。 3. 1年生に実施している内容の意味を説明できる。 4. 評価結果をまとめ、考察をつけて報告できる。		
スケジュール			
1回目	1-3 コミュニケーション技法(1) 実技		
2回目	1-3 コミュニケーション技法(2) 実技		
3回目	2-3 脈拍と血圧の測定(1) 実技		
4回目	2-3 脈拍と血圧の測定(2) 実技		
5回目	2-11 反射検査<腱反射・病的反射>(1) 実技		
6回目	2-11 反射検査<腱反射・病的反射>(2) 実技		
7回目	2-5 ROM-T(上肢) 実技		
8回目	2-5 ROM-T(足関節背屈) 実技		
9回目	2-6 MMT(上肢) 実技		
10回目	2-6 MMT(下肢) 実技		
11回目	症例問題1 2-11 反射検査(下肢) 2-6 MMT(下肢) 実技		
12回目	症例問題2 2-5 ROM-T(下肢) 2-1 療法士面接(問診:疼痛) 実技		
13回目	症例問題3 2-10 感覚検査(表在・深部・複合) 実技		
14回目	症例問題4 2-7 形態測定 実技		
15回目	まとめ		
評価方法	毎回のOSCEについて技能面が70%以上を満たさない場合は、再試験を行う。 OSCEの得点平均(20%)と定期試験の得点(40%)、デイリーノート(40%)を考慮して総合的に評価する。		
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編(金原出版)		
参考書・資料等	リハビリテーションビジュアルブック(学研)		
履修上の注意	臨床実習を想定した学内実習である為、身だしなみはもちろん実習中の態度、言葉遣いも含めた総合評価で成績を判定する。 毎回の講義翌日に講義内容をまとめたデイリーノートと指定課題を担当教員へ提出すること。 毎回、事前課題と事後課題があるので注意すること。		

授業科目		臨床総合実習セミナー	履修年次	3年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
一般目標	治療技術の向上を目指していく。 OSCEテキストの採点基準に基づき、模擬患者役の1年生に対して課題を70%以上満たすことができるよう、治療の手順の確認やその技術の正確性・速度の確立を目指す。			
行動目標	1.治療を行うために必要な準備ができる。 2.患者に配慮した行動がとれる。 3.治療内容をまとめ、考察を付けて報告できる。			
キーワード	総合学習、復習			
スケジュール				
1回目	治療法①			
2回目	治療法①			
3回目	解説			
4回目	解説			
5回目	治療法②			
6回目	治療法②			
7回目	解説			
8回目	解説			
9回目	治療法3			
10回目	治療法3			
11回目	解説			
12回目	解説			
13回目	治療法④			
14回目	解説			
15回目	解説			
評価方法	復習を見つめる中での取り組み方			
教科書	特になし			
参考書・資料等				
履修上の注意				

Syllabus

2023 年度

国際医療福祉専門学校
リハビリテーション学科
作業療法士コース

授業科目	生命倫理 I	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金8:30～17:20
一般目標	骨を通して一般的倫理観を理解していきます		
行動目標	一般的倫理観を身に付ける 医療人としての倫理を身に付ける		
キーワード	倫理		
スケジュール			
1回目	骨模型ならべ		
2回目	骨模型ならべ		
3回目	骨模型ならべ		
4回目	骨模型ならべ		
5回目	生命倫理とは		
6回目	生命倫理とは		
7回目	生命倫理とは		
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、レポートにて判断します。		
教科書	特にありません		
参考書・資料等	特にありません		
履修上の注意	提出物などしっかりと期限内に提出をしましょう		

授業科目	生命倫理Ⅱ	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・グループワーク	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	保健医療福祉の分野において、生じている倫理的問題について学ぶ。 事例を通し、自分の考えを述べることを大切にするとともに、他者の意見も尊重し、ともに考えることができる。		
行動目標	・医療の発展に伴い、生じている倫理的な課題について説明できる。 ・将来の実践現場において起こりうる倫理的課題について、自分の考えをまとめ、他者に伝えることができる。 ・個人的な意見だけではなく、他者の意見も尊重し、柔軟に考えられるようになる。		
キーワード	運動企画、運動制御、運動学習		
スケジュール			
1回目	生命倫理とは		
2回目	インフォームド・コンセントとは	「説明と同意」「知る権利、知らない権利」	
3回目	移植医療について考える	脳死と臓器移植	
4回目	超高齢化社会について	身体拘束、虐待防止、意思決定支援	
5回目	出産と生殖補助医療について考える	AIHとAID、クローン、出生前検査	
6回目	死について考える	安楽死と尊厳死、延命治療、緩和ケア、リビングウィル	
7回目	ターミナルケア	患者様・ご家族様の気持ちを考える ACPについて	
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	授業内で行う小テスト1割、提出課題9割にて判断します。		
教科書	授業で使用する資料は随時配布します。		
参考書・資料等	授業で使用する資料は随時配布します。 必要な教科書や資料は随時お知らせします。		
履修上の注意	出来る限り主体的に、積極的に参加するようにしてください。		

授業科目	心理学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	月～金8:30～17:20
一般目標	心理学は、人間を理解することと深く結びついている。心の働きのメカニズム、発達過程、対人的影響について基礎的な知識を習得する。		
行動目標	心理学の主要な研究領域の特徴を説明できる 人間の心の代表的な認知メカニズムについて説明できる 人間の心の発達過程について説明できる 人間の心の社会との相互関係について説明できる		
キーワード	こころ、適応、しくみ		
スケジュール			
1回目	心理学とは なぜ心理学を学ぶのか？心理学の種類		
2回目	学習心理学①：動機づけと情動 やる気の心理学		
3回目	学習心理学②：記憶と学習 忘却曲線、短期記憶と長期記憶、フィードバック、フィードフォワード		
4回目	性格心理学：自分のことを知ろう		
5回目	知覚心理学：外界を認知する仕組み		
6回目	情動と思考：自分の考え、感情はどこから来るのか		
7回目	社会心理学：行動の促進と抑制		
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	適宜資料を配布します		
参考書・資料等	心理学・入門、サトウタツヤ・渡邊芳之、有斐閣アルマ		
履修上の注意	授業を聞くだけでなく、自分の意見を話すようにしていきましょう		

授業科目		教育学		履修年次	1年次
				単 位 数	1単位
授業形態		講義ならびに演習		必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		藤川孝彦		オフィスアワー	月～金 8:30～17:30
一般目標	作業療法士・理学療法士を取り巻く社会では、教育に携わる機会を挙げると暇がないのが実情である。よって本講では教育学の基礎知識を紹介しながら、教育学的思考の初歩を経験する場を提供する。内容は、作業療法士・理学療法士に必要なスキルを、講義・演習を通じて学びとクラスの親睦の深まりも追求したい。最終的には深い人間理解に根ざした教育観を養うことを目標とする。				
行動目標	「教えること」から「学ぶこと」への気づきが、ひいては患者教育へとつながることを理解する。そして、作業療法士・理学療法士の役割と教育の意義を理解できること。				
キーワード	教育 しつけ 方法論 古典 行動分析				
スケジュール					
1回目	ガイダンス 教育学とは何か？ 目的と意義 ヒトにとっての学び				
2回目	情報伝達とコミュニケーション(1) その方法				
3回目	情報伝達とコミュニケーション(2) 情報受発信力 討論・対話力(1)				
4回目	情報受発信力 討論・対話力(2)				
5回目	古典から考える(1)				
6回目	古典から考える(2)				
7回目	古典から考える(3)				
8回目	Summary オペラントの行動分析から考える 作業療法・理学療法への展望				
評価方法	原則として定期試験で評価する。ただし、場合によってはグループワーク等の受講取組態度を加味することがある。				
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。				
参考書・資料等	参考図書： 佐野洋子著 『100万回生きたねこ』(講談社)				
履修上の注意	講義では毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら将来の自身の作業療法・理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。				

授業科目	社会の理解	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・一部演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦(社会学士)	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	「社会」は、色々な意味を含んでいるが、自身の経験や常識(だけ)に基づき、「社会」についてを曖昧に理解しがちである。その「社会」を構成するのは、作業療法・理学療法の対象となる人間であり、帰属集団といえる。本講では、集団構成員の人間の一面を理解し、家族、地域社会、国家という社会集団について学習する。次いで、医療・理学療法界を取り巻く諸課題を関連させて考えることができるようにすることを目標とする。		
行動目標	●「社会」について多角的に理解するとともに、人間と社会の関連について認識を深める。 ●医療従事者としての社会との関わりについての豊かなイメージを培う。		
キーワード	社会とは 家族 ジェンダー 自己と他者 アノミー		
スケジュール			
1回目	ガイダンス～ イントロダクション——社会学とはどんな学問か？		
2回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 1) 自己——「見る自分」と「見られる自分」		
3回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 2) 家族とジェンダー		
4回目	相互作用——社会的ネットワーク 地域社会の変化と問題点(都市部と農村部)		
5回目	地域社会の変化と問題点(現代の都市型社会における地域問題)		
6回目	貧困と社会的排除(デュルケムによる)		
7回目	他者との関わり—教育の観点から		
8回目	まとめ		
評価方法	・定期試験 ・授業態度・演習取組状況を総合的に勘案し評価する。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	参考図書: E.デュルケム(著), 宮島 喬(翻訳) 『自殺論』(中公文庫) 他		
履修上の注意	講義・演習の進捗により予定変更ありえます。 医療が社会の中の行為、事業であることを意識したうえで、社会がつねに変化の中にあること、また、改良すべき問題点を生み出していることを意識してください。講義では毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら扱うテーマについて調べ、関心をもって講義に生かしてください。		

授業科目		法学		履修年次	1年次
				単 位 数	1単位
授業形態		講義・一部演習		必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		藤川孝彦		オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	医療、福祉をはじめ、作業療法士・理学療法士を取り巻く社会は、理学療法士・作業療法士法をはじめ医師法等に従って規律・実行され、問題が処理されている。こうした法現象を、分析、理解し、社会における法制度の役割を理解できるよう講義をすすめていく。内容は、作業療法士・理学療法士に密接な個人情報守秘義務など法律的問題を取り上げ、これらを、憲法の基本原理を参照しながら、論理的に理解できるようになることを目標としたい。				
行動目標	人権が保障され民主的で平和な社会を構築していくために、憲法や法律がどのように社会を規律しているか、そして、それが日常生活にどのように生かされて、個人情報保護法等を概観し、医療、福祉など国民生活における法制度の役割と意義を理解できる。				
キーワード	国家 法の精神 道徳 倫理 個人情報 日本国憲法				
スケジュール					
1回目	ガイダンス ～法を学ぶことについて 法の精神(ロック)				
2回目	法とは何か？ 国家 道徳・正義・倫理・規範				
3回目	ルール・マナー				
4回目	罪 罰				
5回目	医療者の法的責任（理学療法士の身近な法と罰）				
6回目	個人情報1				
7回目	個人情報2				
8回目	日本国憲法と法の意義 ～憲法にみる人権～				
評価方法	原則として定期試験で評価する。演習（課題含む）等の受講取組態度を勘案することがある。				
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。				
参考書・資料等	参考図書： 『日本国憲法』（小学館）				
履修上の注意	講義・演習の進捗により予定変更ありえます。 講義は毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら将来の自身の作業療法、理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。				

授業科目	人間関係論	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	対人援助職としての理学療法士について、自己概念を知ることによって他者との関わりを模索し、コミュニケーション力を高め、人間について考えていく。		
行動目標	自己肯定感を持ち、心身ともに健康管理ができる。 人間性を高め、人として自分を成長させる。 主体性をもって行動ができる自立した人間となる。 対人援助職として必要不可欠なコミュニケーション能力を高める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	対人関係と役割		
2回目	人間関係の形成		
3回目	人間関係の自己と他者		
4回目	コミュニケーションとは…		
5回目	コミュニケーション技法① 言語		
6回目	コミュニケーション技法② 非言語		
7回目	コミュニケーション技法③ 共感・傾聴・繰り返し		
8回目	人間の多面的理解		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	特に無し。		
参考書・資料等	適宜、資料配布します。		
履修上の注意	授業内で自らの内面についてワークに取り組む時間を設けています。ありのままの自分の心を反映できるような姿勢で取り組むことが大切です。「望ましい答え」を探すのではなく、本来の自分の思考をout putできるよう心掛けてください。		

授業科目	物理学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	姉川 秀治	オフィスアワー	
一般目標	身近な力学現象(モノと運動)を、自分の言葉で捉え直して、自分自身の力学的自然観を創造する。		
行動目標	運動の第1法則を自分の言葉で捉え直し、モノの存在について理解を深める。 運動の第1・第2法則を自分の言葉で捉え直し、運動概念の理解を深める。 運動の第2法則を捉え直し、因果論的説明が納得の形式であることを知る。 運動の第3法則を捉え直し、力がモノとモノとの相互作用であることを理解する。 力を図象化することで理解を深める。 練習問題は、すすんで取り組んで理解する。		
キーワード	自分の言葉、捉え直し、モノ、運動、力		
スケジュール			
1回目	相対速度の考察から運動概念を揺さぶる 自然観の歴史を振り返る		
2回目	運動の第1法則 モノの存在と運動 多様な表現、モノの存在論		
3回目	速度、加速度の概念整理 $v \sim t$ グラフを使って運動学の初歩を整理		
4回目	運動の第2法則 外力と速度変化の因果関係 モノの世界の因果律		
5回目	力概念の整理と静力学の初歩 力のモーメント 浮力		
6回目	運動の第3法則 力は相互作用 モノの世界の言葉 モノの世界の関係論		
7回目	力を図示して運動の法則を振り返る 光について てこについて		
8回目	Energy(運動方程式積分型、Energy概念一般) 練習問題を中心に総復習		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	筆記試験(100%) 力学的自然観についての自主提出レポート(最大15点の加点あり) ただし、最大点数は100点とする。		
教科書	担当教員による描き下ろし資料「力学の世界へ」		
参考書・資料等			
履修上の注意	特別な予備知識は不要だが、「言葉」にきちんと向き合うことが必要である。 テキストは、毎回持参する必要がある。		

授業科目	情報科学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金:8:30～17:20
一般目標	昨今、情報化社会となった今、中高生からパソコンを使用することが当たり前となっている。また、臨床の現場においてもパソコンでの管理が標準となっている。この講義では、一般的なPCを使用し、ワード、エクセル、パワーポイントを使い、特にエクセルの統計について概略をつかめることをを目標とする。		
行動目標	パソコンを使用してマイクロソフト Officeを使用することができる。 文章を打つためのタイピングをスムーズに行うことができる。 統計処理という概念を理解することができる。		
キーワード	パソコン, マイクロソフト Office, Excel		
スケジュール			
1回目	パソコンの使用について		
2回目	文章のタイピング及びイラストの挿入等、紙面の体裁について		
3回目	統計処理について(意義、概念)		
4回目	統計処理について(方法ほか)1		
5回目	統計処理について(方法ほか)2		
6回目	統計処理について(方法ほか)3		
7回目	国家試験に出る統計処理		
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	提出物のWord、Excel、PowerPointの作成データで評価する。		
教科書	特に指定する教科書はない代わりに各自がパソコン、マイクロソフト Office(Word、Excel、PowerPoint)に関しての知識を身に付けておく必要がある。 Officeに関しては、それに準じたものであれば代用可能だが、使用方法については各自が勉強すること。		
参考書・資料等	都度、配布します。		
履修上の注意	授業開始までに各自でノートパソコンを用意する。パソコンを2回以上忘れた場合、減点する。 ノートパソコンはマイクロソフトOfficeが稼働するものであれば大丈夫です。 オフラインでもマイクロソフトOfficeが使えるように各自のパソコンを設定しておいて下さい。 操作方法が分からなくても諦めずに聞いて提出物を完成させて下さい。		

授業科目	コミュニケーション学	履修年次	3年次
		単 位 数	単位
授業形態	講義・グループワーク	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	神崎 美佳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	コミュニケーションは複合的な意味合いを持つが、今回は、医療従事者としてのコミュニケーションについて考える。		
行動目標	・友達とのコミュニケーションと医療従事者としてのコミュニケーションの違いを考える。 ・これからの臨床実習にむけて対象者とのコミュニケーションを考え、練習する。 ・相手によってコミュニケーションの方法を選択できる。		
	・言葉の選び方 ・伝え方 ・姿勢		
1回目	オリエンテーション、自己紹介、コミュニケーションとは		
2回目	理学療法を行う上で		
3回目	人に伝える／言語的コミュニケーション①		
4回目	言語的コミュニケーション② 実技		
5回目	非言語的コミュニケーション①		
6回目	非言語的コミュニケーション② 実技		
7回目	挨拶・電話マナー		
8回目	文字で伝える		
評価方法	授業態度・レポートで判断する		
教科書	なし		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	リハビリテーションにかかわる者として、自身のコミュニケーションの特徴とは何か、どのようなことを意識してコミュニケーションをすればよいのかを一緒に考えて行きましょう。		

授業科目		保健体育	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義・実技	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		大森	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法士に必要な身体的観点や運動感覚を身体で体感する。 様々な活動を通じ、心身の成長を促すとともに他者とのコミュニケーション能力を養う。			
行動目標	・身体活動を通じ、心身の成長を促す。 ・基本動作における身体の使い方を知る。 ・障がい者体験や基本的な福祉用具の使用体験を通して障がいを感じることができる。 ・他者と協力して行動する意義を知る。			
キーワード	コミュニケーション、心身機能、健康、レクリエーション			
スケジュール				
1回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)			
2回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)			
3回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)			
4回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)			
5回目	オリエンテーションについて / 意識して身体を動かすということ。			
6回目	ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインを考えて(体験して)みよう。			
7回目	障害者体験をしてみよう。			
8回目	介助用具(福祉用具)を使ってみよう。			
9回目				
10回目				
11回目				
12回目				
13回目				
14回目				
15回目				
評価方法	出席率、授業態度にて判断します。授業中の態度が不良(居眠り、無反応など)で注意を行った後も改善されない場合、減点する。			
教科書	講義中に資料を配布します。			
参考書・資料等				
履修上の注意	・明るく楽しく元気よく、意欲的に取り組むこと。 ・怪我には注意すること。			

授業科目		文章表現法	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		神崎 美佳	オフィスアワー	月・水・金曜日9:00～17:20
一般目標	・理学、作業療法士としての基本的な文章表現能力を高める。 ・講義を基本とするが、実践的な演習も交え進めていく。			
行動目標	・医療人としての自身を自覚し、他者にわかりやすい表現法を理解する ・理学、作業療法を学ぶ学生として必要な文章作成技術を身につける ・伝える相手によって、適切な言葉を使える			
		文章表現、形式、専門用語		
スケジュール				
1回目	イントロダクション／文章を書く時の注意点			
2回目	敬語について			
3回目	メールのマナーと文章作成			
4回目	手紙の書き方・封筒の書き方			
5回目	礼状の書き方			
6回目	感想文の書き方			
7回目	文章作成(レポート)			
8回目	診療記録～その内容と用語～			
9回目				
10回目				
11回目				
12回目				
13回目				
14回目				
15回目				
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。			
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。			
参考書・資料等	庄司達也ほか:日本語表現法、翰林書房			
履修上の注意	言語による表現は技術であり、学ぶものである為、課題に積極的に取り組んでください。			

授業科目		英語	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		土屋 景子	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	リハビリテーション場面で使われる英語に習得する。			
行動目標	身体各部の名称がわかる。 医療現場で用いられる機器の名称がわかる。 セラピストが使う略語がわかる。 英語で書かれた記録が読める。			
キーワード	英語 セラピスト 専門用語			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション			
2回目	身体の部位			
3回目	断面と方向			
4回目	関節運動の名称			
5回目	骨格と筋			
6回目	運動方向と姿勢			
7回目	接頭辞			
8回目	語幹			
9回目	接尾辞			
10回目	病気			
11回目	症状			
12回目	リハビリ部門			
13回目	略語			
14回目	論文、カルテなど			
15回目	まとめ			
評価方法	小テスト、筆記試験の結果を評価する			
教科書	なし			
参考書・資料等	特になし			
履修上の注意	医療現場で使われる言葉、専門用語を英単語とともに学ぶことで、他科目の学習に活かしていけるようにしてください。			

授業科目		解剖学Ⅰ	履修年次	1年次
			単位数	2単位
授業形態		講義並びに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動器系を三次元的に捉え、その構造と位置を知る。 基本構造や形態から基本的な運動機能を考える。			
行動目標	人体の部位、名称などを覚える。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築する。 自身の身体を使い感じる事が出来る。			
キーワード	人体, 形態学, 三次元			
スケジュール				
1回目/2回目	解剖学総論、骨学:骨組織と骨格の構造			
3回目/4回目	骨学:骨の連結と靱帯			
5回目/6回目	骨学:形態と名称(頭頸部と体幹)			
7回目/8回目	骨学:形態と名称(上肢)			
9回目/10回目	骨学:形態と名称(下肢)①			
11回目/12回目	骨学:形態と名称(下肢)②			
13回目/14回目	関節・靱帯①			
15回目/16回目	関節・靱帯②			
17回目/18回目	筋学:頭頸部			
19回目/20回目	筋学:体幹部			
21回目/22回目	筋学:上肢①			
23回目/24回目	筋学:上肢②			
25回目/26回目	筋学:下肢①			
27回目/28回目	筋学:下肢②			
29回目/30回目	筋学:下肢③			
評価方法	定期試験(70-90%) 課題や取り組み方など(状況により20%前後) 授業演習の参加率など(10%前後)			
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院			
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 機能解剖学的 触診技術 メディカル ビュー(上肢)、(下肢・体幹)			
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといくことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考えることである。また、構造や形態にも意味があるものである。 暗記という勉強法ではなく、なぜという疑問を考え学習することが重要である。			

授業科目		解剖学Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間の機能について知る。			
行動目標	体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 骨格の位置を確認し筋のはたらきをしる。 人体の働きより臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築しなおす。			
キーワード	脊髄損傷, 発生機序, ADL指導			
スケジュール				
1回目	循環・血管系			
2回目	泌尿器系			
3回目	皮膚系			
4回目	感覚器系			
5回目	呼吸器系			
6回目	消化器系			
7回目	内分泌系			
8回目	性生殖器			
9回目	骨の指標を知る1(頭頸・体幹部)			
10回目	骨の指標を知る2(上肢)			
11回目	骨の指標を知る3(下肢)			
12回目	骨の指標を知る4(前腕部)			
13回目	筋の指標を知る3(上腕)			
14回目	筋の指標を知る5(下肢)			
15回目	まとめ			
評価方法	出席率、授業態度、試験、小テストなどを総合的にみて評価する。			
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学			
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 解剖学カラーアトラス 第5版 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 基礎運動学 第6版 医歯薬出版			
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといくことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考えることである。また、構造や形態にも意味があるものである。 暗記という勉強法ではなく、なぜという疑問を考え学習することが重要である。			

授業科目	機能解剖学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	原則 月～金 8:30～17:20
一般目標	これまで学んできた解剖学・運動学の知識を統合し、臨床的な考察が行えるようになる		
行動目標	・筋の起始停止、支配神経を覚える ・各回のキーワードについて説明、考察が行えるようになる ・国家試験問題の理解		
キーワード	各回スケジュール参照		
スケジュール			
1回目	骨模型ならべ		
2回目	骨模型ならべ		
3回目	骨模型ならべ		
4回目	起始停止、支配神経		
5回目	起始停止、支配神経		
6回目	膝関節の機能解剖と姿勢分析①：脛骨大腿関節 膝蓋大腿関節 前十字靱帯 後十字靱帯 副運		
7回目	膝関節の機能解剖と姿勢分析②：Q角 FTA		
8回目	股関節の機能解剖と姿勢分析：骨盤前傾 骨盤後傾 ASIS PSIS		
9回目	骨盤～下肢の姿勢分析、姿勢戦略、ストレッチ		
10回目	骨盤～下肢の姿勢分析、姿勢戦略、ストレッチ		
11回目	脊柱の構造と機能：前弯 後弯 側弯 胸郭のアライメント		
12回目	肩甲帯と上肢の構造と機能：肩甲骨のアライメント 上腕骨頭の位置 肩甲上腕リズム 運搬角		
13回目	動作分析		
14回目	動作分析		
15回目	動作分析		
評価方法	授業態度、レポート		
教科書	今まで使用してきた教科書全般		
参考書・資料等	エッセンシャルキネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床 第3版		
履修上の注意	後半はリモートによる内容となります		

授業科目		生理学 I	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義ならびに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人体の機能について日常と照らし合わせて考える。			
行動目標	人体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 人体の働きを知り臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書や資料のイラスト、写真から必要なことを説明する。 人体内で起きている見えない現象を理解する。			
キーワード	人体, 機能, 日常生活			
スケジュール				
1回目/2回目	細胞の機能			
3回目/4回目	栄養の消化と吸収			
5回目/6回目	呼吸の働き			
7回目/8回目	血液の働き①			
9回目/10回目	血液の働き②			
11回目/12回目	血液の循環と調節①			
13回目/14回目	血液の循環と調節②			
15回目/16回目	泌尿器の機能と調節①			
17回目/18回目	泌尿器の機能と調節②			
19回目/20回目	体液の調節①			
21回目/22回目	体液の調節②			
23回目/24回目	自律神経による調節機能①			
25回目/26回目	自律神経による調節機能②			
27回目/28回目	内分泌による調節機能①			
29回目/30回目	内分泌による調節機能②			
評価方法	期末試験(70-90%)および レポートなどの課題(10-20%) その他(状況による)5-10%程度			
教科書	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院			
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院			
履修上の注意	医学の基礎知識として解剖学、運動学の振り返りは常に重要となる。 人体の構造(形態学・解剖学)と密接に関連するため、必要と思われる基礎医学の知識は常に復習しておくこと。 疾患を紐解くので、重要な科目なので暗記ではなく、説明することを学習目標とすることが重要である。			

授業科目		生理学Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義、演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	実際の人体を五感で構築する。			
行動目標	授業で学んだ人体の基本的な働き(機能)を体験する。 実験を通して人体の働きの知識を身につける。 自己の体験をもとに人体の機能を理解する。 体内で起きている見えない現象を理解する。			
キーワード	神経系, 循環器系, 消化器系			
スケジュール				
1回目	末梢神経系1			
2回目	末梢神経系2			
3回目	末梢神経系3			
4回目	中枢神経系1			
5回目	中枢神経系2			
6回目	中枢神経系3			
7回目	感覚器(体性感覚について)			
8回目	感覚器(特殊感覚について)1			
9回目	感覚器(特殊感覚について)2			
10回目	血液の演習1			
11回目	血液の演習2			
12回目	摂食・嚥下			
13回目	摂食・嚥下機能1			
14回目	摂食・嚥下機能2			
15回目	まとめ			
評価方法	レポート、授業態度及び出席率を総合的に評価する。			
教科書	プリントを配布			
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版			
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学・生理学の知識を演習により体感するためより明確に理解できる。しかしながら、演習の意図や目的を判らないまま行うことはリスクを伴い、また、知識の構築にも繋がらないので前期で学習した内容を復習しておくことが大切である。 状況により項目が前後することがあります。			

授業科目	病理学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	理学療法士としての基礎知識を習得し、正しい理学療法を行えるようになるために、病気の成り立ちと臨床的特徴を理解する。		
行動目標	1. 人体の正常な構造及び機能を理解する 2. 疾病の原因と臨床症状の因果関係を理解する 3. 疾病の際にその臓器や器官に生じる肉眼的及び組織学的変化を理解する 4. 疾病に対する予防や治療に関する知識を習得する		
キーワード			
スケジュール			
1回目	病理学とは		
2回目	体液の異常		
3回目	血行障害①		
4回目	血行障害②		
5回目	炎症と修復		
6回目	免疫及び免疫疾患		
7回目	感染①		
8回目	感染②		
9回目	変性・壊死・萎縮・老化①		
10回目	変性・壊死・萎縮・老化②		
11回目	腫瘍と過形成①		
12回目	腫瘍と過形成②		
13回目	先天異常		
14回目	代謝異常①		
15回目	代謝異常②		
評価方法	授業態度(出席回数含む) 定期試験		
教科書	系統看護学講座 病理学 医学書院		
参考書・資料等	授業資料は都度配布します。		
履修上の注意			

授業科目		人間発達学	履修年次	1年次
			単位数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		森田茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間は母胎内から発達している。即ち、人間の一生は胎児から始まり、誕生を迎え、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期と障害発達することを理解することを本講義の目標とする。発達過程には生理的(身体・運動)にも、心理的にも発達する。これらの基本的な発達段階とその特性を中心に講義を通して学んでいく。			
行動目標	生涯発達の観点から、胎児期・新生児期・乳幼児期・幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期以降から老年期にかけて標準的な発達を理解し、それぞれの特徴を説明できる。また、各ライフステージを通した人間理解の為、それぞれの発達過程を学ぶ。 ①発達概念・理論について理解する。 ②人間発達における各種検査について理解する。 ③原始反射・反応のメカニズム及び過程を理解する。 ④生後0ヵ月～生後18ヵ月までの運動発達過程を理解する。 ⑤上肢機能(つまみ・把持)の発達過程を理解する。 ⑥感覚機能(感覚・知覚・認知)の発達過程を理解する。 ⑦学童～老年期の発達過程を理解する。 ⑧高齢者の発達・特性について理解する。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	～オリエンテーション～ 発達概念について			
2回目	人間発達とは…			
3回目	発達検査とは… 遠城寺式・日本版デンバー式スクリーニング検査			
4回目	姿勢反射/反応			
5回目	運動発達過程① 0～3ヵ月			
6回目	運動発達過程② 4～6ヵ月			
7回目	運動発達過程③ 7～9ヶ月			
8回目	運動発達過程④ 10～12ヵ月			
9回目	運動発達過程⑤ 13から18ヵ月			
10回目	運動発達過程⑥ 18ヵ月以降～6歳までの発達			
11回目	上肢機能の発達(つまみ・把持)、ADL(動作)の発達			
12回目	感覚・知覚・認知・社会性の発達			
13回目	学童期・青年期・成人期・老年期の発達①			
14回目	学童期・青年期・成人期・老年期の発達②			
15回目	高齢者の特徴 及び 総括			
評価方法	定期試験にて単位認定を行う。			
教科書	イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 医歯薬出版			
参考書・資料等	<資料>講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書>随時、紹介する。			
履修上の注意	理学・作業療法士が関わる発達領域における入口となる講義となる。 解剖学・生理学・運動学などで学習することに関連付け、人間の発達過程について理解を深めるように努めたい。 学修する範囲が広く、予習・復習を心掛けていただきたい。			

授業科目	臨床心理学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	心の動きに関する基礎知識や心理学的な人間理解お手掛かりとなる理論を学び、人が適応・成長するとは何かを考える。そして、心理検査、心理療法の基礎を学び、対人援助サービスを行うための心構えを身につける。		
行動目標	・人間の心理的な発達の特徴を理解、説明できる。 ・心理アセスメントの基本を理解する。 ・人間の心理を理解し、 ・人間理解を通して、支援を必要とする人の気持ちに寄り添った援助ができるようになる。		
キーワード	基本理論 アセスメント 心理療法		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 何故臨床心理学を学ぶ必要があるのか？ 臨床心理学とリハビリテーション		
2回目	知覚心理学 ・ 学習心理学		
3回目	発達と知能①乳児期・児童期		
4回目	発達と知能②思春期・青年期		
5回目	発達と知能③成人期・中年期・老年期		
6回目	防衛機制1		
7回目	防衛機制2		
8回目	心理アセスメントと心理検査		
9回目	臨床心理学の介入技法 ①認知行動療法		
10回目	臨床心理学の介入技法 ②催眠療法 精神分析療法 内観療法 絵画療法 箱庭療法 交流分析		
11回目	臨床心理学の介入技法 ③来談者中心療法 支持的精神療法 集団精神療法 森田療法		
12回目	小テスト		
13回目	フィードバック ・ フィードフォワード		
14回目	国家試験問題演習		
15回目	国家試験問題演習		
評価方法	小テスト 筆記試験 授業態度(レポート)		
教科書	リハベーシック 心理学・臨床心理学 医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	適宜資料を配布します。		
履修上の注意	心理的発達の理解はもちろん、自分自身と向き合う、自分自身のこれからを考えるきっかけになるように背極的に意見を持つようにしてください。		

授業科目	公衆衛生学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金(8:30～9:20)
一般目標	理学・作業療法士をとりまく社会の動向や特性、健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉制度について学ぶ。		
行動目標	・公衆衛生及び医療について説明できる。 ・保健と医療と福祉の動向と対策について説明できる。		
キーワード	感染症法、学校保健法、医療法、生活習慣病、母子保健、精神保健		
スケジュール			
1回目	①公衆衛生学概論 公衆衛生の意義と目的、ガイダンス		
2回目	②疫学 公衆衛生学・活動の手段としての疫学の理解		
3回目	③衛生統計 衛生指標の意味と現状、将来予測		
4回目	④環境保健 人類生態系を考えた環境と健康との関連		
5回目	⑤環境保健 居住環境、衣服環境など身近な環境保健		
6回目	⑥環境汚染 公害、地球環境汚染の現状と予防		
7回目	⑦感染症予防 感染症の現状と予防策		
8回目	⑧産業保健 労働と健康の関わり、産業現場での健康増進		
9回目	⑨学校保健 学校における疾病予防、健康づくり活動、組織		
10回目	⑩地域保健・行政 地域における保健活動とそのための行政組織		
11回目	⑪高齢者保健・福祉 高齢者の健康管理と福祉制度		
12回目	⑫母子保健・精神保健 ライフサイクルを考えた母子の健康管理、精神保健の意義		
13回目	⑬国際保健 世界における健康問題、国際協力		
14回目	⑭健康づくり わが国における健康づくりの現状と課題		
15回目	まとめ ワクチン接種履歴の見方		
評価方法	筆記試験、授業態度、小テストにて判断します。		
教科書	指定なし(講義資料は授業ごとに配布)		
参考書・資料等	・シンプル衛生公衆衛生学、鈴木庄亮 他 編、南光堂 ・国民衛生の動向 厚生衛生協会 厚生指標臨時増刊		
履修上の注意	本授業は、非常に多領域にわたる内容を含むので、授業時に渡す資料や授業ノートのほか、教科書等を用いて確実に復習することが望ましい。また、毎回の授業で出席をとり、出席状況は成績に反映する。		

授業科目		薬理学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		五郎丸 美智子	オフィスアワー	
一般目標	薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する			
行動目標	薬の使用目的を説明できる 薬の主作用、副作用、毒性の関係を説明できる 代表的な疾患の治療薬を列記できる 代表的な疾患の治療薬について作用機序を説明できる			
キーワード				
スケジュール				
1回目	総論 薬の基本的について例をあげて学ぶ			
2回目	総論 薬の動態について学ぶ			
3回目	総論 薬効に影響する因子などについて例をあげて学ぶ			
4回目	感染症に対する代表的薬物を学ぶ			
5回目	がんの仕組みを知り、関係の薬を学ぶ			
6回目	小テストと復習			
7回目	抗炎症薬 炎症の作用機序を知り関係の薬を学ぶ			
8回目	末梢神経 副交感神経に関与する薬を学ぶ			
9回目	末梢神経 交感神経に関与する薬を学ぶ			
10回目	代謝・内分泌 内分泌・代謝に関与する薬を学ぶ			
11回目	中枢神経 全身麻酔や睡眠薬の代表的薬物を学ぶ			
12回目	中枢神経 抗うつ薬や麻薬性鎮痛薬の代表的薬物を学ぶ			
13回目	心臓・血管系の薬 高血圧などの代表的薬を学ぶ			
14回目	呼吸器系の薬 喘息などの代表的薬を学ぶ			
15回目	まとめ			
評価方法	前半授業範囲の小テスト(30%) 後半授業範囲の筆記テスト(50～60%) 出席と態度(10～20%) ※再試験は、前半・後半あわせての範囲となる。			
教科書	系統看護学 専門基礎 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 ③、吉岡充弘、医学書院			
参考書・資料等	基礎医学シリーズ 目で見える薬理学入門 第3版 vol.1-12、山崎 純一 原案監修、医学映像教育センター 今日の治療薬 2016、浦部 晶夫 他編、南江堂			
履修上の注意	薬物療法と理学療法との関わり合いに留意して授業に臨むこと。			

授業科目		内科老年学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	国家試験、臨床で出会う内科疾患に対して理解を深め、説明できるようにする。			
行動目標	・消化管疾患について理解し、説明できる。 ・循環器疾患について理解し、説明できる。 ・内分泌、代謝疾患について理解し、説明できる。 ・腎、泌尿器疾患について理解し、説明できる。 ・免疫、アレルギー、血液疾患について理解し、説明できる。 ・高齢者の心身機能について理解し、説明できる。			
キーワード	消化管 循環器 内分泌 代謝 腎 泌尿器 免疫 アレルギー 血液 老年学			
スケジュール				
1回目	ガイダンス 内科学で扱う疾患について ・ 授業の進め方 ・ 復習方法について			
2回目	消化管疾患①			
3回目	消化管疾患②			
4回目	循環器疾患①			
5回目	循環器疾患②			
6回目	内分泌・代謝疾患①			
7回目	内分泌・代謝疾患②			
8回目	腎・泌尿器疾患①			
9回目	腎・泌尿器疾患②			
10回目	免疫・アレルギー疾患①			
11回目	免疫・アレルギー疾患②			
12回目	血液疾患			
13回目	老年学①			
14回目	老年学②			
15回目	まとめ・小テスト・国家試験問題演習			
評価方法	筆記試験 小テスト 提出物 授業態度			
教科書	ビジュアルノート 第5版 メディックメディア			
参考書・資料等	適宜資料を配布します。			
履修上の注意	生理学で履修した内容を復習しつつ、内科学、老年学について学びます。 必要に応じて、生理学の教科書、プリントを用意しておいてください。			

授業科目		栄養学	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		金内 則子	オフィスアワー	授業の前後
一般目標	栄養学の基礎的な知識およびライフステージや傷病者の栄養について、チーム医療を担うための基本的な知識を備える。			
行動目標	・栄養素の働きおよび消化吸収、代謝について理解する。 ・栄養スクリーニング、アセスメント、栄養ケアプランと評価について理解する。			
キーワード		栄養学の基礎、栄養アセスメント、栄養ケアプラン、栄養療法		
スケジュール				
1回目	リハビリテーションと栄養			
2回目	栄養学の基礎(糖質)			
3回目	栄養学の基礎(たんぱく質)			
4回目	栄養学の基礎(脂質)			
5回目	栄養学の基礎(ビタミン、ミネラル)			
6回目	栄養素の消化と吸収			
7回目	エネルギー代謝			
8回目	ライフステージと栄養			
9回目	低栄養と過栄養			
10回目	摂食嚥下機能と栄養			
11回目	栄養ケアプラン(必要栄養量)			
12回目	栄養ケアプラン(栄養投与ルートの選択)			
13回目	糖尿病の栄養療法			
14回目	脳血管疾患の栄養管理			
15回目	総括			
評価方法	筆記試験			
教科書	リハベ－シック「生化学・栄養学」医歯薬出版			
参考書・資料等	＜資料＞ 授業に必要な資料は随時配布する。 ＜参考書＞ 随時、紹介する。			
履修上の注意	生理学、生化学、内科学等で学習することと関連づけ、理解を深めること。			

授業科目	整形外科学 I	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	原則、教員室で対応
一般目標	整形外科学は運動器障害に関連し、理学療法とは密接な関係にある。運動器障害の理学療法を理解するために必要な整形外科学の知識と考え方を理解する。そのために 学生は1)運動器各部位の機能解剖を理解する。2)運動器各部位それぞれの特徴的な疾病、障害、傷害に対する整形外科的アプローチを理解する。以上の項目を到達できるようにすること。		
行動目標	●整形外科疾患についての説明ができる。 1)運動器の構造と機能 2)整形外科疾患の主要病因と病態 3)整形外科疾患の主要徴候と病態生理 4)整形外科的検査 5)整形外科の治療		
キーワード	運動器 病因と病態 主要徴候と病態生理 検査 治療		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 整形外科とは		
2回目	骨の構造, 生理, 化学		
3回目	診療の基本 整形外科的現症の取り方		
4回目	診療の基本 検査総論 画像検査 検体検査 生体検査		
5回目	保存療法の基本		
6回目	保存療法各論		
7回目	整形外科領域における手術の特徴		
8回目	整形外科外傷学 外傷総論		
9回目	整形外科外傷学 軟部組織損傷		
10回目	整形外科外傷学 骨折・脱臼(総論)		
11回目	整形外科外傷学 小児の骨折(総論)		
12回目	脊椎・脊髄損傷 合併症等		
13回目	末梢神経損傷 分類		
14回目	切断・義肢 幻肢		
15回目	スポーツ傷害		
評価方法	定期試験、講義受講・参加態度を基準に総合判定する。		
教科書	中村利孝 松野丈夫 他著・「標準整形外科学 第14版」医学書院、2020年。		
参考書・資料等	『講義録 運動器学』メジカルビュー社『図解 関節・運動器の機能解剖』『整形外科理学療法の理論と技術』『カパンディ 関節の生理学』『図説 筋の機能解剖』『基礎運動学』『運動器疾患とリハビリテーション』※その他、評価法や物理療法などの文献を広く熟読しておくこと。		
履修上の注意	評価・臨床実習はじめ整形外科疾患を有する対象者を担当する機会が多い。整形外科を理解するには、解剖学・運動学の知識がないときわめて困難である。よって、講義前に学生は必ず教科書、参考図書に目を通して下さい。		

授業科目		整形外科Ⅱ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		森田茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	整形疾患(骨折、関節疾患、末梢神経損傷、腱損傷など)の原因、病理、症状を理解し、作業療法評価および治療の選択ができる。			
行動目標	① 疫学、予後について説明できる。 ② 病因、症候について説明できる。 ③ 評価、検査、診断について説明できる。 ④ リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤ その他の治療について説明できる。 ⑥ 整形外科の一般的疾患について説明できる。			
キーワード	整形疾患における評価・治療 代表的な整形疾患 リハビリテーション医療			
スケジュール				
1回目	靱帯損傷 診断と病態、症状と治療について			
2回目	炎症性疾患 骨・関節・軟部組織における感染症の代表的疾患			
3回目	慢性関節疾患① 変形性関節症の診断、病態、症状、外科的治療			
4回目	慢性関節疾患② 痛風の病態、症状、外科的治療			
5回目	代謝性疾患 骨粗鬆症、くる病・骨軟化症の診断、病態外科的治療			
6回目	骨・軟部組織腫瘍 発生及び診断、病態と外科的治療			
7回目	脊椎疾患① 脊椎(頸椎・胸腰椎)疾患の診断、病態、症状			
8回目	脊椎疾患② 脊椎(頸椎・胸腰椎)疾患の検査・評価・治療			
9回目	熱傷① 熱傷の診断と検査(重症度・範囲)、病態、症状、合併症			
10回目	熱傷② 熱傷の検査、評価、治療			
11回目	切断① 切断の診断と分類、病態、症状、合併症			
12回目	切断② 切断の検査、評価、治療および装具の適応			
13回目	脊髄損傷① 脊髄損傷の分類・種類、病態、症状、合併症			
14回目	脊髄損傷② 脊髄損傷のADL障害および評価(ザンコリー機能分類など)			
15回目	脊髄損傷③ 脊髄損傷の治療、作業療法介入			
評価方法	定期試験の結果にて単位習得に認定を行う。			
教科書	作業療法学全書 改定第3版 身体障害 中村隆一著 協同医書出版社 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 長崎重信監修 MEDICAL VIEW 標準整形外科学 第14版 内田淳正 医学書院			
参考書・資料等	＜資料＞講義時に必要な資料は適宜配布する。 ＜参考書＞随時、紹介する。			
履修上の注意	整形外科領域における作業療法を理解する上において、各疾患の知識が必要不可欠である。 一年次の整形外科Ⅰで学修した知識をしっかりと復習し、受講するように努めたい。 臨床実習に向けた専門的な知識を含んだ講義であるため、積極的な姿勢での参加を心掛けていただきたい。			

授業科目		神経内科学		履修年次	2年次
				単 位 数	2単位
授業形態		講義		必要時間数	
担当教員		高杉 潤		オフィスアワー	メールなどで随時対応
一般目標	脳・神経系の構造・機能を知り、理学療法の対象となる神経系疾患を中心に、臨床徴候とそのメカニズムを理解する。脳損傷由来の神経学的所見、神経心理学的所見、動作・行為の異常所見を理解する。				
行動目標	・脳の構造と機能を理解し、脳の各部位の名称と機能を理解できる。 ・脳の疾患とその障害、各種検査方法、治療法を理解できる。 ・脳の損傷によって生じる機能障害を病巣と関連づけて説明することができる。 ・脳画像(CT・MRI)が読影でき、病巣や疾患を判別し、症状や機能障害を予測することができる。 ・認知症や脱髄変性疾患の病態と症状、障害を理解できる。				
キーワード		脳、神経系障害、神経内科			
スケジュール					
1・2回目	4月14日	(3・4限)	脳の構造(1)(2)		
3・4回目	4月21日	(3・4限)	脳の機能(1)(2)		
5・6回目	4月28日	(3・4限)	脳機能障害 神経学的症候(1)(2)		
7・8回目	5月12日	(3・4限)	脳機能障害 神経心理学的症候(1)(2)		
9・10回目	5月19日	(3・4限)	脳血管障害の基礎と臨床		
11・12回目	5月26日	(3・4限)	認知症の基礎と臨床		
13・14回目	6月2日	(3・4限)	パーキンソン病、パーキンソニズム		
15回目	6月9日	(3限)	ギラン・バレー症候群、多発性硬化症		
評価方法	筆記試験(100点)と授業態度(出席状況等)との合算によって決定する。				
教科書	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社)				
参考書・資料等	<資料> 授業に必要な資料は随時配布する。 <参考書> 随時、紹介する。				
履修上の注意	神経系に関する解剖学、生理学の知識が備わっていること。				

授業科目	脳外科学	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	
担当教員	高杉 潤	オフィスアワー	メールなどで随時対応
一般目標	脳・神経系の構造・機能を知り、理学療法の対象となる神経系疾患を中心に、臨床徴候とそのメカニズムを理解する。脳神経外科の対象となる疾患の病態、症候の特徴、各種検査を理解する。		
行動目標	・脳血管障害の各病態と症候、外科的治療が理解できる。 ・脳神経系の各疾患に対する外科治療の概要を理解できる。 ・脳画像（CT・MRI）が読影でき、病巣や疾患を判別し、症状や機能障害を予測することができる。		
キーワード	脳、神経系障害、脳外科		
スケジュール			
1回目	6月9日	(4限)	脳画像読影の基礎 CT編(1)
2・3回目	6月16日	(3・4限)	脳画像読影の基礎 CT編(2) 脳画像読影の基礎MRI編(1)
4・5回目	6月23日	(3・4限)	脳画像読影の基礎 CT編 MRI編(2) 脳画像読影の臨床応用
6・7回目	6月30日	(3・4限)	脳梗塞の外科的治療(1)(2)
8・9回目	7月7日	(3・4限)	脳出血・クモ膜下出血の外科的治療
10・11回目	7月14日	(3・4限)	頭部外傷の病態と外科的治療
12・13回目	7月21日	(3・4限)	慢性硬膜下血腫・水腫の病態と外科治療(1)(2)
14・15回目	7月28日	(3・4限)	水頭症、てんかんの病態と外科治療
評価方法	筆記試験(100点)と授業態度(出席状況等)との合算によって決定する。		
教科書	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社)		
参考書・資料等	<資料> 授業に必要な資料は随時配布する。 <参考書> 随時、紹介する。		
履修上の注意	神経系に関する解剖学、生理学の知識が備わっていること。		

授業科目		臨床検査・画像学	履修年次	3年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	画像データや検査値などを病態理解に利用し、リハビリテーション治療方針の検討に応用できるようにする。			
行動目標	各検査の特徴を理解する 各画像から病態が推測できる 推測した病態からリハビリテーション治療方針を検討できる			
キーワード	英語 セラピスト 専門用語			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション			
2回目	血液検査			
3回目	運動器画像			
4回目	運動器画像			
5回目	脳画像			
6回目	脳画像			
7回目	動作画像			
8回目	動作画像			
9回目	症例検討			
10回目	症例検討			
11回目	症例検討			
12回目	症例検討			
13回目	症例検討			
14回目	症例検討			
15回目	まとめ			
評価方法	成果物と授業への参加態度などを総合的に評価する			
教科書	リハに役立つ検査値の読み方・とらえ方, 田屋雅信, 羊土社 PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方第3版国試画像問題攻略, 中島雅美, 医歯薬出版			
参考書・資料等	症例動画でわかる理学療法臨床推論統合と解釈実践テキスト, 豊田輝, 羊土社			
履修上の注意	昨今、リハビリテーション分野でも各種の検査画像を見る場面が増加しています。また国家試験でも検査画像を用いた問題が多数出題されるようになっていきます。検査値や画像に対する理解を深め、将来の臨床に活かす素地を養ってください。			

授業科目		精神医学Ⅱ	履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		吉野葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神障害を引き起こす主な疾患の病因, 病態生理, 症候, 診断と治療を学ぶ。			
行動目標	① 精神作業療法における対象疾患、精神作業療法について説明できる。 ② 精神作業療法の過程、治療構造について説明できる。 ③ 精神領域における作業療法導入について説明できる。 ④ 児童精神障害の疫学、予後について説明できる。 ⑤ 病因、症候について説明できる。 ⑥ 評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について説明できる。 ⑦ その他の治療(精神療法を含む)について説明できる。			
キーワード	精神作業療法、児童期精神障害、広汎性発達、アスペルガー症候群			
スケジュール				
1回目	精神科医療の作業療法 ～対象疾患、精神作業療法とは…～			
2回目	日本と世界の精神障害の歴史 ～精神障害の歴史を知る～			
3回目	精神医療の現状 ～精神障害者の現状、精神科病院などのシステム～			
4回目	精神作業療法の過程・治療構造・作業活動① 作業療法の流れ			
5回目	精神作業療法の過程・治療構造・作業活動② 作業療法導入のポイント			
6回目	精神作業療法の過程・治療構造・作業活動③ 個人・集団の治療因子、治療構造の仕組み			
7回目	精神作業療法の過程・治療構造・作業活動④ 個人・集団の治療因子、治療構造の仕組み			
8回目	精神疾患に応じた作業療法① 回復段階の流れについて			
9回目	精神疾患に応じた作業療法② 回復段階の流れについて			
10回目	摂食障害 疾患の理解 (拒食・過食)			
11回目	摂食障害 治療・事例紹介			
12回目	依存症 (薬物依存・アルコール依存) 疾患の理解			
13回目	依存症 (薬物依存・アルコール依存) 治療・作業療法の目的			
14回目	依存症 (薬物依存・アルコール依存) 治療・作業療法の目的			
15回目	まとめ			
評価方法	①出席率 ②授業への積極性(提出物の提出状況や講義内での発言頻度など) ③定期テスト などの総合点で判断する。			
教科書	ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 第3版 長崎重信監修 MEDICAL VIEW 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編著 中央法規			
参考書・資料等	<資料>講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書> 標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 精神医学 第4版 増補版 OT・PTビジュアルテキスト専門基礎 精神医学			
履修上の注意	精神作業療法治療学、領域別作業療法評価学Ⅰに繋がる重要な科目である。 精神作業療法における基礎的な知識・技術、理論を理解し、作業療法実践の下地を学ぶ為にも、事前・事後学習に努めること。			

授業科目	精神医学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神障害を生じる疾患(児童発達障害含む)に対する基本的な作業療法評価について学ぶ。		
行動目標	① 精神作業療法における対象疾患、精神作業療法について説明できる。 ② 精神作業療法の過程、治療構造について説明できる。 ③ 精神領域における作業療法導入について説明できる。 ④ 児童精神障害の疫学、予後について説明できる。 ⑤ 病因、症候について説明できる。 ⑥ 評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について説明できる。 ⑦ その他の治療(精神療法を含む)について説明できる。		
キーワード	児童期精神障害.広汎性発達障害		
スケジュール			
1回目	ガイダンス		
2回目	児童期精神障害について <広汎性、アスペルガー、ADHD、LD…など>		
3回目	児童期精神障害 児童期の精神障害と作業療法		
4回目	広汎性発達障害【自閉症スペクトラム】の診断、病態、特性、活動・参加制約について		
5回目	広汎性発達障害① 自閉症スペクトラムの分類と疾患理解と生活障害		
6回目	広汎性発達障害② 自閉症スペクトラムと作業療法の関わり(評価・治療)		
7回目	アスペルガー症候群の診断、病態、特性、活動・参加制約について		
8回目	アスペルガー症候群 疾患と生活障害についての理解および作業療法の関わり(評価・治療)		
9回目	ADHD 診断、病態、特性、活動・参加制約について		
10回目	ADHD 疾患理解と生活障害についての理解および作業療法の関わり(評価・治療)		
11回目	LD 診断、病態、活動・参加制約について		
12回目	LD 疾患理解と生活障害についての理解および作業療法の関わり(評価・治療)		
13回目	児童期発達障害 ～事例検討～ グループワーク		
14回目	児童期発達障害 ～事例検討～ 発表およびグループワーク		
15回目	児童期発達障害 ～事例検討～ 発表およびグループワーク		
評価方法	①定期試験(60%) ②レポート課題等の成果物、発表内容(40%) 上記の2点で複合評価にて行う。		
教科書	ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 第3版 長崎重信監修 MEDICAL VIEW 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編著 中央法規		
参考書・資料等	<資料>講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書>随時、紹介する。		
履修上の注意	精神作業療法治療学、領域別作業療法評価学Ⅰに繋がる重要な科目である。 精神作業療法における基礎的な知識・技術、理論を理解し、作業療法実践の下地を学ぶ為にも、事前・事後学習に努めること。		

授業科目	運動学Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金沢善智	オフィスアワー	月～水、金曜日 9時～17時
一般目標	1. 理学療法と作業療法の基礎となる、体の運動はどのようにして活動しているのかを理解する。 2. 各関節の物理的な動きと筋活動などの動作分析の基礎を理解する。		
行動目標	1. 動きの仕組みを学ぶ。 2. 動きのもととなる運動法則を学ぶ。 3. 各関節の動きに関係する関節の角度や筋の働きについて学ぶ。		
キーワード	運動学、運動、モーメント、物理法則、運動法則、身体とてこ、関節構成		
スケジュール			
1回目	運動学とは		
2回目	運動学の歴史		
3回目	運動学を学ぶための基礎知識 ①身体運動の面と軸、時間、速度、加速度		
4回目	運動学を学ぶための基礎知識 ②円運動、モーメント		
5回目	生体力学の基礎 ①＜身体運動と力学、時間と空間＞		
6回目	生体力学の基礎 ②＜運動学的分析＞		
7回目	生体力学の基礎 ③＜筋力と重力＞		
8回目	生体力学の基礎 ④＜運動法則＞		
9回目	生体力学の基礎 ⑤＜仕事とエネルギー、骨と関節の運動＞		
10回目	生体力学の基礎 ⑥＜身体とてこ＞		
11回目	関節の構成 ①肩関節、肘関節		
12回目	関節の構成 ②手関節、手指関節		
13回目	関節の構成 ③股関節、膝関節		
14回目	関節の構成 ④足関節、足指関節		
15回目	関節の構成 ⑤脊柱の関節、顎関節		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. 運動学テキスト、南江堂		
参考書・資料等	1. 基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社 2. PT・OTのための運動学テキスト、小柳磨毅 他編、金原出版株式会社 3. PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート、中村雅美、医歯薬出版株式会社		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、基本、毎回到小テストを行います。 2. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目		運動学Ⅱ	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 身体の運動学的特徴をとらえ、身体運動の仕組みを理解する。 2. 正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につける。			
行動目標	1. 上肢・下肢の運動学的特徴を説明できる。 2. 体幹の運動学的特徴を説明できる。 3. 顔面の運動学的特徴を説明できる。 4. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係を説明できる。 5. 運動学的特徴を踏まえて、動作分析に応用できる。			
キーワード	四肢 体幹 顔面 顎 運動 構造 機能			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション・上肢帯			
2回目	上肢帯と肩関節の基本			
3回目	肩関節の運動			
4回目	肘関節の基本と運動			
5回目	手関節の基本と運動			
6回目	手指の関節の基本と運動			
7回目	下肢帯と股関節の基本			
8回目	股関節の運動			
9回目	膝関節の基本			
10回目	膝関節の運動			
11回目	胸郭の基本と運動			
12回目	体幹筋の基本と運動			
13回目	顔面筋の基本と運動 / 顎関節および摂食の基本と運動			
14回目	関節運動と筋活動の分析の基本			
15回目	運動学習理論 / まとめ			
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。			
教科書	1. 基礎運動学 第6版補訂, 中村隆一 齋藤宏 長崎浩, 医歯薬出版			
参考書・資料等	1. カラー版カパンジー機能解剖学 原著第6版 I上肢 II下肢 III脊椎・体幹・頭部, A.I.Kapandji , 医歯薬出版 2. 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版, Donald A.Neumann, 医歯薬出版 3. 消って忘れない運動学要点整理ノート, 福井 勉ほか, 羊土社			
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。			

授業科目	運動学Ⅲ	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 運動に関わる栄養およびエネルギーの生産やその仕組みについて理解する。 2. 運動に関わる神経の働きについて理解する。 3. スポーツに関連する運動に関する基本と運動障害の予防について理解する。		
行動目標	1. 運動に関わる栄養およびエネルギーの生産やその仕組みについて説明できる。 2. 運動に関わる神経の働きについて説明できる。 3. 運動とスポーツに関する基本を説明できる。 4. 運動に関わる諸検査値をチェックし、異常値を認識できる。		
キーワード	運動エネルギー 代謝 神経支配 ホルモン 酵素		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション／消化・吸収・代謝・排泄		
2回目	運動エネルギー源としてのタンパク質とその代謝について		
3回目	運動エネルギー源としての脂質とその代謝について		
4回目	運動エネルギー源としての糖質とその代謝について		
5回目	運動に関連するホルモンと酵素の働き		
6回目	基礎代謝とエネルギー代謝および呼吸商について		
7回目	運動に関わる神経系の基礎		
8回目	上肢の筋とその支配神経①		
9回目	上肢の筋とその支配神経②		
10回目	下肢の筋とその支配神経①		
11回目	下肢の筋とその支配神経②		
12回目	体幹の筋とその支配神経		
13回目	スポーツと運動 筋と関節		
14回目	スポーツと運動 臓器とホルモン		
15回目	スポーツと運動 運動とスポーツ外傷の予防		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. 基礎運動学 第6版補訂, 中村隆一他, 医歯薬出版 2. 生化学・栄養学, 内山靖他, 医歯薬出版		
参考書・資料等	1. ナーシング・グラフィカ 病態生理学 疾病の成り立ち①, メディカ出版 2. 病態栄養専門 管理栄養士のための病態栄養ガイドブック 6版, 日本栄養病態学会, 南江堂		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出题します。		

授業科目	予防医学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 様々な疾患とその予防策および方法について理解する。 2. 病気のメカニズムやその治療方法について理解する。		
行動目標	1. リハビリテーションに関連する疾患の基本と予防について学ぶ。 2. 食の安全性について学ぶ。 3. 生活習慣と疾患について学ぶ。		
キーワード	老年医学 生活習慣病 アレルギー疾患 感染症		
スケジュール			
1回目	予防医学の歴史と健康の概念について		
2回目	メタボリックシンドロームおよび糖尿病の基本と予防		
3回目	高血圧症と脂質異常症の基本と予防		
4回目	心血管疾患の基本と予防		
5回目	脳卒中の基本と予防		
6回目	認知症の基本と予防		
7回目	ガンの基本と予防		
8回目	ロコモティブシンドロームおよびフレイル、サルコペニアの基本と予防		
9回目	食事(リスクアナリシス含む)、栄養(欠乏または過剰摂取)、歯周病などの基本と予防		
10回目	睡眠と健康について／うつ病の基本と対策		
11回目	喫煙およびアルコールと健康について		
12回目	生活習慣病の基本と予防(対策含む)		
13回目	感染症の基本と感染予防対策		
14回目	アレルギー疾患の基本と予防		
15回目	相補代謝医療と疾患予防		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. 予防医学テキスト, 日本予防医学会, 丸善雄松堂		
参考書・資料等	1. 標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版, 医学書院 2. 標準理学療法学・作業療法学 老年学 第4版, 医学書院 3. カラーで学べる病理学 第4版, ニューヴェルヒコカワ 4. 集中講義 病理学, メディカルビュー		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目	小児科学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	三沢 峰茂	オフィスアワー	
一般目標	小児期に生じる疾患及び障害の特徴をまとめ理解を深める。		
行動目標	小児疾患の徴候や評価内容を説明できる。 実技演習を通して運動学的に運動発達を見直し説明できる。 神経学的評価を説明し実施できる。 摂食嚥下機能を理解し、摂食嚥下障害リハビリテーションを理解する。 障害児に対する療育(ハビリテーション)の理解を深める 障害児を持つご両親ご家族支援について理解を深める		
キーワード			
スケジュール			
1回目	小児科学概論		
2回目	成長・発育、バイタルサイン		
3回目	胎児期の発生と成長		
4回目	脳の発達		
5回目	評価・診断		
6回目	反射検査: 腱反射、病的反射、原始反射、姿勢反射		
7回目	発達: 発達段階、		
8回目	腹臥位の運動発達		
9回目	背臥位の運動発達		
10回目	目と手の発達、社会性・コミュニケーションの発達		
11回目	小児期の疾患と障害		
12回目	小児整形外科疾患		
13回目	摂食・嚥下機能とその障害		
14回目	摂食嚥下リハビリテーション		
15回目	障害児の療育と家族支援		
評価方法	筆記試験		
教科書	特になし		
参考書・資料等	授業の中で適時紹介する		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。		

授業科目	救急救命学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	石塚 光宣	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	救急医療や災害医療、病院前医療の体制についての知識を習得する。 救急救命処置に必要な観察や緊急度・重症度判断、資機材による観察についての知識を修得する。		
行動目標	1. 緊急・災害・病院前医療体制について理解し、説明ができる。 2. 一般的な症状や重篤な症状の観察方法・緊急度・重症度判定について理解し、説明ができる。 3. 資機材による観察方法を理解し、説明ができる。 4. 救急救命処置の基本を理解し、説明ができる。 5. 救急蘇生法の基本を理解し、説明ができる。		
スケジュール			
1回目	緊急医療体制		
2回目	災害医療体制		
3回目	病院前医療体制		
4回目	観察		
5回目	現場活動の基本		
6回目	全身状態の観察		
7回目	局所の観察		
8回目	緊急度・重症度判断		
9回目	資機材による観察(1)		
10回目	資機材による観察(2)		
11回目	救急救命処置法(1)		
12回目	救急救命処置法(2)		
13回目	救急蘇生法(1)		
14回目	救急蘇生法(2)		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	教材を適宜配布する。		
参考書・資料等	救急救命士標準テキスト・上巻下巻(へるす出版) 日本救急医学会ICLSコースガイドブック(羊土社)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目	リハビリテーション概論Ⅰ	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	土屋・出浦	オフィスアワー	月・水・金9:00～17:20
一般目標	リハビリテーション・作業療法・理学療法が生まれた背景や語源の意味, リハビリテーション・作業療法・理学療法とは何かを理解できる。		
行動目標	リハビリテーション・作業療法・理学療法の歴史を説明できる。 ノーマライゼーション・IL運動をする説明できる。 疾病・生活機能の概念と分類を説明できる。 作業療法・理学療法の対象となる人々を説明できる。 多岐にわたる領域の作業療法・理学療法を説明できる。		
キーワード	障がい者、全人間的復権、多職種連携		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	リハビリテーションの概念		
3回目	リハビリテーションの歴史		
4回目	リハビリテーションの理念の形成		
5回目	生活機能の概念と分類		
6回目	チーム医療と多職種連携		
7回目	リハビリテーションの進め方		
8回目	リハビリテーションに関する評価		
9回目	歩行について		
10回目	装具について		
11回目	義肢について		
12回目	車いすについて		
13回目	生物多様性について		
14回目	男女平等社会と人権について		
15回目	ターミナルケアについて		
評価方法	課題提出、レポートにて判断します。		
教科書	椿原章夫:リハビリテーション総論改訂第3版 診断と治療社 2017		
参考書・資料等	随時、資料を配布します。 中村隆一:入門リハビリテーション概論第7版 医歯薬出版 2009		
履修上の注意	リハビリテーション・作業療法とは何か、どのような環境でどのようなことをするお仕事なのかを学びます。 学生さんが将来なりたい理学・作業療法士をイメージしながら聞いて下さい。		

授業科目	リハビリテーション概論Ⅱ	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月・水・金9:00～17:20
一般目標	リハビリテーションに関わる障害の評価と治療を学ぶ		
行動目標	医療情報の評価について説明できる。 心身機能・身体機能・参加・背景因子の評価について説明できる。 リスク管理について説明できる。 関連法規について説明できる。 疾患別のリハビリテーションについて説明できる。		
キーワード	リハビリテーション 疾患 多職種連携		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	学生に求められるもの		
3回目	理学・作業療法士に関する法律		
4回目	関連法規		
5回目	医療事故とリスクマネジメント		
6回目	障害別リハビリテーションの実際(関節可動域訓練)		
7回目	障害別リハビリテーションの実際(失認と失行・高次脳機能障害)		
8回目	障害別リハビリテーションの実際(摂食嚥下障害)		
9回目	障害別リハビリテーションの実際(老化と介護予防)		
10回目	疾患別リハビリテーションの実際(脳血管障害)		
11回目	疾患別リハビリテーションの実際(パーキンソン症候群)		
12回目	疾患別リハビリテーションの実際(多発性硬化症)		
13回目	精神科リハビリテーション総論		
14回目	精神科疾患別リハビリテーションの実際		
15回目	精神科疾患別リハビリテーションの実際		
評価方法	レポート(50%)、筆記試験(50%)にて判断します。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	随時、資料を配布します。		
履修上の注意	具体的疾患や障害をとおして、リハビリテーションとは何かを学びます。。 臨床現場の理学・作業療法士をイメージしながら聞いて下さい。		

授業科目	社会福祉学	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦(社会福祉士)	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	医療・福祉関係を主としたフィールドで活躍する作業療法士・理学療法士としてこれら社会福祉に関する諸制度の知識は必要である。そのため、本講義では社会福祉の概要を歴史から現在の各制度の特徴や問題点について理解することを目標とする。		
行動目標	Ⅰ. 福祉活動の歴史的背景を理解する。 Ⅱ. 作業療法・理学療法周辺の社会福祉について理解する。 Ⅲ. 社会福祉の役割について理解する。 Ⅳ. 関係機関との連携について理解する。		
キーワード	福祉 関連法 障がいと作業療法・理学療法		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 人間と福祉 福祉とは？		
2回目			
3回目	福祉活動の歴史(日本)		
4回目			
5回目	福祉活動の歴史(西洋)		
6回目			
7回目	福祉領域と関連法		
8回目			
9回目	福祉対象の分野		
10回目			
11回目	社会福祉支援の方法		
12回目			
13回目	社会福祉援助活動における専門性と倫理		
14回目			
15回目	まとめ		
評価方法	原則、毎講義でリアクションペーパーの作成・提出を課します。課題成果物の内容・体裁、講義受講態度および演習の取組などを総合して評価する。 再試験等を行わないので注意してください。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	随時紹介する。		
履修上の注意	PCを必要に応じて持参していただきます。随時、指示します。 医療制度や介護保険の知識は、作業療法・理学療法に携わるうえで密に直結するため、しっかりと理解が必要である。日頃から医療や福祉に関する興味を持つことで時事問題を知ることも必要であるので時事問題には興味をもって履修すること。		

授業科目	障害者支援論	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川 孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	障害者を取り巻く環境と社会参加参画における支援制度等を理解する。		
行動目標	障害者基本法について理解する 障害者総合支援法について理解する。 精神保険福祉法について理解する 各障害を有する方の支援のあり方について理解する		
キーワード	障害 社会参加 支援制度		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション, 障害の概念		
2回目	障害者基本法とその制度		
3回目	身体障害者福祉法による支援制度 概要		
4回目	身体障害者福祉法による支援制度 障害者手帳の役割		
5回目	身体障害者福祉法による支援制度 障害者手帳の申請から交付まで		
6回目	障害者総合支援法(身体障害・精神障害・知的障害)による支援 概要		
7回目	障害者総合支援法(身体障害・精神障害・知的障害)による支援 居宅サービス		
8回目	障害者総合支援法(身体障害・精神障害・知的障害)による支援 施設サービス		
9回目	障害者総合支援法による支援 認定区分の流れ(1)		
10回目	障害者総合支援法による支援 認定区分の流れ(2)		
11回目	精神保健福祉法による支援制度 概要		
12回目	精神保健福祉法による支援制度 病態の理解		
13回目	精神保健福祉法による支援制度 社会資源の活用		
14回目	精神保健福祉法による支援制度 治療から社会参加へ		
15回目	まとめ		
評価方法	定期試験ならびに演習(課題含む)等の受講取組態度を勘案し評価する。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。		
参考書・資料等	随時、参考図書や資料を紹介していく。		
履修上の注意	講義では毎回意見を伺います。事前学習はそれほど必要ではありませんが、実際の障害像をイメージできるよう 動画の視聴内容を参照 し且つ将来の自身の理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義・演習に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。		

授業科目		基礎作業療法総論	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		森田茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法における「作業」の個人的意味を理解し、ひとと作業と環境の相互作用の結果としての作業遂行を考え、個々人における「作業」の意義を考慮し、実践できるように学習する。 種々の作業活動について、作業の遂行、必要な道具・材料、工程等を学ぶ。			
行動目標	①作業療法における「作業」を理解できる。 ②作業療法における「作業」の個人的意味合いを理解できる。 ③人と作業と環境の相互作用を理解できる。 ④作業遂行において必要なものを考えることができる。 ⑤個々人における「作業」の意義を考え、実践する上での基礎知識を理解する。 ⑥作業活動に必要な道具、材料、行程を説明できる。 ⑦作業の特性、体験した作業についての肯定的側面と否定的側面を挙げる事ができる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	～オリエンテーション ひとと作業の関わり			
2回目	作業学総論 作業と個人的意味			
3回目	作業療法における作業の活用の歴史			
4回目	基礎作業療法学各論 <健康と作業>			
5回目	基礎作業療法学各論 <作業分析とは…>			
6回目	基礎作業療法学各論 <作業分析の実施方法について>			
7回目	基礎作業療法学各論 <作業分析のまとめ方、レポート作成>			
8回目	作業の治療への適応 作業をするための理解			
9回目	作業の治療への適応 作業の指導方法			
10回目	作業の治療への適応 activity体験①タイルモザイク			
11回目	作業の治療への適応 activity体験①タイルモザイク			
12回目	作業の治療への適応 activity体験①タイルモザイク			
13回目	作業の治療への適応 activity体験②籐細工			
14回目	作業の治療への適応 activity体験②籐細工			
15回目	作業の治療への適応 activity体験②籐細工			
評価方法	①作業分析に用いた作品の提出(20%) ②作業分析を実施した際のレポート課題の提出(80%) 上記の2点で単位認定を行う。			
教科書	作業学 [作業療法学ゴールドマスターテキスト] 第3版 メディカルビュー社			
参考書・資料等	作業 その治療的応用 改定第2版 協同医書出版社			
履修上の注意	作業療法について学ぶ第一歩の科目となります。 作業療法士が用いる作業とは何か、作業の個人的意味、作業療法の活用と治療への適応と今後の作業療法士教育の基礎となる科目ですので、事前・事後学習および積極的に講義で参加してください。			

授業科目	作業療法研究法Ⅰ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	研究の成果を解釈し、適用していく方法を学ぶ。 将来的な作業療法研究活動の基盤をつくるため、作業療法学研究の方法を学ぶ。		
行動目標	①既に発表されている研究や関連資料を参照し、根拠に基づいて立案できる。 ②研究対象者に対する倫理的配慮について説明できる。 ③研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言等の文献の検索方法を理解し、実践できる。 ④文献レビュー等の研究を、指導を受けながら、計画・実施できる。 ⑤症例報告やケーススタディ、横断的研究、観察研究、実験研究、質的研究等の研究を、指導を受けながら、計画・実施できる。		
キーワード	論文, 文献検索, プレゼンテーション, 統計, 解析, 検定, 抄録		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	研究法を学ぶ意義について		
3回目	臨床倫理と研究倫理について		
4回目	研究の種類とデザインについて		
5回目	研究に必要な手法について		
6回目	信頼性と妥当性、検定について		
7回目	統計方法と解析方法について①		
8回目	統計方法と解析方法について②		
9回目	統計と解析の実践について①		
10回目	統計と解析の実践について②		
11回目	文献の検索方法		
12回目	文献抄録とは(文献抄録作成)		
13回目	抄録・プレゼンテーション(ポスター)作成		
14回目	プレゼンテーション(ポスター)発表		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。授業中の居眠り、声掛けに対して無反応など、授業態度が不良な場合、注意をしても改善が見られない場合は減点する。		
教科書	作業療法研究法 竹田徳則・大浦智子 編著(医歯薬出版)		
参考書・資料等	標準作業療法学 専門分野 作業療法研究法 山田孝 編(医学書院) これから学会発表をする若者のためにーポスターと口頭のプレゼン技術 第2版 酒井聡樹 著(共立出版)		
履修上の注意	確率統計や分析手法、文献の探し方等を中心に授業を進めていきます。 ノートパソコンを使って統計処理を実践しますので、いつでも使用できるように準備をしておきましょう。		

授業科目		作業療法研究法Ⅱ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		吉野 葉月, 大森 圭	オフィスアワー	月～金曜日 9:00～17:20
一般目標	目標に基づいた、対象者にとって効果的な作業を、関連する作業の全ての選択肢の中から選択できる。課題を解決するため、作業とその環境が、対象者のパフォーマンスが最大限となるよう考えられる。研究の成果を解釈し、適用していく方法を学ぶ。			
行動目標	既に発表されている研究や関連資料を参照し、根拠に基づいて作業療法の立案・作製できる。基本的な研究方法の知識をもち、文献・統計資料等を読み、支援を受けながら成果を解釈できる。文献レビュー等の研究を、指導を受けながら、計画・実施できる。自分で考え簡単な自助具を作製できる。実施した作業療法の成果等を文章化できる。			
キーワード		文献抄読、作業・工程分析、作業の治療的応用、症例研究、作業特性、環境調整		
スケジュール				
1回目	オリエンテーション			
2回目	文献から自助具を考える			
3回目	自助具(ソックスエイド)の作成			
4回目	自助具(ソックスエイド)の作成・振り返り			
5回目	オリジナルの自助具の作成計画を立てる			
6回目	オリジナルの自助具の作成			
7回目	作成したオリジナルの自助具の発表			
8回目	七宝焼きの治療的応用について			
9回目	七宝焼き実技(工程確認、作業特性の体験)			
10回目	七宝焼きの作業特性について(振り返り)			
11回目	革細工の作業の治療的応用について			
12回目	革細工実技(工程確認、作業特性の体験)			
13回目	革細工実技(工程確認、作業特性の体験)			
14回目	革細工の作業特性について(振り返り)			
15回目	まとめ			
評価方法	出席率、授業態度(提出課題・小テスト3割)、定期試験7割で判断します。			
教科書	作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業学 第3版 長崎重信 監修 メジカルビュー社			
参考書・資料等	つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版 古川宏 監修 医歯薬出版株式会社 作業 その治療的応用 改訂第2版 日本作業療法士協会編集 協同医書出版社			
履修上の注意	作業療法は実施する際に、患者の疾患や状態だけではなく、場所、使用物品、道具などの環境設定も考慮に入れて適切な作業療法を選択する必要があります。文献を参考に自助具の作成や作業療法の実践を通して、作業療法の意義を考えながら、講義を受けて下さい。			

授業科目		統合作業療法学	履修年次	3年次
			単 位 数	3単位
授業形態		講義・演習	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員		大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	生活行為向上マネジメントの概念のもと。提示された症例の全体像を把握し、現状の能力や生活行為を妨げている要因の分析、それにもとづいた目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法の流れを体験する。			
行動目標	・提示された疾患の基礎知識を自身で調べることが出来る。 ・必要な情報を考え、情報を得ることが出来る。 ・情報収集から得た情報から動作の確認が行える。 ・評価計画の立案、評価の目的・留意点を踏まえ、実施できる。 ・評価結果の仮説の立証と結果の解釈ができる。 ・目標と目標に合わせた治療プログラムが立案できる。			
キーワード				
スケジュール				
1・2・3回目	オリエンテーション、症例提示と調べ学習			
4・5・6回目	基礎・医学的・社会的情報の収集			
7・8・9回目	基本的動作・ADL観察			
10・11・12回目	動作・活動観察からの臨床推論			
13・14・15回目	評価計画の立案			
16・17・18回目	評価目的・留意点の確認、評価実施①			
19・20・21回目	結果の解釈①			
22・23・24回目	評価目的・留意点の確認、評価実施②			
25・26・27回目	結果の解釈②			
28・29・30回目	評価目的・留意点の確認、評価実施③			
31・32・33回目	結果の解釈③			
34・35・36回目	現状の課題と生活行為を妨げている要因の整理			
37・38・39回目	ゴール及びプログラム立案①			
40・41・42回目	ゴール及びプログラム立案②			
43・44・45回目	まとめ			
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。			
教科書	特になし			
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。			
履修上の注意	体験を通して、一連の作業療法思考過程を理解できるよう取り組むこと。			

授業科目	作業療法業務運営管理Ⅰ	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金(8:30～9:20)
一般目標	作業療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。		
行動目標	①作業療法の実施とその対価(診療報酬・介護報酬など)について説明できる。 ②作業療法の実施後の診療記録と書類管理(電子カルテなどを含む)について説明できる。 ③作業療法の実施における他職種との業務調整(処方内容の確認、他職種への申し送り)について説明できる。 ④作業療法の実施に関わるカンファレンスについて説明できる。 ⑤作業療法機器の保守点検・安全管理・配置計画(職場環境デザインを含む)について説明できる。 ⑥人事考課(職員採用・昇格審査など)について説明できる。 ⑦労務管理(勤務時間・休暇管理など)について説明できる。		
キーワード	マネジメント、PDCAサイクル、アクシデント、インシデント、感染対策、ハラスメント		
スケジュール			
1回目	ガイダンス		
2回目	①作業療法におけるマネジメント		
3回目	②組織の成り立ちとマネジメント		
4回目	③情報のマネジメント		
5回目	④作業療法と医療サービス		
6回目	⑤医療安全のマネジメント		
7回目	⑥作業療法業務のマネジメント(1) 人・物・経済性のマネジメント		
8回目	⑦作業療法業務のマネジメント(2) 情報・時間・ストレスのマネジメント		
9回目	⑧作業療法業務のマネジメント(3) 実践からの学び		
10回目	⑨作業療法の役割と職域		
11回目	⑩作業療法の職業倫理		
12回目	⑪作業療法をとりまく諸制度		
13回目	⑫作業療法臨床実習の理解と管理体制		
14回目	⑬作業療法士のキャリア開発		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験、授業態度にて総合的に判断します。		
教科書	指定なし(講義資料は授業ごとに配布)		
参考書・資料等	作業療法管理学入門 第2版、大庭順平 編著、医歯薬出版株式会社		
履修上の注意	・疑問があれば自分で調べる。調べた結果わからないことを質問しましょう。 ・作業療法士として、患者様の評価・治療に関する知識のみではなく、臨床の現場で必要となる業務に関する内容を幅広く学習します。		

授業科目	作業療法業務運営管理Ⅱ	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金(8:30～9:20)
一般目標	作業療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。		
行動目標	1. 作業療法士の職業倫理について説明できる。 2. 倫理原則を厳守して実践できる。 3. 作業療法の生涯学習を理解し、自己研鑽の必要性和方法を説明できる。 4. リハビリテーション組織の管理運営に必要な保健医療福祉制度を理解できる。 5. 内部障害について、十分な知識と理論をもとにリハビリテーションプログラムを提供できるようになる。		
キーワード	マネジメント、疾患別リハビリテーション料、倫理的ディレンマ、ハラスメント、内部障害		
スケジュール			
1回目	ガイダンス		
2回目	①作業療法士の職業倫理	倫理的態度について理解する	
3回目	②作業療法士の職業倫理	道徳的苦悩と倫理的ディレンマについて理解する	
4回目	③作業療法士の職業倫理	作業療法士の職業倫理・研究倫理について理解する	
5回目	④作業療法士の職業倫理	患者、対象者(児)の権利と尊厳について理解する	
6回目	⑤作業療法士の職業倫理	ハラスメントとその防止について理解する	
7回目	⑥作業療法士を取り巻く諸制度	疾患別リハビリテーション(脳血管疾患等リハビリテーション料)	
8回目	⑦作業療法士を取り巻く諸制度	疾患別リハビリテーション(運動器リハビリテーション料)	
9回目	⑧作業療法士を取り巻く諸制度	疾患別リハビリテーション(心大血管疾患リハビリテーション料)	
10回目	⑨作業療法士を取り巻く諸制度	疾患別リハビリテーション(精神科作業療法)	
11回目	⑩作業療法士を取り巻く環境	代表的な内部障害者の症状	
12回目	⑪作業療法士を取り巻く環境	内部障害と作業療法	
13回目	⑫作業療法士を取り巻く環境	内部障害者数の推移	
14回目	⑬作業療法士を取り巻く環境	内部障害における高齢化と重複障害	
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験、授業態度にて総合的に判断します。		
教科書	指定なし(講義資料は授業ごとに配布)		
参考書・資料等	作業療法管理学入門 第2版、大庭順平 編著、医歯薬出版株式会社		
履修上の注意	・疑問があれば自分で調べる。調べた結果わからないことを質問しましょう。 ・作業療法士として、患者様の評価・治療に関する知識のみではなく、臨床の現場で必要となる業務に関する内容を幅広く学習します。		

授業科目		作業療法評価法Ⅰ	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		森田 茂久	オフィスアワー	月～金 :30～17:20
一般目標	作業療法評価について、作業療法及びリハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義の理解を深め、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を習得する。			
行動目標	障害モデルと作業療法評価の関連について説明できる。 臨床的思考決定過程のなかで理学療法評価の目的や意義を説明できる。 ①各検査において適切なオリエンテーションができる。 ②各検査において検査・測定器具を正しく取り扱うことができ、測定肢位を適切に選択することができる。 ③各検査において検査・測定結果を適切に解釈することができる(適切に検査・測定を行うことができる)。 ④各検査において検査・測定方法、検査・測定結果を説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1・2回目	作業療法評価総論、情報収集・面接)			
3・4回目	血圧			
5・6回目	協調性検査			
7・8回目	筋緊張・疼痛検査			
9・10回目	Br-STAGE			
11・12回目	感覚検査			
13・14回目	上肢機能検査			
15・16回目	形態測定			
17・18回目	反射検査(姿勢・腱・病的反射)			
19・20回目	姿勢評価			
21・22回目	ADL評価			
23・24回目	認知機能評価(HDS-R、MMSE)			
25・26回目	作業分析 総論			
27・28回目	作業分析 総論			
29・30回目	まとめ			
評価方法	出席率、授業態度(課題等を含む)、筆記試験を総合して判断します。			
教科書	作業療法評価学 第3版 医学書院 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 南山堂			
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。			
履修上の注意	作業療法を実践するうえで、必要不可欠な科目となります。 クライアントへ検査の目的・方法を説明できるようにするとともに、結果の解釈をしっかりと理解し、実践できるようにしましょう。			

授業科目		作業療法評価学Ⅱ	履修年次	2年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義・演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		大和田淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業の可能にむけた支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。			
行動目標	① 評価の意義と目的について説明できる。 ② 日常生活活動、人が営む生活行為と、それを行うのに必要な心身の活動の分析を実施・説明できる。 ③ 人々ができるようになりたいこと、できる必要があること、できることが期待されていることなど、個別的な目的や価値における、作業の評価について説明・実施できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目/2回目	姿勢制御のバイオメカニクス / 基本動作分析 寝返り動作の分析			
3回目/4回目	基本動作分析 寝返り 指導・介助方法 / 基本動作分析 起き上がり動作の分析			
5回目/6回目	基本動作分析 起き上がり 指導・介助方法 / 基本動作分析 起立・着座の動作の分析			
7回目/8回目	基本動作分析 起立・着座 指導・介助方法 / 基本動作分析 歩行動作の分析			
9回目/10回目	基本動作分析 歩行 指導・介助方法 / 疾患別 動作分析①			
11回目/12回目	疾患別 動作分析② / 疾患別 動作分析③			
13回目/14回目	疾患別 動作分析④ / まとめ			
15回目/16回目	作業療法評価法Ⅰで学んだ知識・技術の確認およびまとめ / 実践的な記録 ～SOAPの記載について～			
17回目/18回目	作業療法思考過程① 事例検討 評価計画の立案 / 作業療法思考過程② 評価結果の統合と解釈			
19回目/20回目	作業療法思考過程③ 焦点化および目標設定 / 作業療法思考過程④ 考察			
21回目/22回目	作業療法思考過程⑤ 作業療法治療計画の立案 / 作業療法思考過程⑥ 事例検討 中枢疾患			
23回目/24回目	作業療法思考過程⑦ 事例検討 中枢疾患 GW / 作業療法思考過程⑧ 事例検討 中枢疾患 GW			
25回目/26回目	作業療法思考過程⑨ 事例検討 中枢疾患 GW / 作業療法思考過程⑩ 事例検討 整形疾患			
27回目/28回目	作業療法思考過程⑪ 事例検討 整形疾患 GW / 作業療法思考過程⑫ 事例検討 整形疾患 GW			
29回目/30回目	作業療法思考過程⑬ 事例検討 整形疾患 GW / まとめ			
評価方法	①定期試験(50%) ②レポートなどの成果物及び発表内容(50%) 上記の2点で複合評価にて行う。			
教科書	作業療法学全書 改定第3版 身体障害 中村隆一著 協同医書出版社 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 長崎重信監修 MEDICAL VIEW			
参考書・資料等	＜資料＞講義時に必要な資料は適宜配布する。 ＜参考書＞随時、紹介する。			
履修上の注意	作業療法思考過程を学ぶ過程である。 グループワークで多面的な考え方を共有し、適切な作業療法実践の為の知識・技術の修得を図るように努力すること。			

授業科目		領域別作業療法評価学Ⅰ	履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態		講義 / 実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		吉野葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神障害を引き起こす主な疾患の病因, 病態生理, 症候, 診断と治療を学ぶ。			
行動目標	① 精神作業療法における対象疾患、精神作業療法について説明できる。 ② 精神作業療法の過程、治療構造について説明できる。 ③ 精神領域における作業療法導入について説明できる。 ④ 児童精神障害の疫学、予後について説明できる。 ⑤ 病因、症候について説明できる。 ⑥ 評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について説明できる。 ⑦ その他の治療(精神療法を含む)について説明できる。			
キーワード	精神遅滞、広汎性、自閉症スペクトラム、ADHD、LD			
スケジュール				
1回目	精神領域における作業療法評価の目的と意義 ～精神作業療法の評価とは～			
2回目	精神領域における作業療法評価① ～作業療法面接・観察法～			
3回目	精神領域における作業療法評価② 面接法の練習			
4回目	精神領域における作業療法評価③ 観察法の練習			
5回目	精神領域における代表的な評価法① 精神障害に使用される評価法の紹介			
6回目	精神領域における代表的な評価法② NPI興味関心リスト、HTP、OSAⅡ、LASMI、VQ、REHAB			
7回目	精神領域における代償的な評価法③ ～代表的な評価を体験しよう～ 模擬体験・GW			
8回目	児童・青年期の精神障害について <精神遅滞、広汎性、自閉症スペクトラム、ADHD、LD…など>			
9回目	広汎性発達障害【自閉症スペクトラム】			
10回目	広汎性発達障害【自閉症スペクトラム】			
11回目	ADHD 診断、病態、特性、活動・参加制約について			
12回目	LD 診断、病態、活動・参加制約について			
13回目	てんかんについて てんかん発作の分類			
14回目	てんかんについて 治療・作業療法			
15回目	まとめ			
評価方法	①出席率 ②授業への積極性(提出物の提出状況や講義内での発言頻度など) ③定期テスト などの総合点で判断する。			
教科書	ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 第3版 長崎重信監修 MEDICAL VIEW 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編著 中央法規			
参考書・資料等	<資料> 講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書> 標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 精神医学 第4版 増補版 OT・PTビジュアルテキスト専門基礎 精神医学			
履修上の注意	精神作業療法治療学、領域別作業療法評価学Ⅰに繋がる重要な科目である。 精神作業療法における基礎的な知識・技術、理論を理解し、作業療法実践の下地を学ぶ為にも、事前・事後学習に努めること。			

授業科目	領域別作業療法評価学Ⅱ	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神科作業療法の評価、目標、プログラムの立案が出来る。		
行動目標	① 精神作業療法における対象疾患、精神作業療法について説明できる。 ② 統合失調症の病態を把握することが出来る。 ③ 評価項目を列挙することが出来る。 ④ 事例の問題点を焦点可することが出来る。 ⑤ 事例に対する治療プログラムの立案が出来る。 ⑥ 治療法について説明できる。(SST、認知行動療法、心理教育) ⑦ 精神科作業療法について説明することが出来る。		
キーワード	統合失調症 気分障害		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	事例検討① 統合失調症 事例の病態把握および課題の列挙		
3回目	事例検討② 統合失調症 事例に対する評価計画の立案		
4回目	事例検討③ 統合失調症 評価結果の提示、ICFへの転嫁		
5回目	事例検討④ 対象者の障害像の理解、障害像の統合と解釈及び言語化(文章化)		
6回目	事例検討⑤ 治療計画の立案・検討 (対象者に適した作業適応)		
7回目	事例検討① 気分障害 事例の病態把握および課題の列挙		
8回目	事例検討② 気分障害 事例に対する評価計画の立案		
9回目	事例検討③ 気分障害 評価結果の提示、ICFへの転嫁		
10回目	事例検討④ 対象者の障害像の理解、障害像の統合と解釈及び言語化(文章化)		
11回目	事例検討⑤ 治療計画の立案・検討 (対象者に適した作業適応)		
12回目	考察及び予後予測について(就労支援含)		
13回目	事例検討		
14回目	事例検討		
15回目	精神作業療法 総括		
評価方法	レポート課題など 適宜レポート課題を提示し、提出期限の厳守、提出率、内容について評価していく。		
教科書			
参考書・資料等	ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 第3版 長崎重信監修 MEDICAL VIEW 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編著 中央法規		
履修上の注意			

授業科目		日常生活活動論	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		大森 圭	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の基本的な実施手順について理解する。			
行動目標	① 生活行為向上マネジメントの背景について説明できる。 ② 生活行為と生活行為の障害について説明できる。 ③ 生活行為向上マネジメントのプロセスについて説明できる。 ④ 生活行為向上マネジメントの各シートの使い方について説明できる。 ⑤ 模擬事例を通して、各シートの記載ができる。			
キーワード	生活行為向上マネジメント, MTDLP, インテーク, アセスメント, プランニング, モニタリング			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション			
2回目	生活行為向上マネジメントの概要			
3回目	生活行為向上マネジメントの考え方			
4回目	生活行為向上マネジメントのプロセス ①インテークにおける内容・流れ			
5回目	生活行為向上マネジメントのプロセス ②情報収集、ICF分析、予後予測、合意形成			
6回目	生活行為向上マネジメントのプロセス ③課題抽出、目標設定			
7回目	生活行為向上マネジメントのプロセス ④プランニングとプランの実施			
8回目	生活行為向上マネジメントのプロセス ⑤モニタリングと計画修正			
9回目	生活行為向上マネジメントの導入事例 ①急性期			
10回目	生活行為向上マネジメントの導入事例 ②回復期			
11回目	生活行為向上マネジメントの導入事例 ③維持期・生活期			
12回目	生活行為向上マネジメントの導入事例 ④発達障害			
13回目	事例検討①			
14回目	事例検討②			
15回目	まとめ			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。授業中の居眠り、声掛けに対して無反応など、授業態度が不良な場合、注意をしても改善が見られない場合は減点する。			
教科書	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 日本作業療法士協会 編著(医歯薬出版株式会社)			
参考書・資料等	参考資料を都度配布します。			
履修上の注意	ICF、ADL、QOL、FIM、BI等の日常生活動作活動の用語を整理しておくことスムーズに理解が進みますので、復習をしておいて下さい。			

授業科目	作業療法演習Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	関節可動域の特徴、決定要素を理解し、安全で疾患に合わせた適切な関節可動域検査を習得する。		
行動目標	基本軸と移動軸、および参考可動域角度を説明できる。 健全人の関節可動域を測定できる。 適切な記録、および学術的資料として活用できる。 関節の機能状態を客観的に把握し、その制限因子を考察できる。 日常生活と関節可動域の関連について説明できる。		
キーワード	関節可動域, 基本軸, 移動軸, 参考可動域, 代償動作		
スケジュール			
1回目	関節運動の基本		
2回目	関節可動域測定の定義と目的		
3回目	肩甲帯(屈曲・伸展、挙上・下制)		
4回目	肩関節(屈曲・伸展、外転・内転)		
5回目	肩関節(外旋・内旋)		
6回目	肩関節(水平屈曲・水平伸展)、肘関節(屈曲・伸展)		
7回目	前腕(回内・回外)、手関節(掌屈・背屈、橈屈・尺屈)		
8回目	股関節(屈曲・伸展、外転・内転)		
9回目	股関節(外旋・内旋)、膝関節(屈曲・伸展)		
10回目	足関節(底屈・背屈)、足部(外転・内転)		
11回目	足部(内がえし・外がえし)、頸部(屈曲・伸展)		
12回目	頸部(側屈、回旋)、胸腰部(屈曲・伸展)		
13回目	胸腰部(側屈、回旋)、母指(橈側外転・尺側内転、掌側外転・掌側内転)		
14回目	手指(屈曲・伸展、外転・内転)、足趾(屈曲・伸展)		
15回目	日常動作と関節可動域		
評価方法	出席率、授業態度(課題等含む)、実技試験、筆記試験にて判断します。		
教科書	作業療法評価学 第3版, 編集:能登 真一 他, 医学書院		
参考書・資料等	授業で使用する資料は随時配布します。 必要な教科書や資料は随時お知らせします。		
履修上の注意	実技の講義の際は、KCを着用し、実習に臨む容姿で受講すること。 各授業のはじめに前回の授業内容の復習の小テストを行います。 授業後に行った内容を復習するようにしましょう。		

授業科目	作業療法演習Ⅱ	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	徒手筋力検査法は運動や行動の基礎的要素としての筋の力と機能を評価する手技を示したものである。徒手筋力テストはセラピストにとって重要な基本手技であり、修得しなければならない技術である。		
行動目標	本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。 ①検査法の理念・原則を十分に理解し説明することができる。 ②想定される患者、対象者に対しテキストに示された手技を実施できる。 ③実習に出た際に与えられた時間内に、速やかに検査を遂行することができる。 ④国家試験に沿った知識の理解を深める。 【行動目標】 徒手筋力検査の目的・判断基準・基本の手順を理解する。代償動作・固定と抵抗など基本的な注意事項を理解する		
キーワード	原則を踏まえた手技の履行 臨床での応用 徒手筋力テスト		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション MMT総論		
2回目	肩甲骨外転と上方回旋、肩甲骨挙上、肩甲骨内転		
3回目	肩甲骨下制と内転、肩甲骨内転と下方回旋、肩甲骨下制		
4回目	肩関節屈曲(前方挙上)、肩関節伸展(後方挙上)、肩関節外転(側方挙上)		
5回目	肩関節水平外転、肩関節水平内転、肩関節外旋		
6回目	肩関節内旋、肘関節屈曲、肘関節伸展		
7回目	前腕回内、前腕回外、手関節屈曲、手関節伸展		
8回目	股関節屈曲、股関節屈曲・外転・および膝関節屈曲位での外旋、股関節伸展		
9回目	股関節外転、股関節内転、股関節外旋、股関節内旋		
10回目	膝関節屈曲、膝関節伸展		
11回目	足関節底屈、足関節背屈ならびに内がえし、足の内がえし、足の底屈を伴う外がえし		
12回目	体幹伸展、骨盤挙上、体幹屈曲		
13回目	体幹回旋、コアテスト		
14回目	手指・脳神経支配筋のテスト		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題等含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	新・徒手筋力検査法【原著第10版】 協同医書出版社		
参考書等・資料			
履修上の注意	準備学習:検査の対象となる筋の理解。特に主要な筋の起始・停止・神経支配は復習しておく。運動障害の要因の一つとして筋力を評価するうえで、テキストを十分に読み込み、臨床実習で使える技術になるように習得してください。授業では毎回白衣を着用。実技を行うにふさわしい状態で臨んでください。詳細はオリエンテーションでお話します。		

授業科目		作業療法演習Ⅲ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		吉野 葉月 ・ 土屋 景子	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神科作業療法について症例を通して理解することが出来る。			
行動目標	①各疾患の事例に興味を持つことが出来る。 ②レクリエーションを実施することが出来る。			
キーワード	摂食障害・パーソナリティ障害			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション			
2回目	摂食障害の作業療法 ①疾患理解(心身機能、活動制限、参加制約) ②拒食症・過食症の理解			
3回目	摂食障害の作業療法 ③基本的治療法 ④作業療法の目的・対応・治療の理解			
4回目	パーソナリティ障害の作業療法 ①パーソナリティ障害の分類(境界型、妄想、シゾイド、反社会性			
5回目	パーソナリティ障害の作業療法 ②パーソナリティー障害の治療介入の基本について			
6回目	パーソナリティ障害の作業療法 ③パーソナリティー障害の治療介入の基本について			
7回目	パーソナリティ障害の作業療法 事例検討			
8回目	SSTの体験			
9回目	BCTの体験			
10回目	COPM			
11回目	面接法			
12回目	レクリエーション計画①【立案】 ～ グループワーク ～			
13回目	レクリエーション計画②【実施】 ～ グループワーク ～			
14回目	レクリエーション計画③【実施】 ～ グループワーク ～			
15回目	レクリエーション計画④【フィードバック】 ～ グループワーク ～			
評価方法	レポート課題など 適宜レポート課題を提示し、提出期限の厳守、提出率、内容について評価していく。			
教科書	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編著 中央法規			
参考書・資料等	ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 第3版 長崎重信監修 MEDICAL VIEW 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編著 中央法規			
履修上の注意				

授業科目	作業療法治療学(発達)	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	正常発達と発達障害の違いと発達障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する。		
行動目標	① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 ② 疾患ごとの予後について説明できる。 ③ 疾患ごとの評価と作業療法について説明・模擬実践できる。		
キーワード	正常発達, 脳性麻痺, 二分脊椎, 先天性疾患		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	発達障害概論(正常発達と発達障害について、発達障害の種類)		
3回目	正常発達における反射反応の消失・統合と運動機能の変遷		
4回目	ライフステージを通じた人間理解と発達過程について		
5回目	発達検査の種類と特徴(遠城寺式、DDST等)		
6回目	脳性麻痺児(痙直型)の発達と問題点		
7回目	脳性麻痺児(痙直型)の評価と治療		
8回目	脳性麻痺児(アトローゼ型)の発達と問題点		
9回目	脳性麻痺児(アトローゼ型)の評価と治療		
10回目	二分脊椎症について		
11回目	進行性筋ジストロフィーについて		
12回目	重症心身障害について		
13回目	骨関節疾患について		
14回目	遺伝子病, 染色体異常, 系統疾患(先天奇形, Down症候群を含む)		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断する。授業中の居眠り、声掛けに対して無反応など、授業態度が不良な場合、注意をしても改善が見られない場合は減点する。		
教科書	発達過程作業療法学 第3版 加藤寿宏 編(医学書院)		
参考書・資料等	イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 監修(医歯薬出版株式会社) 作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学 第3版 長崎重信 監修(メジカルビュー)		
履修上の注意	人間発達学の内容を踏まえた上での講義内容となりますので、人間発達学の授業の復習をしておいて下さい。		

授業科目	作業療法治療学（精神）	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義または演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する		
行動目標	疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 疾患ごとの予後について説明できる。 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。		
キーワード	統合失調症 気分障害 神経症障害 パーソナリティ障害		
スケジュール			
1回目/2回目	① オリエンテーション(この科目についての流れ) /② 治療学の概要		
3回目/4回目	③・④ 症状に即した対応(不安、無為・自閉、退行、妄想、うつ、躁)		
5回目/6回目	⑤・⑥ 症状を含む器質性精神障害		
7回目/8回目	⑦・⑧ 精神作用物質使用による精神および行動の障害		
9回目/10回目	⑨・⑩ 統合失調症 (1)		
11回目/12回目	⑪・⑫ 統合失調症 (2)		
13回目/14回目	⑬・⑭ 統合失調症 (3)		
15回目/16回目	⑮・⑯ 統合失調症 (まとめ)		
17回目/18回目	⑰・⑱ 気分(感情)障害 (1)		
19回目/20回目	⑲・⑳ 気分(感情)障害 (2)		
21回目/22回目	㉑・㉒ 気分(感情)障害 (まとめ)		
23回目/24回目	㉓・㉔ パーソナリティ障害 (1)		
25回目/26回目	㉕・㉖ パーソナリティ障害 (2)		
27回目/28回目	㉗・㉘ パーソナリティ障害 (まとめ)		
29回目/30回目	㉙・㉚ 各疾患のまとめ・確認		
評価方法	①出席率 ②授業への積極性(提出物の提出状況や講義内での発言頻度など) ③定期テスト などの総合点で判断する。		
教科書	ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 第3版 長崎重信監修 MEDICAL VIEW PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 精神医学 羊土社		
参考書・資料等	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編著 中央法規		
履修上の注意	教科書や資料はあるが、各疾患の特徴・治療について、自分でまとめられるようにしておくこと		

授業科目	作業療法治療学(老年期)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(15コマ)
担当教員	土屋	オフィスアワー	月・水・金 12:00～13:30
一般目標	高齢期障害に対する基本的な作業療法について理解する。		
行動目標	①障害特性について説明できる。 ②障害ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。		
キーワード	老年期 作業療法 認知症		
1回目/2回目	高齢期における生理的変化		
3回目/4回目	高齢期障害と疾患・症候・診断治療		
5回目/6回目	高齢期障害と疾患・症候・診断治療		
7回目/8回目	高齢期障害と疾患・症候・診断治療		
9回目/10回目	認知症の作業療法 認知症とは		
11回目/12回目	認知症の作業療法 分類と症状		
13回目/14回目	認知症の作業療法 原因と分類		
15回目/16回目	認知症の作業療法 各種スケール紹介		
17回目/18回目	認知症の作業療法 作業療法の目的		
19回目/20回目	認知症の作業療法 治療的態度と手段		
21回目/22回目	実技演習		
23回目/24回目	事例検討		
25回目/26回目	高齢者の作業療法 廃用症候群・転倒予防		
27回目/28回目	高齢者の作業療法 介護予防		
29回目/30回目	終末期医療の作業療法の理解		
評価方法	テストの成績。 テストは定期テストの他、小テストを実施する。		
教科書	標準作業療法学 高齢期作業療法学 医学書院		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	増え続ける高齢社会で、高齢者が障害を持って生き生きと過ごすことは、どのようなことか、高齢障害者の幸せとは何かを考えながら、評価、プログラムを考えましょう。		

授業科目		作業療法治療学(高次脳機能障害)	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		土屋	オフィスアワー	水曜 9:00～10:30
一般目標	高次脳機能障害に関する基礎知識を習得し、理学療法士・作業療法士として現場で出会う方々の背景を理解できるようになる。			
行動目標	・高次脳機能障害の病態について説明できる。 ・高次脳機能障害を持つ方々との関わり方がイメージできる。 ・高次脳機能障害の対する作業療法を学ぶ。			
キーワード	精神疾患			
スケジュール				
1回目	ガイダンス この科目の進め方と心構え			
2回目	高次脳機能障害とは			
3回目	意識・注意、感情障害への介入			
4回目	失認と関連症候			
5回目	半側空間無視(病態と責任病巣)			
6回目	半側空間無視(評価と治療)			
7回目	失行(病態と責任病巣)			
8回目	失行(評価と治療)			
9回目	注意障害			
10回目	記憶障害			
11回目	遂行機能障害			
12回目	外傷性脳損傷による高次脳機能障害(病態)			
13回目	外傷性脳損傷による高次脳機能障害(症状と評価・介入)			
14回目	症例による評価方法の違いと解釈			
15回目	この科目の総まとめ			
評価方法	定期テストの成績。 テストは定期テストの他、小テストを実施する。			
教科書	参考資料： 作業療法学 高次脳機能作業療法学 (医学書院)			
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。			
履修上の注意	高次脳機能障害という症状は、外見からは「見えにくい症状」です。「見えているのに、なぜわからないのか」「なぜうまくできないのか」という「高次脳機能障害」について理解し、治療と一緒に考えていきましょう。			

授業科目	作業療法治療学(内部疾患)	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金(8:30～9:20)
一般目標	内部障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。		
行動目標	①それぞれの疾患の疫学、予後について説明できる。 ②病因、症候について説明できる。 ③検査(画像・生理検査を含む)、診断について説明できる。 ④それぞれの一般的疾患について説明できる。 ⑤疾患ごとの評価と作業療法プログラムを立案できる。		
キーワード	COPD、間質性肺炎、心筋梗塞、狭心症、大動脈瘤、糖尿病、腎不全、がん		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 内部障害総論		
2回目	①呼吸器疾患(解剖学・生理学)		
3回目	①呼吸器疾患(知識・検査データ・治療)		
4回目	①呼吸器疾患(障害評価と作業療法プログラム)		
5回目	②循環器疾患(解剖学・生理学)		
6回目	②循環器疾患(知識・検査データ・治療)		
7回目	②循環器疾患(障害評価と作業療法プログラム)		
8回目	③代謝障害(解剖学・生理学)		
9回目	③糖尿病(知識・検査データ・治療)		
10回目	③糖尿病(障害評価と作業療法プログラム)		
11回目	③腎不全(知識・検査データ・治療)		
12回目	③腎不全(障害評価と作業療法プログラム)		
13回目	④がん(知識・検査データ・治療)		
14回目	④がん(障害評価と作業療法プログラム)		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験、小テスト、授業態度にて総合的に判断します。		
教科書	指定なし(講義資料は授業ごとに配布)		
参考書・資料等	・イラストでわかる内部障害、上杉雅之 監修、堀江淳 編集、医歯薬出版株式会社 ・身体障害作業療法学2 内部疾患編 第1版、小林隆司 編集、羊土社 ・内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝、石川明 種村留美 総編集 野田和恵 総編集、中山書店 ・動画でわかる呼吸リハビリテーション第5版、高橋仁美 宮川哲夫 塩谷隆信 編集、中山書店 ・作業療法士のための呼吸ケアとリハビリテーション 第2版、石川朗 監修 仙石泰仁 編集、中山書店 ・緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション、島崎寛将 他 編集、中山書店 ・作業療法技術ガイド第4版、石川齊 古川宏 編集主幹、文光堂		
履修上の注意	授業の理解には、解剖学・生理学・内科学の知識が必須です。予習・復習を行いましょう。		

授業科目		作業療法治療学 中枢神経	履修年次	2年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		森田 茂久 ・ 大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	①身体障害分野において対象となる疾患の病態・特徴・関連して現れる症状を理解する。 ②病態から必要となる評価とその意味を知り、治療・訓練へのアプローチなど作業療法実施における過程を知る。			
行動目標	① 疫学、予後について説明できる。 ② 病因、症候について説明できる。 ③ 評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について説明できる。 ④ リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤ その他の治療について説明できる。			
キーワード	変性疾患 難病 画像所見(T1・T2・MRI)			
スケジュール				
1回目／2回目	ギラン-バレー症候群(GBS)の病態・特徴および医学的治療と作業療法との関連について			
3回目／4回目	多発性硬化症(MS)の病態・特徴および医学的治療と作業療法との関連について			
5回目／6回目	重症筋無力症(MG)における病態・特徴および医学的治療と作業療法との関連について			
7回目／8回目	パーキンソン病(PD)の医学的治療と作業療法との関連について			
9回目／10回目	パーキンソン病(PD)における評価、作業療法目標、作業療法治療の過程について			
11回目／12回目	脊髄小脳変性症(SCD)の医学的治療と作業療法との関連につい			
13回目／14回目	筋萎縮性側索硬化症(ALS)の医学的治療と作業療法との関連について			
15回目／16回目	変性疾患・難病まとめ / 脳血管疾患の病態、障害像について①(病型と臨床症状)			
17回目／18回目	脳血管疾患の病態、障害像について②、画像(CT、MRI等)／脳血管疾患の病態・特徴および医学的治療			
19回目／20回目	脳血管疾患の評価・作業療法目標・作業療法治療の過程について／外傷性脳損傷の病態・分類・特徴について			
21回目／22回目	外傷性脳損傷の医学的治療と作業療法との関連について／腫瘍の病態・特徴について			
23回目／24回目	腫瘍の医学的治療と作業療法との関連について／てんかん・視覚障害・聴覚障害の病態・特徴について			
25回目／26回目	てんかん・視覚障害・聴覚障害の関連について／ケーススタディ①			
27回目／28回目	ケーススタディ②／ケースステディ③			
29回目／30回目	ケーススタディ④／まとめ			
評価方法	①定期試験 ②小テストなどの成果物 上記の2点で複合評価にて行う。			
教科書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 編集 山口 昇、玉垣 努 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 長崎重信監修 MEDICAL VIEW			
参考書・資料等	<資料>講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書>随時、紹介する。			
履修上の注意	作業療法治療を理解する上において、各疾患の知識が必要不可欠である。 疾病について事前・事後学習に努めること。			

授業科目		作業療法治療学 骨関節	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		森田茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	整形疾患(骨折、関節疾患、末梢神経損傷、腱損傷など)の原因、病理、症状を理解し、作業療法評価および治療の選択ができる。			
行動目標	① 疫学、予後について理解・説明できる。 ② 病因、症候について理解・説明できる。 ③ 評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について理解・説明できる。 ④ リハビリテーション医療について理解・説明できる。 ⑤ その他の治療について理解・説明できる。 ⑥ 骨関節障害の一般的疾患について理解・説明できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	末梢神経障害① 解剖生理・新駆支配、各神経損傷の病態、病理、分類			
2回目	末梢神経障害② 各神経損傷の評価と治療、各種検査方法と評価の手順			
3回目	末梢神経障害③ 各神経損傷の評価と治療、各種検査方法と評価の手順			
4回目	骨折① 定義、分類、治癒過程、合併症、二次的障害の発生機序と対処			
5回目	骨折② 定義、分類、治癒過程、合併症、二次的障害の発生機序と対処			
6回目	骨折③ 高齢者の3大骨折の病態、評価、治療について			
7回目	骨折④ 高齢者の3大骨折の病態、評価、治療について			
8回目	関節リウマチ① 機能障害と生活障害、病態と症状			
9回目	関節リウマチ② 評価と治療、各種検査と評価の手順			
10回目	退行性疾患① 変形性膝関節症 病態・評価・治療			
11回目	退行性疾患② 頸椎症性脊髄症 病態、症状、評価と治療			
12回目	手外科疾患 屈筋腱損傷① 機能解剖、病態、症状、合併症			
13回目	手外科疾患 屈筋腱損傷② 評価と治療、各種検査と評価の手順			
14回目	肩関節疾患① 腱板損傷 機能解剖と病態、症状、治癒過程			
15回目	肩関節疾患② 腱板損傷 評価と治療、各種検査と評価の手順			
評価方法	定期試験の結果にて単位認定を行う。			
教科書	作業療法学全書 改定第3版 身体障害 中村隆一著 協同医書出版社 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 長崎重信監修 MEDICAL VIEW			
参考書・資料等	<資料>講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書>随時、紹介する。			
履修上の注意	この科目を学修する上で整形外科学Ⅰ・Ⅱの知識は必須である。講義に参加するにあたり、しっかりと復習に努めたい。近年、作業療法士においても整形疾患の患者・ご利用者様を担当する機会も増えており、臨床実習においても関わる機会がある為、積極的な参加を心掛けたい。			

授業科目	日常生活活動学演習Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	あたり前に行っている日常生活活動には多くの行程が含まれていることを理解し、障害を持つことでどのような事が困難となり、支援が必要となるかを作業療法士としての視点で考える。		
行動目標	1.人が生活を行う上での日常生活活動の役割を理解する。 2.ADLに対するOTの役割を理解する。 3.各ADL動作に必要な心身機能を理解する。 4.各ADLの行程を理解する。 5.実技を通して環境要因の重要性を理解する。 6.IADLに対するOTの役割を理解する。		
キーワード	基本動作、ADLとIADL、QOL、ICF		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	身辺処理 起居動作とは…		
3回目	移乗動作とは…		
4回目	移動動作とは…		
5回目	食事動作とは…		
6回目	排泄動作とは…		
7回目	コミュニケーション・健康管理とは…		
8回目	整容動作とは…		
9回目	入浴動作とは…		
10回目	更衣動作とは…		
11回目	日常関連生活動作とは		
12回目	ICFについて		
13回目	参加・活動とは…		
14回目	症例紹介 ～ICFを活用して～		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	作業療法学全書 日常生活動作 改定第3版		
参考書・資料等	配布資料、その他、適宜指示する。		
履修上の注意	1つ1つの動作を行いながら理解し、OTとしてそれを専門用語を使用しながら説明できるように心がけてください。		

授業科目	日常生活活動学演習Ⅱ	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	日常生活活動(手段的日常生活動作を含む)に対する基本的な作業療法について理解する。		
行動目標	① 日常生活活動・手段的日常生活動作の概念について説明できる。 ② 日常生活活動・手段的日常生活動作の評価について説明できる。 ③ 日常生活活動(手段的日常生活動作を含む)における作業別の支援について説明できる。		
キーワード	FIM, BI, ADL, IADL, QOL, 基本動作, 介助方法, 環境評価		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	ADLとIADLの関係		
3回目	ADL・IADLの評価、BI・FIMの違いについて		
4回目	FIMの概要(評価項目、評価基準)		
5回目	FIM実践①(運動項目の評価基準)		
6回目	FIM実践②(認知項目の評価基準)		
7回目	FIM実践③事例検討		
8回目	BIの概要と実践(事例検討を中心に)		
9回目	FIM・BI以外のADL・IADLの評価スケール		
10回目	起居動作の阻害因子と支援するポイント		
11回目	移動動作の阻害因子と支援するポイント		
12回目	移乗動作の阻害因子と支援するポイント		
13回目	片麻痺患者の基本動作における阻害因子と支援のポイント		
14回目	環境評価と介助・支援のポイント		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。授業中の居眠り、声掛けに対して無反応など、授業態度が不良な場合、注意をしても改善が見られない場合は減点する。		
教科書	日常生活活動・社会生活行為学 初版 濱口豊太 編(医学書院)		
参考書・資料等	作業療法学全書 改訂第3版 第11巻 作業療法技術学3 日常生活活動 日本作業療法士協会 監修(協同医書出版社) 作業療法評価学 第3版 能登真一 他 編(医学書院)		
履修上の注意	日常生活活動学演習Ⅰで学んだFIMやBIについての理解をさらに深掘りしていきます。FIMやBIの基本的な内容を復習しておいて下さい。		

授業科目	日常生活活動学演習Ⅲ	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	住環境整備と福祉用具に関わる基本的な制度や作業療法について理解する。		
行動目標	① 地域における住環境整備の意義と作業療法の視点について説明できる。 ② 主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる ③ 簡単な自助具を作成できる。 ④ 福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる。		
キーワード	福祉用具, ノーマライゼーション, バリアフリー, ユニバーサルデザイン, 住環境整備		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	生活環境における日本家屋の特徴について		
3回目	ノーマライゼーションとバリアフリー及び関連諸制度について		
4回目	住環境整備の意義と導入について		
5回目	住環境整備のポイント		
6回目	様々な福祉用具の使用方法、活用例とその適合性について		
7回目	ADL/IADLにおける環境調整と実践①		
8回目	ADL/IADLにおける環境調整と実践②		
9回目	ADL/IADLにおける環境調整と実践③		
10回目	能力レベルに応じた住環境整備について(CVA)		
11回目	能力レベルに応じた住環境整備について(脊髄損傷)		
12回目	能力レベルに応じた住環境整備について(リウマチ)		
13回目	能力レベルに応じた住環境整備について(老年期(認知症))		
14回目	事例検討 事例に合わせた住宅改修や福祉用具について		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(提出課題・小テスト3割)、筆記試験7割にて判断します。		
教科書	日常生活活動・社会生活行為学 初版 濱口豊太 編(医学書院)		
参考書・資料等	福祉住環境コーディネーター検定試験2級 重要項目 成田すみれ 監修(成美堂出版) 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト 改訂5版 東京商工会議所 著(東商サポート&サービス)		
履修上の注意	日常生活活動学演習Ⅰ・Ⅱの内容を復習しながら、より細かな知識を学びます。 日常生活活動学演習Ⅰ・Ⅱの教科書や授業資料を見直せるように整理しておいて下さい。		

授業科目		義肢学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		豊田 輝	オフィスアワー	
一般目標	義肢の基本となる理論などを理解するとともに各切断に応じた義肢の名称・機能・適応について理解し，理学療法士・作業療法士として必要な評価および治療に必要な事項を習得する。			
行動目標	各切断高位に応じた義肢の特徴を説明できる。 切断者に対する評価の目的を説明できる。 切断者に対する評価を実施できる。 義足のアライメント調整ができる。 切断者に対するプログラムが立案できる。			
キーワード	切断者・義肢・アライメント			
スケジュール				
1回目	義肢学総論(歴史，切断原因，切断高位と切断術など)			
2回目	切断者の評価(全体的評価)			
3回目	断端管理法(目的，利点と欠点など)			
4回目	大腿義足ソケット			
5回目	大腿義足ソケット			
6回目	膝義足			
7回目	膝継手・足継手			
8回目	大腿義足・膝義足アライメント			
9回目	下腿義足ソケット			
10回目	下腿義足ソケット			
11回目	サイム義足・足部義足			
12回目	下腿義足・サイム義足アライメント			
13回目	股義足ソケット・股義足アライメント			
14回目	切断者に対するプログラム			
15回目	上肢切断のリハビリテーション			
評価方法	筆記試験(100点)			
教科書	義肢・装具学 ―異常とその対応がわかる動画付き、出版社名：羊土社、監修高田治実、編集豊田輝、石垣栄			
参考書・資料等				
履修上の注意	適宜、実技練習を行うことがあるため、実習ができる服装で受講すること。その他、「切断者の評価」コマでは、テープメジャー等を持参すること			

授業科目	装具学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田	オフィスアワー	月～金 :30～17:20
一般目標	装具の使用目的や方法・注意点を理解する。		
行動目標	①装具・各種部品の名称や特徴の理解 ②疾患別装具療法の理解 ③靴型装具や車椅子・杖の理解 ④装具の給付制度の理解		
キーワード	各種装具の特徴・特性 装具療法 給付制度		
スケジュール			
1回目	装具学総論		
2回目	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト		
3回目	脳卒中片麻痺の装具		
4回目	足継手の制御機構		
5回目	短下肢装具装着における歩行分析		
6回目	脳卒中患者の装具療法の実際		
7回目	整形外科装具		
8回目	脊柱側弯症の装具、小児疾患の装具		
9回目	上肢装具～末梢神経障害・関節リウマチ等～①		
10回目	上肢装具～末梢神経障害・関節リウマチ等～②		
11回目	対麻痺の装具		
12回目	頸椎・胸腰椎疾患の装具		
13回目	車いす・杖・歩行器等		
14回目	靴型装具・義肢装具の給付制度		
15回目	まとめ		
評価方法	①筆記試験 80% ②小テスト 20% 上記の2点で、複合評価にて行う。		
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 単行本 羊土社		
参考書・資料等	適宜、配布します。		
履修上の注意	実際の装具を装着体験してもらうことがあります。数やサイズに限りがあるため、全員に装着してもらうことは難しいですが、動きやすい服装(私服で可)をお願いします。		

授業科目		作業療法特論	履修年次	3年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	国家試験に臨むにあたり、今まで学修してきた内容について、総復習を図る。			
行動目標	・自身の苦手の分野について把握する。 ・十分に理解できている分野と理解できていない分野を明確にする。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	国家試験対策①			
2回目	国家試験対策②			
3回目	国家試験対策③			
4回目	国家試験対策④			
5回目	国家試験対策⑤			
6回目	国家試験対策⑥			
7回目	国家試験対策⑦			
8回目	国家試験対策⑧			
9回目	国家試験対策⑨			
10回目	国家試験対策⑩			
11回目	国家試験対策⑪			
12回目	国家試験対策⑫			
13回目	国家試験対策⑬			
14回目	国家試験対策⑭			
15回目	国家試験対策⑮			
評価方法	筆記試験(100点)			
教科書				
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。			
履修上の注意	休まずに受講すること			

授業科目	地域リハビリテーションⅠ	履修年次	3年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 地域リハビリテーションについて理解する。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割りについて理解する。		
行動目標	1. 地域リハビリテーションの理念などについて学ぶ。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割りについて学ぶ。 3. 介護保険における理学療法士としてのアプローチについて学ぶ。		
キーワード	医療保険、介護保険、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション		
スケジュール			
1回目	地域リハビリテーションの考え方と関連する制度の変遷		
2回目	医療保険制度および介護保険制度の中での地域リハビリテーション		
3回目	地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション		
4回目	地域支援事業での理学療法士の役割りと事業企画の方法		
5回目	地域リハビリテーションにおける関連職種の理解と安全管理		
6回目	介護保険下における理学療法		
7回目	介護予防とリハビリテーション介入		
8回目	住環境整備と理学療法士		
9回目	住環境整備演習		
10回目	障害者スポーツ①		
11回目	障害者スポーツ②		
12回目	地域リハビリテーションの実際 ①認知症および精神領域		
13回目	地域リハビリテーションの実際 ②発達障害、慢性呼吸不全		
14回目	地域リハビリテーションの実際 ③口腔・嚥下機能低下、ターミナル		
15回目	地域リハビリテーションの実際 ④進行性難病、重度心身障害		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト(南江堂)		
参考書・資料等	1. 理学療法学テキスト 地域理学療法学(メディカルビュー) 2. 最新理学療法学講座 地域理学療法学(医歯薬出版) 3. 利用者から学ぶ福祉住環境整備(三輪書店)		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、基本、毎回到小テストを行います。 2. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目		地域リハビリテーション論Ⅱ	履修年次	3年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	地域に根差したリハビリテーションを実践する上で必要となる理論的枠組みと知識をこれまでの歴史を踏まえ学習する。			
行動目標	・地域での作業療法士の役割を理解できる。 ・地域で生活するために必要な制度について理解できる。 ・地域包括ケアシステムの概要と役割が理解できる。 ・訪問リハビリの内容と役割を理解できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	精神障害者における地域作業療法の役割			
2回目	精神障害者における地域支援の実際① 訪問作業療法			
3回目	精神障害者における地域支援の実際② 事例検討 グループワーク			
4回目	精神障害者における地域支援の実際③ 事例発表			
5回目	精神障害者における地域支援の実際④ 認知症デイケア			
6回目	精神障害者における地域支援の実際⑤ 事例検討			
7回目	精神障害者における地域支援の実際⑥ 事例発表			
8回目	事例検討 補足・情報共有。			
9回目	障害者総合福祉法、障害者手帳、障害者年金			
10回目	職業リハビリテーションと作業療法			
11回目	精神障害者の働き方と社会復帰			
12回目	精神障害者の就労支援			
13回目	事例検討 統合失調症の就労支援			
14回目	事例検討 気分障害の就労支援			
15回目	事例検討 神経症性の就労支援			
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。			
教科書	ゴールドマスターテキスト 地域作業療法・作業療法概論 メディカルビュー			
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。			
履修上の注意				

授業科目	生活環境学	履修年次	
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金沢善智	オフィスアワー	月～水 9:00～17:00
一般目標	1. 生活環境学における理学療法士・作業療法士の役割りについて理解する。 2. 生活環境整備に必要なチームアプローチについて理解する。		
行動目標	1. 生活環境学における理学療法士・作業療法士の役割りについて学ぶ。 2. 障害や動作能力の違いに合わせた住環境整備について学ぶ。 3. 生活環境整備に必要なチームアプローチについて学ぶ。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	障害のとらえ方としてのICIDHとICF		
2回目	日本の生活環境の特徴と課題		
3回目	生活環境整備に関わる法律について		
4回目	生活環境整備の進め方とチームアプローチ		
5回目	生活環境整備の実際 ①玄関・アプローチ・廊下・階段		
6回目	生活環境整備の実際 ②トイレ・浴室		
7回目	生活環境整備の実際 ③台所・居間・寝室		
8回目	疾患別生活環境整備 ①CVA		
9回目	疾患別生活環境整備 ②パーキンソン病		
10回目	疾患別生活環境整備 ③脊髄損傷		
11回目	疾患別生活環境整備 ④関節リウマチ、変形性関節症		
12回目	基本的な建築図面の読み方		
13回目	まちづくりに関する障害者施策および配慮		
14回目	生活環境整備演習 ①CVA、杖歩行		
15回目	生活環境整備演習 ②CVA、車いす		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. 生活環境学テキスト、南江堂		
参考書・資料等	1. 福祉環境コーディネーター検定試験2級テキスト、東京商工会議所 2. 利用者から学ぶ福祉住環境整備、三輪書店		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、基本、毎回到小テストを行います。 2. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目		臨床実習Ⅰ（見学）	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		実習	必要時間数	45時間（23コマ）
担当教員		森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法が実践されている現場や関連職種との関わりを見学し、一連の業務の内容を理解する。			
行動目標	医療職としてのマナーや倫理観を学び、専門職として意欲的に取り組む姿勢を習得する。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	実習前オリエンテーション及び実習後の報告会。 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の下、 臨床実習（見学）を行う。 レポート等の課題は必要に応じて、課される物とする。			
2回目				
3回目				
4回目				
5回目				
6回目				
7回目				
8回目				
9回目				
10回目				
11回目				
12回目				
13回目				
14回目				
15回目				
評価方法	出席率、授業態度、事前準備状況、実習施設における態度、報告会にて判断します。			
教科書				
参考書・資料等	臨床実習の手引き			
履修上の注意				

授業科目	臨床実習Ⅱ（地域）	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間（23コマ）
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床における作業療法士の役割を地域実習を通して、包括的に体験する。 また、医療従事者としての基本的態度を学ぶ。		
行動目標	地域での作業療法士の役割を理解する。 訪問リハビリの内容と役割を理解できる。 各疾患を例に、地域での支援を理解し、その選択が行える。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導の下、臨床地域実習を行う。 臨床実習報告書を毎日指導者へ提出し、レポート等は必要に応じて課される。		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	臨床実習指導者による評価と内容、学内での臨床地域実習報告会の発表内容、実習中の課題等の内容を総合的に評価する。		
教科書	特に無し。		
参考書・資料等	臨床実習の手引き		
履修上の注意			

授業科目		臨床評価実習(身体・精神)	履修年次	2年次
			単 位 数	6単位
授業形態		実習	必要時間数	270時間(135コマ)
担当教員		森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床での評価技術を6週間の実習を通して、包括的に体験する。			
行動目標	CCSIによる指導方法の下、見学・模倣・実施とCEの作業療法の思考・実践過程を体験する。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	実習期間:6週間 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学 修等を含めて45時間以内とする。 <内容> 1. 臨床評価実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で6週間の臨床評価実習を行う。 3. 臨床評価実習後オリエンテーション			
2回目				
3回目				
4回目				
5回目				
6回目				
7回目				
8回目				
9回目				
10回目				
11回目				
12回目				
13回目				
14回目				
15回目				
評価方法	本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導の下で、臨床評価実習を行う。 臨床評価実習報告書を毎日指導者へ提出及びレポート等の課題は必要に応じて課される。			
教科書	特になし。			
参考書・資料等	臨床実習の手引き			
履修上の注意				

授業科目		臨床総合実習(身体・精神)	履修年次	3年次
			単 位 数	12単位
授業形態		実習	必要時間数	540時間(270コマ)
担当教員		森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法評価および治療技術を6週間×2回の臨床総合実習を通して、包括的に体験し習得する。			
行動目標	CCSIによる指導方法の下、見学・模倣・実施とCEの作業療法の思考・実践過程を体験・実施できる。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	実習期間:6週間×2回 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学 修等を含めて45時間以内とする。 ＜内容＞ 1. 臨床総合実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で6週間の臨床総合実習を行う。 3. 臨床総合実習後オリエンテーション			
2回目				
3回目				
4回目				
5回目				
6回目				
7回目				
8回目				
9回目				
10回目				
11回目				
12回目				
13回目				
14回目				
15回目				
評価方法	本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導の下で、臨床評価実習を行う。 臨床評価実習報告書を毎日指導者へ提出及びレポート等の課題は必要に応じて課される。			
教科書	特になし			
参考書・資料等	臨床実習の手引き			
履修上の注意				

授業科目		臨床評価実習セミナー	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床評価実習において得られた多くの体験や情報を整理し、これまで学内で学んできた知識の結び付けを図る。			
行動目標	・臨床評価実習で得られた体験や情報をしっかりと整理し、他の学生と共有できるようにする。 ・他の学生から得られた情報や経験を受け止め、自身に昇華できるようにする。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	臨床評価実習後、得られてきた多くの体験、情報を整理し、学年全体で共有を図る。 また、これらの体験や情報をグループでまとめ、発表しフィードバックを行う。			
2回目				
3回目				
4回目				
5回目				
6回目				
7回目				
8回目				
9回目				
10回目				
11回目				
12回目				
13回目				
14回目				
15回目				
評価方法	出席、授業態度、発表内容など、総合的に判断します。			
教科書	特に無し			
参考書・資料等	特に無し			
履修上の注意				

授業科目		臨床総合実習セミナー	履修年次	3年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床総合実習において得られた多くの体験や情報を整理し、これまで学内で学んできた知識の結び付けを図る。			
行動目標	・臨床評価実習で得られた体験や情報をしっかりと整理し、他の学生と共有できるようにする。 ・他の学生から得られた情報や経験を受け止め、自身に昇華できるようにする。			
キーワード				
スケジュール				
1回目	臨床評価実習後、得られてきた多くの体験、情報を整理し、学年全体で共有を図る。 また、これらの体験や情報をグループでまとめ、発表しフィードバックを行う。			
2回目				
3回目				
4回目				
5回目				
6回目				
7回目				
8回目				
9回目				
10回目				
11回目				
12回目				
13回目				
14回目				
15回目				
評価方法	出席、授業態度、発表内容など、総合的に判断します。			
教科書	特になし			
参考書・資料等	特になし			
履修上の注意				